山口大学大学院東アジア研究科
博士論文

談話におけるフィラー待遇の研究

―「ま(ー)」と「なんか」について―

平成 28 年 3 月

魏春娥

目　次

第 1 章　はじめに …… 1

1.1　研究動機 …… 1

1.2　本論文の構成 …… 2

第 2 章　先行研究 …… 3

2.1　談話について …… 3

2.2　フィラーについて …… 3

2.3　「ま(ー)」について …… 4

2.4　「なんか」について …… 5

2.5　「ま(ー)」と「なんか」の関連付け …… 5

2.6　待遇について …… 6

第 3 章　フィラーの定義 …… 7

3.1　先行研究におけるフィラーの定義 …… 7
3.1.1　「遊び言葉」 …… 7
3.1.2　「Hesitation」 …… 7
3.1.3　「言いよどみ」 …… 7
3.1.4　「心的操作標識」 …… 8
3.1.5　「フィラー」 …… 8

3.2　本研究におけるフィラーの定義 …… 8

第 4 章　本論文の目的と方法論 …… 10

4.1　本論文の目的 …… 10

4.2　本論文の研究方法 …… 10
4.2.1　調査方法 …… 10

4.2.1.1　会話調査の実施 …… 11
4.2.1.2　会話調査のデータの詳細 …… 11
4.2.2　データの表記方法 …… 11

第 5 章　「ま(ー)」の記述 …… 13

5.1　【会話 1】における話者 YF2 の「ま(ー)」 …… 14
5.1.1　「ま(ー)」の分布 …… 14
5.1.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 14
5.1.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 14
5.1.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 16
5.1.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 18
5.1.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 19
5.1.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 19
5.1.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 20
5.1.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 20
5.1.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 20
5.1.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 20
5.1.2　まとめ …… 21

5.2　【会話 2】における話者 YF2 の「ま(ー)」 …… 23
5.2.1　「ま(ー)」の分布 …… 23
5.2.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 23
5.2.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 23
5.2.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 27
5.2.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 31
5.2.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 31
5.2.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 31
5.2.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 33
5.2.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 33
5.2.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 34
5.2.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 35
5.2.2　まとめ …… 35

5.3　【会話 3】における話者 YF3 の「ま(ー)」 …… 37
5.3.1　「ま(ー)」の分布 …… 37
5.3.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 37
5.3.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 37
5.3.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 38
5.3.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 38

5.3.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 38
5.3.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 39
5.3.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 39
5.3.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 39
5.3.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 39
5.3.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 39
5.3.2　まとめ …… 39

5.4　【会話 4】における話者 YF3 の「ま(ー)」 …… 41
5.4.1　「ま(ー)」の分布 …… 41
5.4.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 41
5.4.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 41
5.4.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 43
5.4.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 43
5.4.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 43
5.4.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 44
5.4.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 44
5.4.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 44
5.4.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 44
5.4.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 44
5.4.2　まとめ …… 44

5.5　【会話 3】における話者 YF4 の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1　「ま(ー)」の分布 …… 46
5.5.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 46
5.5.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 46
5.5.2　まとめ …… 47

5.6　【会話 5】における話者 YF4 の「ま(ー)」 …… 48
5.6.1　「ま(ー)」の分布 …… 48
5.6.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 48
5.6.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 48

5.6.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 48
5.6.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 48
5.6.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 48
5.6.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 48
5.6.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 48
5.6.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 48
5.6.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 49
5.6.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 49
5.6.2　まとめ …… 49

5.7　【会話 6】における話者 YF5 の「ま(ー)」 …… 51
5.7.1　「ま(ー)」の分布 …… 51
5.7.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 51
5.7.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 51
5.7.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 51
5.7.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 51
5.7.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 52
5.7.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 52
5.7.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 52
5.7.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 52
5.7.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 52
5.7.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 52
5.7.2　まとめ …… 52

5.8　【会話 7】における話者 YF5 の「ま(ー)」 …… 54
5.8.1　「ま(ー)」の分布 …… 54
5.8.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 54
5.8.1.1.1　句間の「ま(ー)」 …… 54
5.8.1.1.2　節間の「ま(ー)」 …… 57
5.8.1.1.3　文間の「ま(ー)」 …… 59
5.8.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 59
5.8.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」 …… 59
5.8.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」 …… 60
5.8.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」 …… 60
5.8.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」 …… 60
5.8.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」 …… 60
5.8.2　まとめ …… 60

第 6 章　「なんか」の記述 …… 62

6.1 【会話 1】における話者 YF2 の「なんか」 …… 62
6.1.1 「なんか」の分布 …… 62
6.1.1.1 統語的な「なんか」 …… 62
6.1.1.1.1 句間の「なんか」 …… 63
6.1.1.1.2 節間の「なんか」 …… 65
6.1.1.1.3 文間の「なんか」 …… 67
6.1.1.2 談話的な「なんか」 …… 68
6.1.1.2.1 主題直後の「なんか」 …… 68
6.1.1.2.2 質問直後の「なんか」 …… 69
6.1.1.2.3 肯定直後の「なんか」 …… 69
6.1.1.2.4 否定直後の「なんか」 …… 70
6.1.1.2.5 思索直後の「なんか」 …… 71
6.1.2 まとめ …… 72

6.2 【会話 2】における話者 YF2 の「なんか」 …… 74
6.2.1 「なんか」の分布 …… 74
6.2.1.1 統語的な「なんか」 …… 74
6.2.1.1.1 句間の「なんか」 …… 74
6.2.1.1.2 節間の「なんか」 …… 75
6.2.1.1.3 文間の「なんか」 …… 76
6.2.1.2 談話的な「なんか」 …… 76
6.2.1.2.1 主題直後の「なんか」 …… 76
6.2.1.2.2 質問直後の「なんか」 …… 77
6.5.1.2.3 肯定直後の「なんか」 …… 77
6.2.1.2.4 否定直後の「なんか」 …… 78
6.2.1.2.5 思索直後の「なんか」 …… 78
6.2.2 まとめ …… 78

6.3 【会話 3】における話者 YF3 の「なんか」 …… 80
6.3.1 「なんか」の分布 …… 80
6.3.1.1 統語的な「なんか」 …… 80
6.3.1.1.1 句間の「なんか」 …… 80
6.3.1.1.2 節間の「なんか」 …… 86
6.3.1.1.3 文間の「なんか」 …… 88
6.3.1.2 談話的な「なんか」 …… 90
6.3.1.2.1 主題直後の「なんか」 …… 90
6.3.1.2.2 質問直後の「なんか」 …… 91
6.3.1.2.3 肯定直後の「なんか」 …… 92
6.3.1.2.4 否定直後の「なんか」 …… 94
6.3.1.2.5 思索直後の「なんか」 …… 95

6.3.2　まとめ …… 95

6.4　【会話 4】における話者 YF3 の「なんか」 …… 98
6.4.1　「なんか」の分布 …… 98
6.4.1.1　統語的な「なんか」 …… 98
6.4.1.1.1　句間の「なんか」 …… 98
6.4.1.1.2　節間の「なんか」 …… 100
6.4.1.1.3　文間の「なんか」 …… 101
6.4.1.2　談話的な「なんか」 …… 102
6.4.1.2.1　主題直後の「なんか」 …… 102
6.4.1.2.2　質問直後の「なんか」 …… 103
6.4.1.2.3　肯定直後の「なんか」 …… 103
6.4.1.2.4　否定直後の「なんか」 …… 104
6.4.1.2.5　思索直後の「なんか」 …… 105
6.4.2　まとめ …… 105

6.5　【会話 3】における話者 YF4 の「なんか」 …… 107
6.5.1　「なんか」の分布 …… 107
6.5.1.1　統語的な「なんか」 …… 107
6.5.1.1.1　句間の「なんか」 …… 107
6.5.1.1.2　節間の「なんか」 …… 114
6.5.1.1.3　文間の「なんか」 …… 116
6.5.1.2　談話的な「なんか」 …… 118
6.5.1.2.1　主題直後の「なんか」 …… 118
6.5.1.2.2　質問直後の「なんか」 …… 118
6.5.1.2.3　肯定直後の「なんか」 …… 119
6.5.1.2.4　否定直後の「なんか」 …… 122
6.5.1.2.5　思索直後の「なんか」 …… 122
6.5.2　まとめ …… 122

6.6　【会話 5】における話者 YF4 の「なんか」 …… 125
6.6.1　「なんか」の分布 …… 125
6.6.1.1　統語的な「なんか」 …… 125
6.6.1.1.1　句間の「なんか」 …… 125
6.6.1.1.2　節間の「なんか」 …… 128
6.6.1.1.3　文間の「なんか」 …… 129
6.6.1.2　談話的な「なんか」 …… 131
6.6.1.2.1　主題直後の「なんか」 …… 131
6.6.1.2.2　質問直後の「なんか」 …… 131
6.6.1.2.3　肯定直後の「なんか」 …… 132

6.6.1.2.4　否定直後の「なんか」 …… 135
6.6.1.2.5　思索直後の「なんか」 …… 135
6.6.2　まとめ …… 135

6.7　【会話 6】における話者 YF5 の「なんか」 …… 137
6.7.1　「なんか」の分布 …… 137
6.7.1.1　統語的な「なんか」 …… 137
6.7.1.1.1　句間の「なんか」 …… 137
6.7.1.1.2　節間の「なんか」 …… 139
6.7.1.1.3　文間の「なんか」 …… 140
6.7.1.2　談話的な「なんか」 …… 140
6.7.1.2.1　主題直後の「なんか」 …… 140
6.7.1.2.2　質問直後の「なんか」 …… 140
6.7.1.2.3　肯定直後の「なんか」 …… 141
6.7.1.2.4　否定直後の「なんか」 …… 142
6.7.1.2.5　思索直後の「なんか」 …… 142
6.7.2　まとめ …… 143

6.8　【会話 7】における話者 YF5 の「なんか」 …… 145
6.8.1　「なんか」の分布 …… 145
6.8.1.1　統語的な「なんか」 …… 145
6.8.1.1.1　句間の「なんか」 …… 145
6.8.1.1.2　節間の「なんか」 …… 150
6.8.1.1.3　文間の「なんか」 …… 152
6.8.1.2　談話的な「なんか」 …… 153
6.8.1.2.1　主題直後の「なんか」 …… 153
6.8.1.2.2　質問直後の「なんか」 …… 153
6.8.1.2.3　肯定直後の「なんか」 …… 154
6.8.1.2.4　否定直後の「なんか」 …… 154
6.8.1.2.5　思索直後の「なんか」 …… 154
6.8.2　まとめ …… 154

第 7 章　「ま(ー)」と「なんか」の比較と分析 …… 157

7.1　「ま(ー)」の比較と分析 …… 157
7.1.1　【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の比較と分析 …… 157
7.1.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 158
7.1.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 159
7.1.2　【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の比較と分析 …… 161
7.1.2.1　統語的な「ま(ー)」 …… 161

7.1.2.2　談話的な「ま(ー)」 …… 162
7.1.3　【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の比較と分析 …… 164
7.1.3.1　統語的な「ま(ー)」 …… 164
7.1.3.2　談話的な「ま(ー)」 …… 165
7.1.4　【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の比較と分析 …… 166
7.1.4.1　統語的な「ま(ー)」 …… 166
7.1.4.2　談話的な「ま(ー)」 …… 167

7.2　「なんか」の比較と分析 …… 169
7.2.1　【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の比較と分析 …… 169
7.2.1.1　統語的な「なんか」 …… 170
7.2.1.2　談話的な「なんか」 …… 170
7.2.2　【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の比較と分析 …… 172
7.2.2.1　統語的な「なんか」 …… 173
7.2.2.2　談話的な「なんか」 …… 173
7.2.3　【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の比較と分析 …… 175
7.2.3.1　統語的な「なんか」 …… 176
7.2.3.2　談話的な「なんか」 …… 177
7.2.4　【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の比較と分析 …… 179
7.2.4.1　統語的な「なんか」 …… 180
7.2.4.2　談話的な「なんか」 …… 181

7.3　デフォルトデータによる検証 …… 182
7.3.1　【会話 8】における「ま(ー)」と「なんか」の記述 …… 182
7.3.1.1　【会話 8】における話者 YF7 の「ま(ー)」 …… 182
7.3.1.1.1　統語的な「ま(ー)」 …… 182
7.3.1.1.2　談話的な「ま(ー)」 …… 184
7.3.1.1.3　まとめ …… 185
7.3.1.2　【会話 8】における話者 YF7 の「なんか」 …… 186
7.3.1.2.1　統語的な「なんか」 …… 186
7.3.1.2.2　談話的な「なんか」 …… 188
7.3.1.2.3　まとめ …… 189
7.3.2　【会話 8】による「ま(ー)」と「なんか」の検証 …… 190
7.3.2.1　「ま(ー)」の検証 …… 191
7.3.2.2　「なんか」の検証 …… 192
7.3.2.3　まとめ …… 194

第 8 章　まとめ …… 195

8.1　待遇性 …… 195

8.2　統語的・談話的な観点からのまとめ …… 195
8.2.1　統語的な観点 …… 195
8.2.2　談話的な観点 …… 196

第 9 章　今後の課題 …… 197

第 10 章　おわりに …… 200

【参考文献】 …… 201

謝辞 …… 205

データ
【会話 1】 …… 1
【会話 2】 …… 16
【会話 3】 …… 33
【会話 4】 …… 51
【会話 5】 …… 67
【会話 6】 …… 84
【会話 7】 …… 98
【会話 8】 …… 112

第１章　はじめに

1.1　研究動機

日常会話で、私たちの多くは、言いよどみなくしゃべるのではなく、「あの(ー)」や「ま(ー)」「なんか」などを発しながら発話する。「あのー」や「ま(ー)」「なんか」などの一見無意味な語の存在は、書き言葉には見られない話し言葉の特徴の一つである。伝統的な国語学では「あの(ー)」や「ま(ー)」「なんか」などは「感動詞」「間投詞」などと呼ばれ、一つの品詞に位置づけられるが、その詳細な研究は近年になって始まったばかりである。

具体的には、以下の例を見られたい。

(1) A：ちょっと、わくわくしてます<笑>
　B：そうですね、(はい)楽しい職場ですね、あのー、おめでたいことだから
　A：そうですね、はい、すごい、まー、疲れるんですけど、いや、なんか、いい疲れだなと思いますね、研修で、そう、1日した後

(1)の四角で囲んでいる「あの(ー)」や「ま(ー)」(本論文は「ま」と「まー」を同じに取り扱い、いずれも「ま(ー)」と記述する)「なんか」のようなものはフィラーと呼ばれる。フィラーとは、基本的に話し言葉に現れる場つなぎ言葉である。

私たちは人とコミュニケーションをするとき、言語表現として、常体を使ったり、敬体を使ったりして、相手に対する待遇を示す。

具体的には、以下の(2)と(3)を見られたい。(データの記号については、第4章で説明する)

(2) 03131YF3　なんで山大に来たんですか?
　03132YF4　私は、本当に適当なんですけど、(うん)なんか、1年の時の面談で、先生は山口大学に行ったらと言われたんで、じゃ、それで〈笑〉

(2)では、20代の話者YF3は20代の若者のYF4に対して、動詞の「来る」の常体「来た」を使っていた。

(3) 04173YF3　うん、中国とか行かれたことがありますか? どこか行かれたことが？
　04174OF1　えーとね、(うん)勤めていた時は、旅行してますけどね、今は、(はい)もう、あの、車に弱いから

(3)では、20代の話者YF3は60代のOF1に対して、「行く」の敬体「行かれた」を使っていた。

以上の(2),(3)に示したように、発話者は相手との上下親疎関係、または場により、敬語などの待遇表現を使い分ける。それ故、言語表現は待遇性があると言える。一般的に、コミュニケーションをする場合には、主に敬語表現を使うか否かによって、相手との上下親疎関係が反映される。

本研究では、敬語などの言語表現のみならず、フィラーもコミュニケーションに使用される要素として、同じ発話者が異なる年齢層の相手に対して、使い分けをする。つまり、フィラーにも待遇性があると予測する。

そこで、フィラーの待遇性を検証するため、日本語母語話者の自然談話会話調査を実施した。研究の最初の段階で、プレ調査として、2 つの会話を収録した。その中に、「ま(ー)」と「なんか」が多く現れていた。この 2 つの会話を用いて、「談話におけるフィラー「ま(ー)」の待遇差に関する予備的考察」(魏春娥 2015)を試みた。そして、さらにフィラーの待遇性を探るため、6 つの会話調査を実施した。

本論文では、予備的考察の上にフィラーの「ま(ー)」と「なんか」を取り上げ、「ま(ー)」と「なんか」の出現位置と出現頻度を分析し、フィラーに待遇性があることを明らかにする。

1.2　本論文の構成

本論文は、全部で 10 章である。第 1 章から第 4 章までは、フィラーに関する先行研究、本研究の方法論である。第 5 章から第 10 章までは、本論で、会話分析を通して、「ま(ー)」と「なんか」の待遇性を検証する。詳細は以下のようになっている。

第 1 章では、研究動機と論文の構成を述べる。

第 2 章では、談話、フィラー、ま(ー)、なんか、ま(ー)となんかの関連づけ、待遇に分けて、それぞれに関する先行研究を述べる。

第 3 章では、「フィラー」の定義を論じる。

第 4 章では、研究の目的、方法論、会話調査の要領を記述する。

第 5 章では、会話調査で各話者の発話に現れるフィラーの「ま(ー)」を記述する。また、各話者の「ま(ー)」の分布をまとめる。

第 6 章では、会話調査で各話者の発話に現れるフィラーの「なんか」を記述する。また、各話者の「なんか」の分布をまとめる。

第 7 章では、会話調査の各話者の「ま(ー)」と「なんか」の分布を比較、分析する。また、デフォルトデータによる検証も行う。

第 8 章では、会話調査から得た分析結果をまとめる。

第 9 章では、今後の課題を述べる。

第 10 章では、フィラー待遇の研究、フィラー研究を展望する。

第 2 章　先行研究

本章では、談話、フィラー、ま(ー)、なんか、ま(ー)となんかの関連づけ、待遇に分けて、それぞれに関する先行研究を振りかえる。

2.1　談話について

本論文では、談話レベルでフィラーの待遇性を探求するため、ここで談話について概観的に紹介する。

談話（discourse）[1] という概念が、言語学や日本語教育の分野で一般的にとり上げられるようになったのは、1980 年代の中頃からである。伝統的な国語学では、ほとんどの研究が書き言葉に限られていて、統語論を基盤とした上で、文、文法を中心とした研究であった。つまり、従来の国語学は主に書き言葉における文レベルでの研究である。しかし、言語研究は、文節、文の構成だけの研究ではなく、1 文を超えて、文脈（context)と関係して、言葉はどのように使われているか、どんな機能をはたしているかなどの研究を含んでいるわけである。時枝誠記（1950)は、文以上のまとまりである文章研究の必要性を指摘している。

談話分析（discourse analysis)[2] という研究分野が生まれたのは、1960 年代から 1970 年代の初めにかけてである。そして、1970 年代半ば以降、そのさまざまな談話分析が欧米の研究者によって行われてきた。その内、Sacks, Schegloff, ＆ Jeferson (1974)の研究は代表的である。それらの研究は、会話者間の会話を録音し、記録し、談話レベルで言葉を観察する研究方法を用いた。欧米の言語学者の談話分析が日本に紹介され、1980 年代の中頃から、談話、談話分析という表現が日本の言語学分野で盛んに使われるようになった。

談話分析の隆盛により、談話レベルで分析できる、話し言葉の特徴と言われるフィラーも注目されだした。

2.2　フィラーについて

「ま(ー)」「なんか」のようなフィラーは、日本語の自然談話に頻繁に現れる、話し言葉の特徴である。伝統的な国語学では文の研究が中心で、「ま(ー)」「なんか」などのように話し言葉の特徴とも言える言葉を取り上げる研究者はほとんどいなかった。ところが、近年談話分析が可能になり、話し言葉が研究の対象となるにつれ、そこに見られる様々な表現が分析されるようになると、「ま(ー)」「なんか」なども注目されだした。

日本でのフィラー研究は、3 期に分けることができる。第 1 期は 1950 年から 1969 年ま

---

[1] 『言語学大辞典』(1996)によると、談話(discourse)は、「いくつかの文が連続し、まとまりのある内容をもった言語表現」で、「話されたもの、書かれたものの両者を含む」、と定義されている。

[2] 『言語学大辞典』(1996)によると、談話分析（discourse analysis)は、「全体として、1 つのまとまり、統一性をもっており、談話(の一部)としてなり立つ」という「テキ[ク]スト性」を「成立させる要因を分析し、その規則的な特徴を明らかにしようとする分野」と定義されている。

でで、フィラーが指摘され始めた時期である。第 2 期は、1970 年から 1989 年までで、フィラーが多く取り上げられた時期である。第 3 期は、1990 年以降今日までで、フィラーが盛んに研究されている時期である。1980 年代後半から、談話分析が盛んになり、談話の中での様々な言語表現が研究対象となり、フィラー研究は言語学、言語学以外の分野でも行われてきた。

「ま(ー)」「なんか」のようなものは、これまで様々な呼び方がされてきた。話し言葉を対象とする一連の研究の中では、「遊び言葉」(伊佐早敦子 1953)、“hesitation”(塩沢孝子 1979)、「言いよどみ」(小出慶一 1983)、「無意味語」(山下暁美 1990)、「フィラー」(野村美穂子 1996、山根智恵 2002、小磯花絵他 2004)などの名称がつけられている。

本研究では、「ま(ー)」「なんか」などをフィラーと呼ぶ。フィラーについての研究では、認知的アプローチにおいては、談話管理の立場や、情報処理操作の面からの研究も行われている。定延利之(1993)は、「フィラー」を話し手が行う様々な心的情報処理を明らかにする機能を持つものと捉えている。定延利之・田窪行則(1995)は、「ええと」「あのー」は話し手が何らかの心的操作を行っている間に発話される「心的操作標識」であるとしている。田窪行則・金水敏(1997)は、感動詞・応答詞を心的な情報処理の過程が表情として声に表れたものとし、「入出力制御系」と「言いよどみ系」と 2 分類している。

談話分析では、フィラーは「談話標識(discourse marker)」(泉子・K・メイナード 1997)、「談話辞(discourse marker)」(橋内武 1999)と呼ばれている。

山根智恵(2002)は、講演、留守番電話、対話、電話という 4 種類の談話形式から、フィラーの種類、機能などを研究し、フィラーには、「話し手の情報処理能力を表出する機能」「テクスト構成に関する機能」「対人関係に関わる機能」の 3 種類があると結論づけている。

これまでのフィラーに関する研究は、個々のフィラーの機能における分析が多く、フィラーと待遇の関係についての研究はほとんどない。

2.3 「ま(ー)」について

フィラー「ま(ー)」に関する先行研究としては川上恭子(1993,1994)、冨樫純一(2002)、大工原勇人(2015)が挙げられる。ここでは、その要点を示し、さらに問題点を指摘する。

川上恭子(1993,1994)は、「ま(ー)」を談話中に現れる位置によって分類している。発話冒頭に現れる「ま(ー)」を「応答型用法」と呼び、発話内の文頭、文中に現れる「ま(ー)」を「展開型用法」と呼んでいる。「ま(ー)」の基本的な意味を「いろいろ問題はあるにしても、ここではひとまず大まかにひきくくって述べる」(川上恭子 1993:77)としている。

「ま(ー)」を応答型と展開型と 2 分類して分析するのは評価できると考えられる。また、「ま(ー)」の機能として「先行発話を受けつつ次への展開をスムーズに誘導する」(川上恭子 1993:77)、「後続する話題・話線が、それ以前の話題・話線から転換することを予告しつつ、転換(中略)転換後、スムーズに後続内容を導入できるよう促す」(川上恭子 1994:77)としている。

冨樫純一(2002)は、独り言に現れる「ま(ー)」について論述している。ただし、「ま(ー)」の本質的な機能を「心内での計算処理過程が関わりをもつ」としているのは、あくまでも先行研究の定延利之・田窪行則(1995)、田窪行則・金水敏(1997)の考え方と同じである。また、「ま(ー)」は「曖昧性を示す」としているが、発話における「ま(ー)」すべてが曖昧性を示しているのか、という疑問が残る。

大工原勇人(2015)は、「まあ」の強調的用法の特徴を留保づけ用法と比較しながら考察している。そして、「まあ」の「強調的用法は「内心のわだかまりには一切こだわらない」用法である」(大工原勇人 2015:110)としている。

2.4 「なんか」について

フィラー「なんか」に関する先行研究としては内田らら (2001)、林千賀 (2006)が挙げられる。ここでは、その要点を示す。

内田らら (2001)は、代名詞、副助詞の「なんか」から文法化したと考え、「なんか」は聞き手にとって新しい事柄を伴う前置きのディスコースマーカーであることを実証した。また、内田らら (2001)は、「なんか」には「1. 話題開始　2. 話題の発展　3. 発話内容の具体化　4. 次への部分のつなぎ　5. 引用　6. 話題対象への評価」など 6 つの機能があると述べている。

林千賀 (2006)は、副詞の「なんか」の意味の漂白化を検証し、「なんか」のディスコースマーカーの機能を実証した。また、「「なんか」の位置と非修飾部の位置の間の時間的距離が大きくなればなるほど、本来の副詞的用法の機能が弱まり、DM としての機能が強まる」(林千賀 2006:50)と述べている。

2.5 「ま(ー)」と「なんか」の関連付け

先行研究では、「あの(ー)」や「ま(ー)」「なんか」などは同じように前置き表現、ディスコースマーカー、談話標識、談話辞、フィラーなど様々な呼び方がされているが、それぞれの個々のフィラーは使用法によって、分類されている。

田窪行則(1995)は、言い淀み系の感動詞類を、「非語彙的なもの」と「語彙的なもの」の 2 種類に分けている。その内、語彙的なものを内容計算「 ええ(っ)と、ううんと」、形式検索「 あの(ー)、その(ー)、この(ー)」、評価「ま(あ)、なんというか、なんか、やっぱり」の 3 種類に分けている。

「ま(ー)」と「なんか」は、指示詞系から転化してきた「あの(ー)」、「その(ー)」、「この(ー)」と応答詞系から転化してきた「ええ(っ)と」、「ううんと」と違い、主に副詞系から転化してきたもので、発話者が前の何らかの内容について、意見、主張、評価を述べるしるしと言える。これも、本稿が「ま(ー)」と「なんか」を取り上げ、それらの待遇レベルを比較、考察する 1 つの要因である。

2.6　待遇について

日本語研究の中で、待遇研究はかなり蓄積されている。それらは主に待遇表現の中の敬語表現が中心である。特に、菊地康人(1997)と蒲谷宏他(1998)は、敬語動詞の使い方を巡って研究している。

待遇表現に関して、菊地康人(2003:32)は次のように解説している。

> 「あの会社は待遇がいい」とか、「待遇の改善を要求する」というように、きわめて一般的に用いられるが、その場合、給与や勤務条件を指すのが普通である。また、「田中さんの家でひどい待遇を受けた」のように使う場合には、お客さんに対するもてなし方を表す。例えば、あの人は玄関で簡単に対応しようとか、大切な人だから応接間に通して、いいお茶を出そうとか、あの人は親しいともだちだから居間で話そうとか、子供がいるからケーキを出そうとか、食事の時間なのでお寿司でもとろうとか、場合によっては泊まっていってもらおうということある。逆に、ある場合には、相手に対して非常に腹を立てているので、門前払いをする、ということもあり得る。このように、私たちは相手や相手との関係・場面などに応じて、それにふさわしいもてなしの仕方を選択する。
>
> 同じことが、言語の選択にも当てはまる。ある話題主が「行く」ということを表現したい場合、「行く」と言っても、「いらっしゃる」や「行きやがる」と言っても、その ‘go’ という意味は変わらない。しかし、私たちは例えば ‘go’ という意味を表すさまざまな表現の中から、聞き手や話題主、場面などに応じて、その場にもっともふさわしいと思われる表現を選択する。これが待遇表現である。

待遇表現には、通常語、敬語、親愛語、尊大語、軽卑語などがある。この内、敬語表現は、現在では、尊敬語、謙譲語、丁重語、丁寧語、美化語の 5 分類されている(文化審議会答申『敬語の指針』2007)。従来の敬語論は、主に待遇差が現れる敬語動詞を対象としていた。

以上、先行研究を述べてきたように、フィラーのそれぞれの形式と待遇差を関連付けた研究は見られていない。そこで、本研究は無視されがちなフィラーにも待遇性があることを検証するものである。

第 3 章　フィラーの定義

談話研究が盛んになるにつれて、話し言葉によく現れる「ま(ー)」、「なんか」などが注目されだした。これらは言い淀み、遊び言葉、場つなぎ言葉など呼ばれてきたが、現在では、「フィラー」が定着していると見てよい。本章では、先行研究を踏まえ、本研究におけるフィラーを定義する。

3.1　先行研究におけるフィラーの定義

現在、日本語学、日本語教育学などの分野では、「フィラー」という呼称が広く用いられている。しかし、その定義については、一致してない。

ここでは、フィラーが注目され、様々な呼び方がされ、今日のフィラー研究の隆盛までのフィラーの定義の変遷を振りかえってみる。

3.1.1　「遊び言葉」

伊佐早敦子(1953)は、話し言葉を文字化し、話し言葉に特有な「不整表現」に注目し、考察した。これはフィラーに関する初期の研究の 1 つである。伊佐早は、「しきりに挿入されたり」「内容の伝達には直接関与しない終助詞・間投助詞・感動詞の類」、「ほとんど意味もなく使われるなど、一見よけいな」「接続詞・副詞」を「遊び言葉」と命名している。伊佐早敦子(1953)の「遊び言葉」はフィラーの存在を指摘したが、漠然としたイメージである。

3.1.2　「Hesitation」

塩沢孝子(1979)は、“Hesitation”を対象とした研究をした。塩沢は、「もともと意味のないもの」であるところの「アー」「エート」や「本来意味をもつが、Hesitation として使われる時はその意味を失う」ところの「アノ」「ソノー」や「本来意味をもち、その意味が役割に関係ある語」であるところの「マー」「ナンカ」などの語を Hesitation と呼んでいる。また、Hesitation は「話の合間に入る「アノー」「エート」などの語で、話し言葉のみに使われる」ものと定義している。

塩沢孝子(1979)では、Hesitation の分類からフィラーはどんなものか検討できるが、Hesitation の定義ははっきりとせず、「アノー」「エート」を典型とする語群と言っている。

3.1.3　「言いよどみ」

小出慶一(1983)は、母音ののばし「アー」「エー」「アノー」「ソノー」など、また「そうですねー」「何ていいますか」のような「知的な命題を構成するものではなく、話すことへの態度を表す」ものを「言いよどみ」と呼んでいる。この定義は、言いよどみを話すことへの態度を表すことを重視している。

3.1.4　「心的操作標識」

定延利之・田窪行則(1995)は、「「ええと」「あの(ー)」は、話し手が何らの心的操作を行っている間に発話される心的操作標識である」と述べている。定延・田窪らは、談話管理理論の立場で、情報処理操作の面から「ええと」「あの(ー)」のようなフィラーを考察している。

3.1.5　「フィラー」

野村美穂子(1996)は、文科系と理科系の講義に現れるフィラーを分析、考察した。野村は、「本来の語彙的な意味から離れて用いられ、それを削除しても発話全体の命題的な意味が変わらないような語句」をフィラーと定義している。山根智恵(2002)は、「それ自身命題内容を持たず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係を持たない、発話の一部分を埋める言葉」をフィラーとしている。野村は「フィラーが発話全体の命題の意味に影響しない」を強調している。一方、山根はフィラーが「発話と狭義の応答関係・接続関係を持たない」を強調している。小磯花絵他(2004)は、フィラーは、「場繋ぎ的な機能を持つ表現」と定義している。小磯他は、フィラーについて、何の説明もなく、「場繋ぎ機能」を強調している。石川創(2010)は、「実質的な発話中に現れる感動詞類」をフィラーと定義している。大工原勇人(2010)、フィラーは、「「考える」「思い出す」「言葉を選ぶ」など、話し手が何らかの情報処理的な心身行動を行っている最中に典型的に発話される感動詞類の下位類」としている。石川、大工原は、フィラーの属性の感動詞に注目している。

3.2　本研究におけるフィラーの定義

本研究では、先行研究のフィラーの定義を踏まえつつ、フィラーを次のように定義をする。

(4)フィラーの定義：

発話者が何らかの心的操作を行っている最中に、発する場つなぎ的な機能を持つコトバ。

たとえば、以下の(5)において、「あのー」「えー」「なんか」はフィラーである。

(5) 03379YF3 ガンジス川の周辺に、(はい)あのー、埋葬というか、##、それたぶん流れてる
03380YF4 えー、怖い、<2 人笑>そうなんですか
03381YF3 現実ですよ
03382YF4 えー、なんか、聖なる川ガンジスみたいなイメージだったんですけど

しかしながら、本研究では、03380YF4 の発話の中の「えー」のような感情を表す感動詞類はフィラー対象外とする。

第 4 章　本論文の目的と方法論

4.1　本論文の目的

本論文では、日本語母語話者の自然談話のデータに基づき、4 人の話者の発話に現れるフィラーの「ま(ー)」と「なんか」の出現位置と出現頻度を観察し、さらに、「ま(ー)」と「なんか」を比較、分析することによって、フィラーに待遇性があることを明らかにする。

4.2　本研究の研究方法

フィラーの待遇性を検証するため、2014 年 4 月から 2015 年 11 月にかけて、日本語母語話者を対象とする録音会話調査を実施した。すべての会話調査は 8 つである。それらを「【会話 1】」、「【会話 2】」、「【会話 3】」、「【会話 4】」、「【会話 5】」、「【会話 6】」、「【会話 7】」、「【会話 8】」と呼ぶ。これらの 8 つの会話では、相手が初対面である場合の「初対面会話」、相手が知り合いである場合の「知り合い会話」の 2 種類がある。【会話 1】から【会話 5】までは、いずれも「初対面会話」である。【会話 6】から【会話 8】までは「知り合い会話」である。その内、【会話 8】は親しい友達関係の会話であり、本研究のデフォルトデータである。

会話調査においては、【会話 1】から【会話 7】までは、4 人の 20 代女性話者に同世代の女性、年上の 60 代の女性と会話をさせた。本研究では、主に 4 人の 20 代の女性話者の発話に現れるフィラーを分析対象とする。4 人の話者は、「話者 YF2」、「話者 YF3」、「話者 YF4」、「話者 YF5」である。また、デフォルトデータの【会話 8】による検証では、20 代女性「話者 YF7」の発話に現れる「ま(ー)」と「なんか」の分析を行う。

本研究は、実施した 8 つの会話録音テープを起こしたものを分析データとする。

4.2.1　調査方法

話者が異なる年齢層の相手に対して、フィラーを使い分けていると予測される。研究の初期、会話の参加者の性別、親密度を一致させるため、協力者はすべて女性で、初対面としている。すなわち、【会話 1】から【会話 5】までは「初対面会話」である。また、さらにフィラーの待遇性を検証するため、「初対面会話」の調査だけではなく、女性で、相手が知り合いである調査も実施した。すなわち、【会話 6】と【会話 7】は「知り合い会話」である。また、フィラーの待遇性は親疎に関係なく、世代差だけにかかわることを検証するため、デフォルトデータとしての【会話 8】を行った。【会話 8】は親しい友達の会話である。

8 つの会話調査はいずれも 30 分の自由会話である。

4.2.1.1　会話調査の実施

調査者と調査の協力者は同時に研究室に入る。協力者をテーブルの両側に坐らせた後、調査者は、「皆さん、今日はご協力を頂きどうもありがとうございます。今から、会話の調査を始めようと思います。話題はご自身が興味のある話題について自由に話されてもいいですし、話題が見つからなかったら、「就職活動」や「学校生活」など興味のある話題について話して下さってもかまいません。30 分経ったら、私は部屋に戻ります、その時に会話をお止めください。今日の皆さんの会話の内容を録音します。本調査のデータは論文の研究のためにのみ使います。ご安心ください。ではお願いいたします。」と協力者に言い、レコーダーのボタンを押して、退室する。

8 つの会話は、ICR-RB76M レコーダー(三洋電機株式会社)で録音した。

4.2.1.2　会話調査のデータの詳細

本研究の会話調査の参加者は 10 人である(20 代学生 6 人、20 代社会人 1 人、30 代社会人 1 人、60 代社会人 2 人)。その中で、20 代と 30 代は同世代と扱う。また、会話調査の参加者はアルファベットの記号で表記する。若い世代の女性を YF(Younger Female)、60 代女性を OF(Older Female)と記号化する。下の[表 1]は、会話参加者の年代・性別・身分、会話参加者の関係、会話の状況および会話の録音時期と時間を示す。

［表 1］　会話データの詳細

データ	会話参加者(年齢/性別/身分)	会話参加者の関係と会話の状況	録音日時	録音時間
会話 1	YF1 (20 代/女性、学生) YF2 (20 代/女性、学生)	初対面、自由会話	2014 年 4 月 17 日	30 分
会話 2	YF2 (20 代/女性、学生) OF1 (60 代/女性、社会人)	初対面、自由会話	2014 年 4 月 17 日	30 分
会話 3	YF3 (20 代/女性、学生) YF4 (20 代/女性、学生)	初対面、自由会話	2014 年 11 月 4 日	30 分
会話 4	YF3 (20 代/女性、学生) OF1 (60 代/女性、社会人)	初対面、自由会話	2014 年 11 月 4 日	30 分
会話 5	YF4 (20 代/女性、学生) OF1 (60 代/女性、社会人)	初対面、自由会話	2014 年 11 月 4 日	30 分
会話 6	YF5 (20 代/女性、社会人) YF6 (30 代/女性、社会人)	同じ職場の知り合い、自由会話	2015 年 5 月 20 日	30 分
会話 7	YF5 (20 代/女性、社会人) OF2 (60 代/女性、社会人)	同じ職場の知り合い、自由会話	2015 年 5 月 20 日	30 分
会話 8	YF7 (20 代/女性、学生) YF8 (20 代/女性、学生)	親しい友達、自由会話	2015 年 11 月 19 日	30 分

4.2.2　データの表記方法

本研究の会話では、発話ごとに「02199YF2」のような発話番号を使用している。前の 2 桁数字は会話の番号で、「02」は【会話 2】を表す。次の 3 桁数字は発話の通し番号で、「YF2」

は発話者である。

また、会話データを文字化する際、次のような記号を使用している。

□　分析対象語であることを示す。

、　ポーズを表す。

?　直前の文が疑問文であることを示す。

(　)　聞き手の短く、特別な意味を持たない「あいづち」、笑い、短い単語の繰り返しなどを示す。

<笑>　笑いを示す。笑いながら発話したものは、<　>の中に、<笑ながら>、<2 人笑>などのように説明を示す。

#　聞き取り不能部分を示す。聞き取り不能部分の推測される拍数に応じて、同数の記号をつける。

第 5 章　「ま(ー)」の記述

本章では、4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 の発話に現れるフィラーの「ま(ー)」を分類し、会話ごとに「ま(ー)」の分布、及び分布のまとめを記述する。

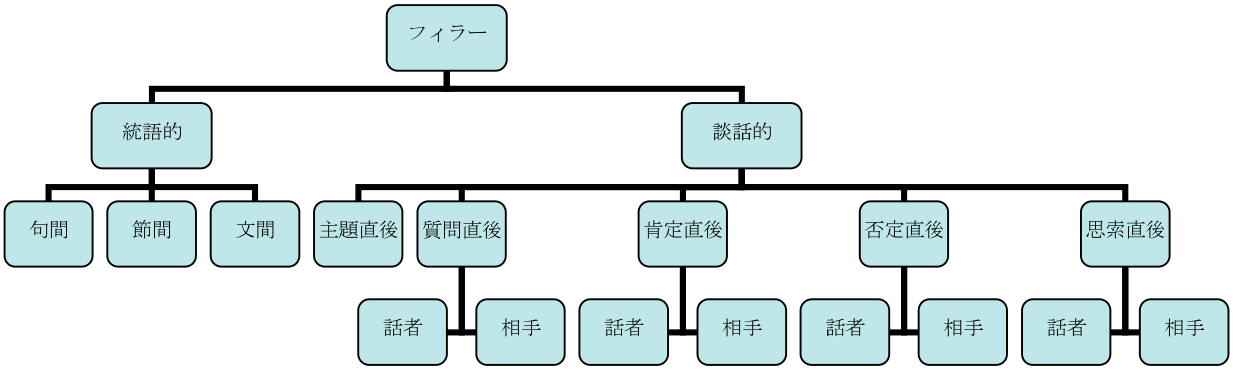
本研究では、フィラーの出現位置により、フィラーは「統語的」と「談話的」の 2 種類に分けられることが判明した。統語的なフィラーは、文の構造や文の構成に関わるものである。談話的なフィラーは、発話者が発話を進めるために、質問したり、発話権を取る為に、主題を提示したりするストラテジーを使い、また、相手に応じて、答えたりするもので、談話を運営する時に用いられるものである。

また、「統語的」なフィラーは、「句間」、「節間」、「文間」の 3 種類に分けられ、「談話的」なフィラーは「主題直後」、「質問直後」、「肯定直後」、「否定直後」、「思索直後」の 5 種類に分けられる。

本論では、統語的なフィラーは、「句と句の間に現れる場合」は「句間のフィラー」、「従属節と主節の間に現れる場合」は「節間のフィラー」、「文と文の間に現れる場合」は「文間のフィラー」とそれぞれ呼ぶことにする。談話的なフィラーは、「主語や主題の直後に現れる場合」を「主題直後のフィラー」、「話者や相手の質問の直後に現れる場合」を「質問直後のフィラー」、「話者や相手の肯定の応答の表現の直後に現れる場合」を「肯定直後のフィラー」、「話者や相手の否定表現の直後に現れる場合」を「否定直後のフィラー」、「話者や相手が思索の直後に現れる場合」を「思索直後のフィラー」とそれぞれ呼ぶことにする。

さらに、談話的なフィラーの中の「質問直後」のフィラーは、「話者の質問直後」と「相手の質問直後」に分け、「肯定直後」のフィラーは、「話者の肯定直後」と「相手の肯定直後」に分け、「否定直後」のフィラーは、「話者の否定直後」と「相手の否定直後」に分け、「思索直後」のフィラーは、「話者の思索直後」と「相手の思索直後」に分ける

本論文でフィラーを分類すると、[図 1]のようになる。



[図 1]フィラーの分類

記述に入る前に、本研究の分析対象ではない「ま(ー)」を明らかにしておこう。

(6) a. まー、きれい。
b. 川魚の味は、まーまーです。
c. (喧嘩している 2 人に) まーまー。

上の(6a)の「まー」は感動詞であり、驚きの意味を表す。(6b)の「まーまー」は程度副詞で、食べ物の美味しさの程度を表す。(6c)の「まーまー」は感動詞で、落ち着いてくださいの意味である。これらの 3 種類の「ま(ー)」は分析対象外とする。

本章では、会話データを挙げる場合、「ま(ー)」が含まれている発話は言うまでもなく、その前後の発話も合わせて挙げる。これは文脈を明確にするためである。

以下では、4 人の話者の統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」の例を挙げながら、詳しく見てみよう。

5.1 【会話 1】における話者 YF2 の「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 1】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうし YF1 と YF2 の会話である。

5.1.1 「ま(ー)」の分布

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」を記述していく。

5.1.1.1 統語的な「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる統語的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、句間の「ま(ー)」、節間「ま(ー)」、文間の「ま(ー)」に分けてを見ていく。

5.1.1.1.1 句間の「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる句間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の句間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】～副詞、ま(ー)～

「～副詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(7) 01051YF1 えー、でも、なんか勉強したいなぁーと思います？

01052YF2 英語ができたらかっこいいなぁとすごい思うんですけど、(うんうん)でも実際、まー、やってないし、勉強、<2 人笑>憧れだけなんですけど、(うんうん)でもすごい、英語できる人がうらやましいです、憧れます、(うん)私は日本語なんですけど、(うん)研究するのが、(えー)、日本語っていうか、社会言語学みたいな、(うんうん)言語を取り扱うゼミなんですけど、(うん)もう、自分がしゃべっている日本語でさえ、もう、正しいか、<笑>分からないですけど、何の意味があるかと思って<2 人笑>どっちかというと、文学にも興味あるんですけど、(うんうん)でも文学メインしちゃうと、ちょっとそれは、(んー)どうかなぁと思いながら、すごい模索しています<笑>

(7)は、副詞の「実際」の後ろに現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、「英語ができたらかっこいいなぁとすごい思うんですけど、(うんうん)でも、実際」を発したあとに、「やってないし、勉強」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【2】～接続詞、ま(ー)～

「～接続詞、ま(ー)～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(8) 01178YF2 いや、それは、もう、文芸は国語だけなんですよ

01179YF1 あ、そうなんですよね

01180YF2 なので、音楽が好きな人が、その卒論だけ、(うん)目標に、あと、まー、みたいな感じですね、国語だけですね、文芸で、(うん)それぞれ、あとは頑張ったら、いろいろ取れると思うんですけど、(うん)授業の兼ね合いとかで、なかなか難しいかもしれないです、私幼稚園も取りたかったんですけど、(はい)ぜんぜん被らなくて、文芸の授業と幼稚園教育の授業が、留年しないと、(あー)全部取れないってと言われて、そして、やめまして<笑>、留年かと思って

(8)は、接続詞の「あと」に現れる「ま(ー)」である。ここには、文芸コースに所属する音楽が好きな人は、音楽について卒論を書いても、音楽の先生になるわけではないという事実がある。話者 YF2 は、音楽が好きな人は卒論のテーマを音楽にするだけで、あとは、みんなと一緒で、国語の先生になるということを言う前に「ま(ー)」を使っている。

(9) 01261YF1 サークルとか、何か入ってますか?

01262YF2 私は、テニスと(うんうん)あとグリーっていう合唱(んー)サークルみたいなのに入ってて、(えー)でー、ま、グリーはこの前の新フェイスで、(うんうん)修了みたいな、私は、卒業

(9)は、接続詞の「でー」の後ろに現れた「ま(ー)」である。話者 YF2 は、「グリーはこの前の新フェイスで、修了みたいな、私は、卒業」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(10) 01285YF1 でも、自分ではマネージャーになりたいですみたいな?
01286YF2 いや、なんか、なってて言われて、(うん)でー、ま、その、前のパートのマネージャーと学生のマネージャーがありますけど、(うん)学生のマネージャーが全部抜けてしまう、(うん)となって、#を作らないといけない私と、もう 1 人の人文の(うん)女の子はなってて言われて、どっちも断れなくてみたいな、<2 人笑>感じですね、すごい面倒くさいですよ、マックのマネージャーになるの、研修に行かないといけなくて、(えー)福岡に、天神に、3 泊 4 日で

(10)は、接続詞の「でー」の後ろに現れた「ま(ー)」である。話者 YF2 は、「前のパートのマネージャーと学生のマネージャーがありますけど」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の後ろに「その」が入っている。

5.1.1.1.2 節間の「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる節間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の節間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、ま(ー)～

「～けど、ま(ー)～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(11) 01188YF2 そうですね、私地元大好きなんですよね<笑>
01189YF1 あ、なるほど
01190YF2 地元すごい好きで、(うん)実家のみかん大好きで、(うん)出たくなくて、(えー)山口に来たんですけど、まー、出ざるをえない状況になって、(うん)涙の別れをしてきました<笑>

(11)は、接続詞「けど」の後ろに現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、家を出たくなか

ったが、山口に来た。その理由の「出ざるをえない状況になって」を述べる前に、「ま(ー)」を使っている。

(12) 01314YF2 出ないです、(えー)自腹です、(えー)なんで、私が？
01315YF1 本当に
01316YF2 と思うんですけど、(うん)まー、しかたがないなみたい

(12)は、接続詞「けど」の後ろに現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、仕事で使ったガソリンがなぜ自腹かと「思うんですけど」と発したあとに、「しかたがないなみたい」という自分の気持ちを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の相槌の「うん」が入っている。

(13) 01357YF1 なんでマックにしたんですか?
01358YF2 あ、紹介ですね、先輩、サークルの先輩の紹介で、(うん)いいよって、マックに入ったんですけど、ま、楽しいことも、ありますけど、きついこと多いですね<笑>

(13)も、接続詞「けど」の後ろに現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、「マックに入ったんですけど」を発したあとに、「楽しいことも、ありますけど、きついこと多いですね」というアルバイト先のマクドナルドの状況を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【2】～て、ま(ー)～

「～て、ま(ー)～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(14) 01281YF1 忙しいですよね
01282YF2 はい、けっこう人も足りなくて、(うん)今頑張って、入れようとしているんですけど、ぜんぜん入ってくれなくて、(うん)でー、手伝いに行ったりとか、(うん)まー、入れるとき入ってほしいというふうに言われて、ま、なかなか断れなくて<笑>

(14)は、接続詞「て」の後ろに現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、アルバイト先の店長に「入れるとき入ってほしいというふうに言われて」を発したあとに、「なかなか断れなくて」という状況を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【3】～ので、ま(ー)～

「～ので、ま(ー)～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(15) 01053YF1　文芸って、先生になるコースっていうわけではないんですか?
01054YF2　あ、えーと、一応なれるんですけど、(うんうん)養成コースなので、(うん)ならない人のほうが多いですね、(へー)なる人は、自分で授業をちょっと多めに、(うんうん)取ったりしないといけないんで、(うん)まー、養成系の方がスムーズに<笑>

(15)では、「自分で授業をちょっと多めに、(うんうん)取ったりしないといけないんで」の「いけないんで」は、文脈によると、「いけないので」の意味と考えられる。話者 YF2 は、「授業をちょっと多めに、取ったりしないといけない」ということ以外に、「養成系の方がスムーズに」行けばということを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の相槌の「うん」が入っている。

(16) 01069YF1　厳しいっていうか、その採用の枠が、(うん)それぞれ少ないから、すごい争奪戦というか
01070YF2　そうなんですよ、私は、高校なんですよ、(うん)で、高校の国語だと、(はい)8 人とかなんで、(はい)まー、少ないですよね、<笑>なので、すごい狭き門で、(はい)ちょっと、もういいかなと思いつつ<笑>(うん)やってみているけど

(16)では、「8 人とかなんで」の「なんで」は文脈によると、「ので」の意味と取られる。話者 YF2 は、「8 人」に対して、「少ないですよね」という自分の意見を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の相槌の「はい」が入っている。

5.1.1.1.3　文間の「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる文間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の発話に文間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

～たりとか、ま(ー)～

「～たりとか、ま(ー)～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(17) 01281YF1　忙しいですよね

01282YF2 はい、けっこう人も足りなくて、(うん)今頑張って、入れようとしているんですけど、ぜんぜん入ってくれなくて、(うん)でー、手伝いに行ったりとか、(うん)まー、入れるとき入ってほしいというふうに言われて、ま、なかなか断れなくて<笑>

(17)では、話者の YF2 は、アルバイト先に「手伝いに行ったりとか」を発したあとに、「入れるとき入ってほしいというふうに言われて」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の相槌の「うん」が入っている。

5.1.1.2　談話的な「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、主題直後の「ま(ー)」、質問直後の「ま(ー)」、肯定直後の「ま(ー)」、否定直後の「ま(ー)」、思索直後の「ま(ー)」に分けて見ていく。

5.1.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる主題直後の「ま(ー)」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の発話に主題直後の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

～は、ま(ー)～

「～は、ま(ー)～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(18) 01305YF1 違いますよう、終わらないですか? これ違いますよう

01306YF2 いや、持って来てみたい感じ(うん)で言われて、基本は、ま、持って行ってないですけど、(うん)でもすごい怒ってて、(うん)ちょうど私その時間で仕事あがりだったんで、(うん)じゃ、ついでに自分持って行きますって言ったんですけど、(うん)道ぜんぜん分からなくて、<笑>(うん)私車最近持ったばかりだし、<笑>(うんうん)山口の道ぜんぜん分からないし

(18)は、主題提示を機能する助詞「は」の後ろに現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 のアルバイト先で、注文と違うものを届けたので、客が怒って、注文どおりのものを「持って来て」と言った。道が分からなかったから遅れた。「基本は」すぐに商品を届けなかったということである。話者 YF2 は、「基本は」を発したあとに、「すぐに持って行ってない」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(19) 01356YF2 〈笑〉あー、なるほど、個人経営だとそうですね、確かに、1日一緒に頑張ろうみたいな、個人経営のところいいなと思ったんですけど、(うんうん)私は、まー、チェーン店なので(うんうん)

01357YF1 なんでマックにしたんですか?

01358YF2 あ、紹介ですね、先輩、サークルの先輩の紹介で、(うん)いいよって、マックに入ったんですけど、ま、楽しいことも、ありますけど、きついこと多いですね<笑>

(19)は、主題提示を機能する助詞「は」の後ろに現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、「私は」を発したあとに、「チェーン店なので」と相手 YF1 のアルバイト先の「個人経営」と違うことを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

5.1.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」

【会話 1】には、話者 YF2 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.1.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」

【会話 1】には、話者 YF2 の発話に肯定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.1.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」

【会話 1】には、話者 YF2 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.1.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる思索直後の「ま(ー)」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の発話に話者の思索直後の文形式が観察された。

【1】　話者

～名詞、ま(ー)～

「～名詞、ま(ー)～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(20) 01264YF2 私は、テニスと(うんうん)あとグリーっていう合唱(んー)サークルみたいなのに入ってて、(えー)でー、ま、グリーはこの前の新フェイスで、(うんうん)修了みたいな、私は、卒業

01265YF1 あ、そうですよね、3年生ぐらいまで、卒業ですか?

01266YF2 そうですね、3 年、ま、人それぞれなんですけど、ずっとやる子もいるんですけど、(うんうん)私は教採あるので

(20)は、話者 YF2 の思索直後の「ま(ー)」と判断される。相手 YF1 のサークルがだいたい「3 年生ぐらいまで、卒業ですか」という質問に対して、話者 YF2 は、「3 年」を繰り返しながら、部活は人により、「人それぞれなんですけど」という事実を述べる前に、「ま(ー)」を使っている。

【2】　相手

【会話 1】には、話者 YF2 の発話に相手の思索直後の文形式が観察されなかった。

5.1.2　まとめ

以上の 5.1.1 での記述により、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を[表 2]で示す。

[表 2]　【会話 1】における話者 YF2 の「ま(ー)」の分類及び出現頻度

分類				【会話 1】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」の直前	「ま(ー)」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		副詞、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、ま(ー)～	◎	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、ま(ー)～	◎	ー	ー	うん	ー
			～て、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			～ので、ま(ー)～	○	ー	ー	はい、うん	ー
	文間		～たりとか、ま(ー)～	○	ー	ー	うん	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 2]を見ると、【会話 1】では、統語的な「ま(ー)」が相対的に多く現れた。談話的な「ま(ー)」は主題直後の「ま(ー)」と相手の思索直後の「ま(ー)」しか現れなかった。また、統

語的な「ま(ー)」には、句間、節間の「ま(ー)」の文形式が多く現れた。この内、句間の「接続詞(で(ー)、あと)、ま(ー)～」、節間の「～けど、ま(ー)～」の出現頻度が高かった。

統語的な節間、文間の「ま(ー)」では、「ま(ー)」の前に、相手の「はい」、「うん」などの相槌が入っている。

5.2　【会話 2】における話者 YF2 の「ま(ー)」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 2】は、「初対面会話」の 20 代女性 YF2 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

5.2.1　「ま(ー)」の分布

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」を記述していく。

5.2.1.1　統語的な「ま(ー)」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる統語的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、句間の「ま(ー)」、節間の「ま(ー)」、文間の「ま(ー)」に分けて見ていく。

5.2.1.1.1　句間の「ま(ー)」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる句間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に句間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】～代名詞、ま(ー)～

「～代名詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(21) 02191YF2 生徒との関係もですし、(はい)まー、その教室
　02192OF1 上司、あ、先生方との関係か？
　02193YF2 はい、(あー)私、(はい)ま、その仕事に悩みもあるし、(はい)私が見たのは、ほんの 2 週間のできごとなんですけど

(21)は、代名詞の「私」の直後に現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、教育実習について、相手 OF1 の質問の「先生方との関係か」に対して「はい」で応答した後に、「私」を発して、自分に関わる面の「その仕事に悩みもある」を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の相槌「はい」が入っている。

【2】～名詞+格助詞、ま(ー)～

「～名詞+格助詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(22) 02286OF1 そうですか

02287YF2 はい、いろんな噂を、ま、ああいう仕事している人がいるんだなあと思って

(22)は、「いろんな噂を」の直後に現れる「ま(ー)」の例で、対格(ヲ格)句の直後の「ま(ー)」と言える。話者 YF2 は、「ああいう仕事している人がいるんだな」という自分の考えを述べる前に、「ま(ー)」を使っている。

【3】～副詞、ま(ー)～

「～副詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(23) 02181YF2 こつこつやらないと、でも、教採、教育の(はい)試験も、とても難しいので、(はー)もう、まわりの人とかが、(はい)だんだん、こう、実力が上がっていくのを感じると、(はい)すごい焦りますね

02182OF1 はい、そうですね、本当

02183YF2 どうしようって思います<笑>、すごく、ま、でも、ずっと目指してきた夢なので、(はい)教師は、(はい)ま、落ちても、何度もトライしようかなと思っています<笑>

(23)は、副詞の「すごく」の直後に現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、教員採用試験を受けるので、とても焦っているが、落ちても、教師は自分が「ずっと目指してきた夢なので、何度もトライ」するという考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の直後に、「でも」が入っている。

【4】～形容詞、ま(ー)～

「～形容詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(24) 02194OF1 そうですね

02195YF2 本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、(あー)ま、私も実習生ということもあるんですけど、(はい)ま、すごい、いやな言い方ですけど、なめられるというか<笑>

(24)は、形容詞の「いろいろ」の直後に現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、教育実習期間にいろいろなことがあり、「生徒にもいろんな子がいます」という自分の見解を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【5】～接続詞、ま(ー)～

「～接続詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(25) 02093YF2 はい、8 名なので、(んー)で、今、講師でやっていらっしゃる先生も、また、受けるので
02094OF1 あ、そうそう
02095YF2 <笑>なかなか、ちょっと、私は難しいかなと思いまして、(あー)でー、ま、大阪(はい)も、受けてみようかな

(26) 02138OF1 あ、そうですか
02139YF2 勉強は楽しいな(はい)と思っていたんですけど、(はい)ま、中学生は普通にあがってきてたし(はい)、で、高校受験で一度落ちて、(はー)で、まー、(はい)私の時は、前期後期制だったんですよね

(27) 02196OF1 はー
02197YF2 なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、(はい)で、まー、接してくれるんですけど、(はー)まー、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<笑>

(25)、(26)、(27)は、いずれも接続詞の「で(ー)」の直後に現れる「ま(ー)」の例である。(25) 、(26)は接続助詞の「て」の直後の「で(ー)」ある。(27)は「お姉さんみたいに」という句の直後「で(ー)」ある。

(25)は、話者 YF2 が「私は難しいかなと思いまして」のあとに、「で(ー)」を発してから、「大阪も受けてみようかな」と自分の考えを述べる前に、「ま(ー)」を使っている。

(26)は、話者 YF2 が「高校受験で一度落ちて」のあとに、「で(ー)」を発してから、「私の時は、前期後期制だったんですよね」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の直後に相手の相槌の「はい」が入っている。

(27)は、実習生の自分が生徒に対して、「お姉さんみたいに」と述べたあとに、「で(ー)」を発してから、「接してくれるんですけど、(はー)まー、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。ここの「で(ー)」の前に相手の相槌の「はい」が入っている。

【6】～感嘆詞、ま(ー)～

「～感嘆詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げ

られる。

(28) 02128OF1 あー、なんかね、その人が、それはわかりませんよ、(うん)でもね、そんな話も(えー)新聞とかで読んだことがありますよ
02129YF2 あー、ま、でも、そうですね、人にものを教える立場だったら、#うまくいっている人じゃあ教えられませんですよね

(28)は、感嘆詞の「あー」の直後に現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、相手の発話に対して、「人にものを教える立場だったら、#うまくいっている人じゃあ教えられませんですよね」という考え方を述べる前に、「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の直後に「でも」が入っている。

【7】 ～フィラー、ま(ー)～

「～フィラー、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(29) 02195YF2 本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、(あー)ま、私も実習生ということもあるんですけど、(はい)ま、すごい、いやな言い方ですけど、なめられるというか<笑>
02196OF1 はー
02197YF2 なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、(はい)で、まー、接してくれるんですけど、(はー)まー、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<笑>

(29)は、「なんとなく」の後、フィラーの「こう」の直後に現れる「ま(ー)」である。話者 YF2 は、自分が生徒に「なめられるという」をさらに説明する「先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに」いう状況を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【8】～ではなく、ま(ー)～

「～ではなく、ま(ー)～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(30) 02195YF2 本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、(あー)ま、私も実習

生ということもあるんですけど、(はい)ま、すごい、いやな言い方ですけど、なめられるというか<笑>

02196OF1 はー

02197YF2 なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、(はい)で、まー、接してくれるんですけど、(はー)まー、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<笑>

(30)は、「先生としてではなく」の後ろに現れる「ま(ー)」の例である。話者 YF2 は、「お姉さんみたいに」という自分の判断と考えをを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に、相手の相槌「はい」が入っている。

5.2.1.1.2 節間の「ま(ー)」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる節間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に現れる節間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、ま(ー)～

「～けど、ま(ー)～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(31) 02085YF2 就職は、(はい)私は教師を目指しているので、(はい)まー、できれば、地元の方で

02086OF1 あ、そうですね

02087YF2 試験を受けて、受かればいいんですけど、(はい)まー、私、和歌山はすごい田舎なので、(はい)学校は少なくて

(32) 02137YF2 ま、小学生の頃は、(はい)まー、まだ、わりとできた方で〈笑〉

02138OF1 あ、そうですか

02139YF2 勉強は楽しいな(はい)と思っていたんですけど、(はい)ま、中学生は普通にあがってきてたし(はい)、で、高校受験で一度落ちて、(はー)で、まー、(はい)私の時は、前期後期制だったんですよね

(33) 02140OF1 はい、はいはい

02141YF2 後期前期受験も、(はい)後期で受かって(はい)で、また大学受験も、(はい)ま、志望の大学に届かず、(はい)こちらの大学に来たんですけど、(はい)ま、やっぱり、落ちた時に、すごい不安だし<笑>、もう、あの時は、この世の終わり位まで<笑>考えちゃったんですけど

(34) 02194OF1 そうですね

02195YF2 本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、(あー)ま、私も実習生ということもあるんですけど、(はい)ま、すごい、いやな言い方ですけど、なめられるというか<笑>

(35) 02196OF1 はー

02197YF2 なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、(はい)で、まー、接してくれるんですけど、(はー)まー、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<笑>

(36) 02200OF1 確かに、そういうが

02201YF2 ま、ちょっと恥ずかしいという気持ちもあるんですけど、異性なので(はいはい)ま、そういうのもあって、ま、最初、ちょっと、つらい経験もあったんですけど、(はい)ま、こんな経験できるのは今しかないので

(31)～(36)は、いずれも接続助詞「けど」の後ろに現れる「ま(ー)」の例である。

(31)は、話者 YF2 が地元で就職したいが、「和歌山はすごい田舎なので、(はい)学校は少なくて」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の相槌の「はい」が入っている。

(32)は、話者 YF2 が、小学生の頃は勉強ができたので、「中学生は普通にあがってきてた」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手 OF1 の相槌の(はい)が入っている。

(33)は、話者 YF2 が、こちらの大学に来る前に、志望していた大学に行けず、「やっぱり、落ちた時に、すごい不安だし」と試験に落ちた時の気持ちを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」前に相手 OF1 の相槌の「はい」が入っている。また、「ま(ー)」の後ろに、「やっぱり」の副詞があった。

(34)は、話者 YF2 が実習生なので、生徒に「いやな言い方ですけど、なめられるというか」という自分の考え方を述べる前に「ま(ー)」と使っている。「ま(ー)」の前に相手 OF1 の相槌の「はい」が入っている。また、「ま(ー)」の後ろに、副詞の「すごい」があった。

(35)は、話者 YF2 が、実習期間に、生徒たちがお姉さんとして接してくれたが、「ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして」という生徒に対する評価を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の OF1 の相槌の「はー」が入っている。

(36)は、話者 YF2 が、実習期間につらい経験があったが、「こんな経験できるのは今しかないので」という自分の主張を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の OF1 の相槌の「はい」が入っている。

これらの 6 つの例は、いずれも「ま(ー)」の前に、相手の相槌「はい」、「はー」が入っている。接続助詞「けど」の後ろに、相手は相槌が入れやすいだろう。

【2】～て、ま(ー)～

「～て、ま(ー)～」の文形は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(37) 02196OF1 はー
02197YF2 なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、(はい)で、まー、接してくれるんですけど、(はー)まー、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<笑>

(38) 02209YF2 何人か、(はい)手紙とかもくれたりして、(あら)最後は寄せ書きとか
02210OF1 まー、すごい
02211YF2 とっても、先生もいい人で、(はい)本当に、夜遅くまで指導は、(はい)とかも手伝って下さって、(はい)ま、すごいいい経験でした<笑>

(39) 02299YF2 こんなことをニュースにするんだ<笑>
02300OF1 そうですね
02301YF2 と思ったりして、まー、面白いですけどね

(37)～(39)は、いずれも接続助詞「て」の後ろに現れる「ま(ー)」の例である。

(37)は、話者 YF2 が、教育実習期間に、心無い言葉を発する子がいて、「それは、ま、中学生なので」と心無い言葉を発する子がいる原因を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に、相手 OF1 の相槌の「はい」が入っている。

(38)は、話者 YF2 が、教育実習期間にいろいろを経験して、「すごいいい経験でした」という自分の評価を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の OF1 の相槌の「はい」が入っている。

(39)は、話者 YF2 が、こんなこともニュースにするのだと思って、「面白いですけどね」という自分の評価を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【3】～ので、ま(ー)～

「～ので、ま(ー)～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げら

れる。

(40) 02084OF1 そうですね、(はい)えーと、そうすると、あのー、就職はどんな？
02085YF2 就職は、(はい)私は教師を目指しているので、(はい)まー、できれば、地元の方で

(41) 02200OF1 確かに、そういうが
02201YF2 ま、ちょっと恥ずかしいという気持ちもあるんですけど、異性なので(はいはい)ま、そういうのもあって、ま、最初、ちょっと、つらい経験もあったんですけど、(はい)ま、こんな経験できるのは今しかないので

(40),(41)の例は、いずれも「～ので」という従属節の後ろに「ま(ー)」が現れている。
(40)は、話者 YF2 が、就職について教師を目指して、「できれば、地元の方で」就職したいという自分の考え方を述べる前に「ま(ー)」を使っている。
(41)は、話者 YF2 が、教育実習期間に、男子生徒に関して、つらい経験もあって、「そういうのもあって」という前のことに対する評価を述べる前に「ま(ー)」を使っている。
ここの 2 つの例は、いずれも「ま(ー)」の前に相手の OF1 の相槌「はい」が入っている。

【4】～し、ま(ー)～

「～し、ま(ー)～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(42) 02142OF1 それは不安ですよね
02143YF2 はい、でも、今は、まー、この大学に来て(はい)本当によかったな(んー)と思うし、ま、それ、できなかった、できない子の気持ちも、(ああ)私は分かるかなと思って

(43) 02190OF1 それは、あのー、生徒さんとの関係ですか? それとも?
02191YF2 生徒との関係もですし、(はい)まー、その教室

(44) 02194OF1 そうですね
02195YF2 本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、(あー)ま、私も実習生ということもあるんですけど、(はい)ま、すごい、いやな言い方ですけど、なめられるというか<笑>

(42)～(44)は、いずれも接続助詞「し」の直後に現れる「ま(ー)」の例である。接続助詞「し」は、一般的に並立を表す。

(42)は、話者 YF2 が、自分が志望していた大学に行けなかった経験があって、今の大学に来てよかったと思って、「それ、できなかった、できない子の気持ちも、(ああ)私は分かるかなと思って」という自分の主張を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(43)は、話者 YF2 が相手の OF1 の質問「生徒さんとの関係ですか? それとも?」に対して、生徒との関係以外に、「その教室」にも関係あることを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(44) は、話者 YF2 が、生徒に関係すること以外に、「私も実習生ということもある」という自分の考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

挿入要素について、(43)は、「ま(ー)」の前に相手の相槌の「はい」が入っている。(44)は、「ま(ー)」の前に相手の相槌の「あー」が入っている。

5.2.1.1.3 文間の「ま(ー)」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に文間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.2.1.2　談話的な「ま(ー)」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、主題直後の「ま(ー)」、質問直後の「ま(ー)」、肯定直後の「ま(ー)」、否定直後の「ま(ー)」、思索直後の「ま(ー)」に分けて見ていく。

5.2.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる主題直後の「ま(ー)」を扱う。

【会話 2】には、話者 YF2 の発話の主題直後の「ま(ー)」は、次の例が挙げられる。

【1】～は、ま(ー)～

「～は、ま(ー)～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(45) 02038OF1 ケンタッキーですね、あ、そうですか
　　02039YF2 はい、私は、ま、生活館の方

(46) 02088OF1 はい、そうそう
　　02089YF2 高校生なんですけど、(はい)高校の国語は、ま、8 名くらい(はい)なので、とても狭き門なんですよ<笑>

(47) 02135YF2 あるかもしれないですね、いや、私は、そんなに、(はい)こう、ずっとうまくいってきたわけではないんですよ

02136OF1 あー、そうですか

02137YF2 ま、小学生の頃は、(はい)まー、まだ、わりとできた方で<笑>

(48) 02141YF2 後期前期受験も、(はい)後期で受かって(はい)で、また大学受験も、(はい)ま、志望の大学に届かず、(はい)こちらの大学に来たんですけど、(はい)ま、やっぱり、落ちた時に、すごい不安だし<笑>、もう、あの時は、この世の終わり位まで<笑>考えちゃったんですけど

02142OF1 それは不安ですよね

02143YF2 はい、でも、今は、まー、この大学に来て(はい)本当によかったな(んー)と思うし、ま、それ、できなかった、できない子の気持ちも、(ああ)私は分かるかなと思って

(49) 02195YF2 本当にささいなことしか知らないと思うんですけど、(はい)でも、その間でも、いろいろ、ま、生徒にもいろんな子がいますし、(あー)ま、私も実習生ということもあるんですけど、(はい)ま、すごい、いやな言い方ですけど、なめられるというか<笑>

02196OF1 はー

02197YF2 なんとなく、こう、ま、先生としてではなく、(はい)ま、お姉さんみたいに、(はい)で、まー、接してくれるんですけど、(はー)まー、ちょっと心無い言葉を発する子もいたりして、(はい)ま、それは、ま、中学生なので<笑>

(45)～(49)は、いずれも主題提示機能を持つ助詞「は」の直後の「ま(ー)」である。

(45)は、話者 YF2 が、ケンタッキーがある方ではなく、「生活館の方」でアルバイトをしていることを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(46)は、話者 YF2 が、自分が目指している高校の国語教師の採用定員は「8 名くらい(はい)なので、とても狭き門なんですよ」という自分見解を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(47)は、話者 YF2 が、自分が小学生の頃の勉強について、「まだ、わりとできた方で」という自分の評価を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(48)は、話者 YF2 が、前期の大学入試試験に落ちた時の不安な気持ちに対して、今「この大学に来て(はい)本当によかったな(んー)と思うし」という自分の見解を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(49)は、話者 YF2 が、教育実習期間に、ちょっと心無い言葉を発する子もいることについて、「それは」を発して、「中学生なので」という原因を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

挿入要素について、(47)の「ま(ー)」の前に相手の OF1 の相槌の「はい」が入っている。

【2】～も、ま(ー)～

「～も、ま(ー)～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(50) 02140OF1 はい、はいはい

02141YF2 後期前期受験も、(はい)後期で受かって(はい)で、また大学受験も、(はい)ま、志望の大学に届かず、(はい)こちらの大学に来たんですけど、(はい)ま、やっぱり、落ちた時に、すごい不安だし<笑>、もう、あの時は、この世の終わり位まで<笑>考えちゃったんですけど

(51) 02143YF2 はい、でも、今は、まー、この大学に来て(はい)本当によかったな(んー)と思うし、ま、それ、できなかった、できない子の気持ちも、(ああ)私は分かるかなと思って

02144OF1 そうですね、その気持ちも知っているということも##

02145YF2 はい、それも、まー、強みかなと思うんですね

(50),(51)は、いずれも主題提示機能を持つ助詞「も」の直後の「ま(ー)」である。

(50)は、話者 YF2 は、入学受験を受けたが、「志望の大学に届かず、(はい)こちらの大学に来たんですけど」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(51)は、話者 YF2 は、できない子の気持ちが分かると思って、それについて「強みかなと思うんですね」という自分の見解を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

挿入要素は、(50)の「ま(ー)」の前に相手の相槌「はい」が入っている。

5.2.1.2.2 質問直後の「ま(ー)」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.2.1.2.3 肯定直後の「ま(ー)

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる肯定直後の「ま(ー)」を扱う。

以下は、話者 YF2 の肯定直後の「ま(ー)」と相手の OF1 の肯定直後の「ま(ー)」に分けて記述していく。

【1】話者

(52) 02097YF2 はい、考えています、(あー)大阪は結構大変(はい)と聞いたんですけど<笑>
02098OF1 そうですか
02099YF2 はい、(んー)ま、でも、やってみたいと思って、はい、今、勉強しています

(53) 02186 OF1 挫折を知っている人が、受け持ちの先生になってもらいたいと思いますね
02186 YF2 <笑>そうですかね、ま、でも、今、いろいろ問題がたくさんあって、教育

(52),(53)は、いずれも話者の肯定直後の「ま(ー)」である。

(52)は、話者 YF2 は相手の発話の「そうですか」に対して、肯定の「はい」を発してから、「でも、やってみたいと思って」と自分の考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(53)は、話者 YF2 は相手の発話内容にまず「そうですかね」と応答して、また、自分の「今、いろいろ問題がたくさんあって」という意見を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

挿入要素について、(52)の「ま(ー)」の前に相手の相槌「んー」が入っている。また、2つの例の「ま(ー)」の後ろに「でも」が挿入されている。

【2】相手

(54) 02135YF2 あるかもしれないですね、いや、私は、そんなに、(はい)こう、ずっとうまくいってきたわけではないんですよ
02136OF1 あー、そうですか
02137YF2 ま、小学生の頃は、(はい)まー、まだ、わりとできた方で<笑>

(55) 02145YF2 はい、それも、まー、強みかなと思うんですね
02146OF1 そうですね
02147YF2 ま、すごい頭のいい人はうらやましいんですけど、<笑>私は、そこは、ちょっと努力でカバーで<笑>

(54),(55)は、いずれも相手の応答直後に現れる「ま(ー)」である。

(54)は、相手の「あー、そうですか」の応答直後に、話者 YF2 は自分の「小学生の頃」のことを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(55)は、相手の「そうですね」の応答直後に、話者 YF2 は「すごい頭のいい人はうらやましいんですけど」という自分の考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

5.2.1.2.4 否定直後の「ま(ー)」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.2.1.2.5　思索直後の「ま(ー)」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に思索直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.2.2　まとめ

以上の 5.2.1 での記述により、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 3]で示す。

[表 3]【会話 2】における話者 YF2 の「ま(ー)」の分類及び出現頻度

分類				【会話 2】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」の直前	「ま(ー)」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		代名詞、ま(ー)～	○	ー	ー	はい	ー
			名詞+を、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			副詞+、ま(ー)～	○	ー	でも	ー	ー
			形容詞、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、ま(ー)～	◎	ー	ー	ー	はい
			感嘆詞、ま(ー)～	○	ー	でも	ー	ー
			ではなく、ま(ー)～	○	ー	ー	はい	ー
			フィラー、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、ま(ー)～	●	ー	すごいやっぱり	はい、はー	ー
			～て、ま(ー)～	◎	ー	ー	はい	ー
			～ので、ま(ー)～	○	ー	ー	はい	ー
			～し、ま(ー)～	◎	ー	ー	はい、あー	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	●	ー	ー	はい	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	○	ー	でも	んー	ー
		相手		○	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 3]を見ると、【会話 2】では、統語的な「ま(ー)」が相対的に多く現れた。談話的な「ま(ー)」は主題直後、肯定直後の「ま(ー)」が現れた。また、統語的な「ま(ー)」には、句間、節間の「ま(ー)」の文形式が多く現れた。この内、句間の「接続詞、ま(ー)～」、節間の「～けど、ま(ー)～」の出現頻度が高かった。

統語的な節間、文間の「ま(ー)」では、「ま(ー)」の前に、「はい」、「あー」などの相槌が

入っている。

5.3 【会話 3】における話者 YF3 の「ま(ー)」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうし YF3 と YF4 の会話である。

5.3.1 「ま(ー)」の分布

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて記述する。

5.3.1.1 統語的な「ま(ー)」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「統語的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、句間の「ま(ー)」、節間の「ま(ー)」、文間の「ま(ー)」に分けて詳しく見ていく。

5.3.1.1.1 句間の「ま(ー)」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる句間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の句間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】～接続詞、ま(ー)～

「～接続詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(56) 03472YF4 そうですね、(うん)うん、毎週みんな集まるんですか?

03473YF3 集まって、(はい)で、まー、本当にまだ##書けるんじゃなくて、(はい)なんか、テーマはこれでどんなに進めて行くっていうの、(はい)今言っている感じですね、でも発表と言っても、報告という感じです(あ、そうなんですか)、##ってて、(はい)もう、今ここまで出来ていますって、そして、コメントして、次の人<2 人笑>

(56)は、接続詞の「で」の後ろに現れた「ま(ー)」である。話者 YF3 は、ゼミのみんなが「集まって」、「で」を発したあとに、「本当にまだ##書けるんじゃなくて、(はい)なんか、テーマはこれで、どんなに進めて行くっていうの」と論文がどこまで進んでいるかということを述べる前に、「ま(ー)」を使っている。

【2】～フィラー、ま(ー)～

「～フィラー、ま(ー)～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(57) 03164YF4 はい、あ、そうなんですね、(はい)山大に、その英語が学びやすい環境みたいのがあるんですか?

03165YF3 いや、なんか、ま、山大は、(はい)英語を学んだとき、こう、輝いてくる中で、(はい)あのー、国立で、(はい)英語をあるというので、(はい)、けっこういいかな<笑>、特に、なんか山大を調べたわけじゃないですよ

(57)は、フィラーの「なんか」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF3 は、相手の質問に対して、「いや」と応答してから、「山大は、(はい)英語を学んだとき、こう、輝いてくる中で」など詳しく説明する前に「ま(ー)」を使っている。

5.3.1.1.2　節間の「ま(ー)」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる節間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の節間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

～けど、ま(ー)～

「～けど、ま(ー)～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(58) 03161YF3 京都に行こうかなと思ったんですよ

03162YF4 あ、はいはい

03161YF3 京都府立大学に行って、(はい)英語、私、今欧米文学コースなんですけど、(はい)ま、英語が、すごい、なんか、学びやすい環境っていうか、調べたら分かったんで、(はい)行ってみたいなと思ってて

(58)は、接続詞「けど」の後ろの現れる「ま(ー)」である。話者 YF3 は、「欧米文学コースなんですけど」を発したあとに、「英語が、すごい、なんか、学びやすい環境っていうか、調べたら分かったんで」と京都府立大学に行きたい理由を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手 YF4 の相槌の「はい」が入っている。

5.3.1.1.3　文間の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に文間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2　談話的な「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に談話的な「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に主題直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に肯定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2.1　思索直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に話者の思索直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.2　まとめ

以上の 5.3.1 での記述により、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 4]で示す。

[表 4] 【会話 3】における話者 YF3 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 3】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」の直前	「ま(ー)」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		フィラー、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、ま(ー)～	○	ー	ー	はい	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 4]を見ると、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」は少なかった。統語的な「ま(ー)」は現れたが、談話的な「ま(ー)」は全く現れなかった。

統語的な「ま(ー)」には、句間の「ま(ー)」、節間の「ま(ー)」しか現れなかった。挿入要素も少なかった。

5.4 【会話 4】における話者 YF3 の「ま(ー)」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 4】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF3 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

5.4.1 「ま(ー)」の分布

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて記述する。

5.4.1.1 統語的な「ま(ー)」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「統語的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、句間の「ま(ー)」、節間の「ま(ー)」、文間の「ま(ー)」に分けて詳しく見ていく。

5.4.1.1.1 句間の「ま(ー)」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる句間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の句間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】～格助詞、ま(ー)～

「～格助詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(59) 04210OF1 あー、そうですか、(はい)そこの、家族はどうですか? 何人ぐらいですか?
04211YF3 あ、家族、ご家族ですね、もう、私たち行ったときは、もう、ちょっと、んー、老夫婦までいかないですけど、あのー、もうお子さんが、ま、社会人になられていて、(はい)2 人だけ(はい)なんですけれども、うん、すごい、お父さんの方は、毎日お酒を飲むぐらい、お酒大好きで、<笑> (んー)お母さんの方はすごく陽気な人で

(59)は、格助詞の「が」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF3 は、ホームステイ先の老夫婦の子どもさんについて話す時に、「お子さんが」を発したあとに、「社会人になられていて」を説明する前に「ま(ー)」を使っている。

【2】～副詞、ま(ー)～

「～副詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(60) 04374OF1 そうですね(はい)楽しい職場ですね、あのー、おめでたいことだから
04375YF3 そうですね、はい、すごい、まー、疲れるんですけど、いや、なんか、いい疲れだなと思いますね、研修で、そう、1日した後

(60) は、副詞の「すごい」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF3 は、仕事について、「すごい」を発したあとに、「疲れるんですけど」という状態を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【3】～フィラー、ま(ー)～

「～フィラー、ま(ー)～」の文形式は【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(61) 04044OF1 えー、どんなことを書かれるんですか?
04045YF3 そうですね、んー、ちょっと、まだ、あやふやというところなんですけど(はい)あのー、なんというかな、ちょっと、女性の強さみたい(はい)なものを、こう、テーマにして、なんか、(はい)まー、##の中でも上位っていう、2番目の(はい)女の子はすごい、(はい)男の子っぽくて、(はい)あのー、家庭を、(はい)そう、支えるっていうか、(はい)お父さんは戦争に行っておられた後、家庭を支えるために、(あー)お父さんは、あまり働いたことなかったんですけれども、女の子は

(61) は、フィラーの「なんか」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF3 は、卒業論文が女性の強さみたいなものを「テーマにして」、「なんか」を発したあとに、また、卒業論文に関係ある作品を説明する時に、「##の中でも上位っていう、2番目の(はい)女の子はすごい、(はい)男の子っぽくて」を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手の OF1 の相槌の「はい」が入っている。

(62) 04280OF1 うん、いろんな新しい言葉とかね、(うん)そういうのを、なん? 日本語検定でしたね、何でしたかね(うーん)それだったら、いいじゃないですかね
04281 YF3 えー、ま、でも、なんか、いろいろ#検定とかありますね、(あ、いろんな)いろんな検定が

(62) は、フィラーの「えー」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF3 は、相手 OF1 の発話の「日本語検定」について、「えー」を発したあとに、「でも、なんか、いろいろ#検定とか

ありますね」と日本語検定以外にいろいろな検定があることを言う前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の後ろに「でも」が入っている。

(63) 04370OF1 もう、決まったんですか、就職?
04371YF3 はい、決まりました、おかげさまで<笑>
04370OF1 うーん、(おかげさまで、はい)そうですか
04371YF3 すごい、でも、あのー、ま、いろいろ、ドレスを扱う部署だったり、(はい)その結婚式をどんなふうにしますかという、プランを立てたりすることがあったり、(はい)あるんですけど、もう、けっこうどれもすごい楽しくて

(63) は、フィラーの「あのー」の直後に現れる「ま(ー)」である。話者 YF3 は、自分の職場の仕事の内容について、「あのー」を発したあとに、「いろいろ、ドレスを扱う部署だったり」と説明する前に「ま(ー)」を使っている。

5.4.1.1.2　節間の「ま(ー)」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる節間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の節間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

～けど、ま(ー)～

「～けど、ま(ー)～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(64) 04191YF3 はい、ホームステイで
04192OF1 ふーん
04193YF3 でも、けっこう、あのー、学校に行くんですけれども、ま、ほとんど、アジア人、(はい)やっぱり同じように英語を学びにこられたアジア人がいて、けっこう、中国から、韓国(はい)とかの、お友達できました

(64) は、「けれども」の後ろの「ま(ー)」である。ここの「けれども」は「けど」と同じように扱えると考えられる。話者 YF3 は、留学した時に、学校に行くが、「ほとんど、アジア人」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

5.4.1.1.3　文間の「ま(ー)」

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に文間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.4.1.2　談話的な「ま(ー)」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、主題直後の「ま(ー)」、質問直後の「ま(ー)」、肯定直後の「ま(ー)」、否定直後の「ま(ー)」、思索直後の「ま(ー)」に分けて見ていく。

5.4.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に主題直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.4.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる肯定直後の「ま(ー)」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に肯定直後の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】話者

(65) 04183YF3 はい、英語が好きなので
04184OF1 あ、(はい)そうですね
04185YF3 はい、ま、行く前は、ちょっと、すごい緊張して(うーん)前日は、もう行きたくないなと思ってたんですけど(あー)行ってみると、すごい、あのー、ホストファミリーも、(はい)親切で

(65) は、話者の「はい」の肯定応答の直後に現れる「ま(ー)」である。話者 YF3 は、相手 OF1 の発話に「はい」と応答してから、「行く前は、ちょっと、すごい緊張して」と留学に行く前の状況を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【2】相手

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に相手の肯定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.4.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.4.1.2.1　思索直後の「ま(ー)」

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に話者の思索直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.4.2　まとめ

以上の 5.4.1 での記述により、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」の

分類および出現頻度を次の[表 5]で示す。

[表 5] 【会話 4】における話者 YF3 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="4">分　　類</th><th colspan="5">【会話 4】</th></tr>
<tr><th rowspan="3">頻度</th><th colspan="4">挿入要素</th></tr>
<tr><th rowspan="2">「ま(ー)」の直前</th><th rowspan="2">「ま(ー)」の直後</th><th colspan="2">相槌</th></tr>
<tr><th>前</th><th>後</th></tr>
<tr><td rowspan="5">統語的な「ま(ー)」</td><td colspan="2" rowspan="3">句間</td><td>名詞+格助詞、ま(ー)～</td><td>○</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>副詞、ま(ー)～</td><td>○</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>フィラー、ま(ー)～</td><td>◎</td><td>ー</td><td>でも、なんか</td><td>はい</td><td>ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">節間</td><td>～けど、ま(ー)～</td><td>○</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td colspan="2">文間</td><td>～、ま(ー)～</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td rowspan="9">談話的な「ま(ー)」</td><td colspan="2">主題直後</td><td>～は(も)、ま(ー)～</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">質問直後</td><td>話者</td><td rowspan="2">ま(ー)～</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>相手</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">肯定直後</td><td>話者</td><td rowspan="2">「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～</td><td>○</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>相手</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">否定直後</td><td>話者</td><td rowspan="2">いや(じゃない)、ま(ー)～</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>相手</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">思索直後</td><td>話者</td><td rowspan="2">～、ま(ー)～</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
<tr><td>相手</td><td>×</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td><td>ー</td></tr>
</table>

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 5]を見ると、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」は相対的に少なかった。統語的な「ま(ー)」は相対的に多く現れたが、談話的な「ま(ー)」では、話者の肯定直後の「ま(ー)」しか現れなかった。

5.5　【会話 3】における話者 YF4 の「ま(ー)」

本節では、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF3 と 20 代の女性 YF4 の会話である。

5.5.1　「ま(ー)」の分布

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.1.1　統語的な「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に統語的な「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.1.1.1　句間の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に句間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.1.1.2　節間の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に節間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.1.1.3　文間の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に文間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.1.2　談話的な「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に談話的な「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に主題直後の「ま(ー)」が観察されなかった。

5.5.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.3.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に肯定直後の「ま(ー)」が観察されなかった。

5.5.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.1.2.1　思索直後の「ま(ー)」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に話者の思索直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.5.2　まとめ

以上の 5.5.1 での記述により、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 6]で示す。

[表 6]【会話 3】における話者 YF4 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 3】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	節間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 6]を見ると、【会話 3】における話者 YF4 の発話に「ま(ー)」は全く観察されなかった。

5.6　【会話 5】における話者 YF4 の「ま(ー)」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 5】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF4 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

5.6.1　「ま(ー)」の分布

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて記述する。

5.6.1.1　統語的な「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に統語的な「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.1.1　句間の「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に句間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.1.2　節間の「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に節間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.1.3　文間の「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に文間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.2　談話的な「ま(ー)」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、主題直後の「ま(ー)」、質問直後の「ま(ー)」、肯定直後の「ま(ー)」、否定直後の「ま(ー)」、思索直後の「ま(ー)」に分けて見ていく。

5.6.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に主題直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる肯定直後の「ま(ー)」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に肯定直後の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】話者

(66) 05287YF4 はい、あれですよね、維新公園のところですよね
05288OF1 アリーナですね
05289YF4 はい、ま、ぜんぜん変わらないですね、じゃずっと前から

(67) 05141YF4 え、紙粘土とかでも
05142OF1 紙粘土は、なかったんでしょうよ
05143YF4 あ、そうなんですか、ま、油粘土と言うんですかね、あのー、緑のやつ

(66),(67)は、いずれも話者 YF4 の肯定な応答直後の「ま(ー)」である。

(66)は、卒業式は維新公園のアリーナで行うという話である。話者 YF4 は、相手の OF1 の発話に「はい」と応答してから、「ぜんぜん変わらないですね、じゃずっと前から」と自分の考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(67)は、話者 YF4 も、相手の OF1 の発話に「あ、そうなんですか」と応答してから、「油粘土と言うんですかね、あのー、緑のやつ」と自分の判断を言う前に「ま(ー)」を使っている。

【2】相手

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に相手の肯定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.1.2.1　思索直後の「ま(ー)」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に話者の思索直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.6.2　まとめ

以上の 5.6.1 での記述により、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 7]で示す。

[表 7] 【会話 5】における話者 YF4 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 5】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」の直前	「ま(ー)」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	節間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 7]を見ると、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」は少なかった。談話的な「ま(ー)」の中の話者の肯定直後の「ま(ー)」しか現れなかった。挿入要素は現れなかった。

5.7 【会話 6】における話者 YF5 の「ま(ー)」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 6】は、「知り合い会話」の 20 代の女性 YF5 と 30 代の女性 YF6 の会話である。

5.7.1 「ま(ー)」の分布

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて記述する。

5.7.1.1 統語的な「ま(ー)」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる統語的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、句間の「ま(ー)」、節間の「ま(ー)」、文間の「ま(ー)」に分けて詳しく見ていく。

5.7.1.1.1 句間の「ま(ー)」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる句間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 6】には、話者 YF5 の句間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

格助詞、ま(ー)～

「格助詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 6】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(68) 06290YF5 だから、山大の中で、けっこういらっしゃるじゃないですか、先生って
06291YF6 うん、そうですね
06292YF5 その中で、(うんうん)ま、10 人に満たないぐらいなので、(あ、そうか)わりと、少ないじゃない

(68) は、格助詞「で(ー)」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、山大のテニュアの先生について、「その中で」を発してから、「10 人に満たないぐらいなので」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に、相手 YF6 の「うんうん」が入っている。

5.7.1.1.2 節間の「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に節間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.1.1.3 文間の「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に文間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.1.2　談話的な「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に談話的な「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に主題直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に肯定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.1.2.4　否定直後の「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.1.2.1　思索直後の「ま(ー)」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に話者の思索直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.7.2　まとめ

以上の 5.7.1 での記述により、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 8]で示す。

[表 8] 【会話 6】における話者 YF5 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 6】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」の直前	「ま(ー)」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		名詞+格助詞(で)、ま(ー)～	○	ー	ー	うん	ー
	節間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　挿入要素　ー:挿入要素現れない

[表 8]を見ると、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」は少なかった。名詞句+格助詞の句間の「ま(ー)」しか現れなかった。「ま(ー)」の前に相手による相槌「うん」が入っている。

5.8　【会話 7】における話者 YF5 の「ま(ー)」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」を扱う。

【会話 7】は、「知り合い会話」の 20 代の女性 YF5 と 60 代の女性 OF2 の会話である。

5.8.1　「ま(ー)」の分布

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて記述する。

5.8.1.1　統語的な「ま(ー)」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「統語的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、句間の「ま(ー)」、節間の「ま(ー)」、文間の「ま(ー)」に分けて詳しく見ていく。

5.8.1.1.1　句間の「ま(ー)」

【1】名詞+格助詞、ま(ー)～

「名詞+格助詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(69) 07089OF2 なるほどね

07090YF5 好きで、(あー)せっかく、ちょっと進路を変えられるチャンスだから、(うんうん)ちょっとデザインとか、(うん)やっぱり、こう、パソコンでやるっていう、やっぱりイメージがあったので、(うん)やっぱり、そういう系をちょっと、せっかくなら、大学に行くのなら、勉強しようと思って、で、いろんな大学を見たんですけど、(んー)工学部から編入できそうな理系で、あのー、デザインやってるてなくって、意外と、プロダクトとかだったら、(うんうん)まー、受ける人があったんですけど、(うんうん)そのー、ビジュアルデザインとか、まー、2 次元というか、(うんうん)あのあたりで、ま、高専から、こういう専門で、編入っていうと、もう、山大くらいしかなくて

(69)は、格助詞「で」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、高専で「ビジュアルデザイン」、「2 次元」という専門の「あたりで」を発してから、「高専から、こういう専門で、編入っていうと、もう、山大くらいしかなくて」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【2】～接続詞、ま(ー)～

「～格助詞、ま(ー)～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(70) 07068 YF5 英語とか、数学とか、(あ、はいはい)100 点満点とか、(え、え)あるんですけど、まったく対策もせず、受けて、(うんうん)なんか、受かって<笑>

07069OF2 んー

07070YF5 で、まー、なんていうんですかね、(んー)たまたま私が受けたのが、(うん)あのー、情報電子っていう学科で、(あー、そうなんだ)なんか、パソコンとか、(はいはいはい、そうですね)ハードやソフト系だったんですけど、まー、そのころ、あの、家庭にパソコンが普及してて、(うんうん)で、なんか、こう、やっぱパソコン面白そうみたいな、(んー)興味があったんですよ、(うんうん)で、まー、高専せっかく受かったし、(うんうん)行こうと思って、(んー)高専に行きました

(70)は、接続詞の「で」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「で」を発してから、「たまたま私が受けたのが」と受ける科目を詳しく説明する前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の後ろに、話者の「なんていうんですかね」が挿入された。

(71) 07068 YF5 英語とか、数学とか、(あ、はいはい)100 点満点とか、(え、え)あるんですけど、まったく対策もせず、受けて、(うんうん)なんか、受かって<笑>

07069OF2 んー

07070YF5 で、まー、なんていうんですかね、(んー)たまたま私が受けたのが、(うん)あのー、情報電子っていう学科で、(あー、そうなんだ)なんか、パソコンとか、(はいはいはい、そうですね)ハードやソフト系だったんですけど、まー、そのころ、あの、家庭にパソコンが普及してて、(うんうん)で、なんか、こう、やっぱパソコン面白そうみたいな、(んー)興味があったんですよ、(うんうん)で、まー、高専せっかく受かったし、(うんうん)行こうと思って、(んー)高専に行きました

(71)も、接続詞の「で」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「高専せっかく受かったし、(うんうん)行こうと思って」と自分の考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。

(72) 07104YF5 はい、で、建築系の方には、その一緒というか、もう、建築専門の先生いるん(うんうん)ですけど、(うん)○○先生と

07105OF2 ○○先生知っている、うん、そうね、そうね

07106YF5 はい、(んー)なので、まー、○○先生しか、ちょっと専門家で習った人しかいない

(72)は、接続詞の「なので」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「○○先生しか、ちょっと専門家で習った人しかいない」という事実を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【3】～フィラー、ま(ー)～

「～フィラー、ま(ー)～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(73) 07083OF2 何をやってたんですか?

07084YF5 えーとですね、まー、アーチェリー部と、(アーチェリー)美術部と、(えー)伝統文化と同好会と、(伝統文化、えー)、なんか、アイドルとかしてたんですよ

(73)は、フィラーの「えーとですね」の直後の「ま(ー)」である。話者 YF5 は、大学時代にやっていた部活を言い出す前に「ま(ー)」を使っている。

【4】～とか、ま(ー)～

「～とか、ま(ー)～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(74) 07089OF2 なるほどね

07090YF5 好きで、(あー)せっかく、ちょっと進路を変えられるチャンスだから、(うんうん)ちょっとデザインとか、(うん)やっぱり、こう、パソコンでやるっていう、やっぱりイメージがあったので、(うん)やっぱり、そういう系をちょっと、せっかくなら、大学に行くのなら、勉強しようと思って、で、いろんな大学を見たんですけど、(んー)工学部から編入できそうな理系で、あのー、デザインやってるってなくって、意外と、プロダクトとかだったら、(うんうん)まー、受ける人があったんですけど、(うんうん)そのー、ビジュアルデザインとか、まー、2 次元というか、(うんうん)あのあたりで、ま、高専から、こういう専門で、編入でっていうと、もう、山大くらいしかなくて

(74)は、「ビジュアルデザインとか」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「2 次元というか」とさらに「ビジュアルデザイン」を説明する前に、「ま(ー)」を使っている。

5.8.1.1.2　節間の「ま(ー)」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる節間の「ま(ー)」を扱う。

【会話 7】には、話者 YF5 の節間の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、ま(ー)～

「～けど、ま(ー)～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(75) 07068 YF5 英語とか、数学とか、(あ、はいはい)100 点満点とか、(え、え)あるんですけど、まったく対策もせず、受けて、(うんうん)なんか、受かって<笑>

07069OF2 んー

07070YF5 で、まー、なんていうんですかね、(んー)たまたま私が受けたのが、(うん)あのー、情報電子っていう学科で、(あー、そうなんだ)なんか、パソコンとか、(はいはいはい、そうですね)ハードやソフト系だったんですけど、まー、そのころ、あの、家庭にパソコンが普及してて、(うんうん)で、なんか、こう、やっぱパソコン面白そうみたいな、(んー)興味があったんですよ、(うんうん)で、まー、高専せっかく受かったし、(うんうん)行こうと思って、(んー)高専に行きました

(75)は、節間の接続詞「けど」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、受けた情報電子と言う学科が「パソコンとか、(はいはいはい、そうですね)ハードやソフト系だった」が、「そのころ、あの、家庭にパソコンが普及してて」とパソコンが普及している状況を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

【2】～ので、ま(ー)～

「～ので、ま(ー)～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(76) 07107OF2 それで、X 先生の、ドクター、じゃ、1 号になるの、もしかして

07108YF5 あ、ドクターですね、2 号だったんです

07109OF2 あ、2 号だったん

07110YF5 まー、でも、なんていうんですかね、その、一番最初の、ドクター取った方は、(うん)あのー、X 先生が、その時、指導できる立場じゃなかったので、(んー)ま、その時は、まだ、(うんうん)Y 先生のところに、(うんうん)ドクターとして入って、(うんうん)で、指導は X 先生から受けて

(76)は、節間の接続詞「ので」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「X 先生が指導できる立場じゃなかったので」を発してから、「その時は、まだ、」と前の発話の内容を強調する前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に、相手 OF2 の相槌の「んー」が入っている。

(77) 07092YF5 そうですね、だから、もう、今カリキュラムも新しくなっちゃって、全部建築なんですけど

07093OF2 あ、そうなんだ

07094YF5 そうなんですよ、私が入学した時では、(うん)建築のコースと、(うん)後は、情報系のコースがあって、(うん)で、情報系は、プログラミングとかも入ってたんですよ、(うん)で、その中に、デザインの先生もいるというので、ま、なんていうんですかねー、こう、専門で、ガツッリデザインというのは、今から無理だろう、今の時点で入るのは無理だろう(あー)と思って、で、今までやってきたことも、伸ばせるし、(うん)新しくデザインも取り入れられると思って、はい、山大を受けました

(77)も、節間の接続詞「ので」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「デザインの先生もいるというので」を発してから、「専門で、ガツッリデザインというのは、今から無理だろう」などと述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に「なんていうんですかねー、こう」のフィラーが入っている。

【3】～たら、ま(ー)～

「～たら、ま(ー)～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(78) 07089OF2 なるほどね

07090YF5 好きで、(あー)せっかく、ちょっと進路を変えられるチャンスだから、(うんうん)ちょっとデザインとか、(うん)やっぱり、こう、パソコンでやるっていう、やっぱりイメージがあったので、(うん)やっぱり、そういう系をちょっと、せっかくなら、大学に行くのなら、勉強しようと思って、で、いろんな大学を見たんですけど、(んー)工学部から編入できそうな理系で、あのー、デザインやてっるってなくって、意外と、プロダクトとかだったら、(うんうん)まー、受ける人があったんですけど、(うんうん)そのー、ビジュアルデザインとか、まー、2 次元というか、(うんうん)あのあたりで、ま、高専から、こういう専門で、編入っていうと、もう、山大くらいしかなく

て

(78)は、節間の接続詞の「たら」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「プロダクトとかだったら」を発してから、「受ける人があったんです」ということを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に相手 OF2 の相槌「うんうん」が入っている。

5.8.1.1.3　文間の「ま(ー)」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に文間の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.8.1.2　談話的な「ま(ー)」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」を扱う。

以下では、主題直後の「ま(ー)」、質問直後の「ま(ー)」、肯定直後の「ま(ー)」、否定直後の「ま(ー)」、思索直後の「ま(ー)」に分けて見ていく。

5.8.1.2.1　主題直後の「ま(ー)」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる主題直後の「ま(ー)」を扱う。

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に主題直後の「ま(ー)」は次の文形式が観察された。

～も、ま(ー)～

「～も、ま(ー)～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(79) 07081OF2 あー、そうなんだ、それで、えーと、あの、編入して、(はい)編入した時は、もう、じゃ、そのまま、院にまで行こうと思ってたの?

07082YF5 いや、まったく思ってなくって、(うん)なんか、あのー、うちの高専って言うのは、ハードからソフトまで、(うん)とりあえず一通りやろうという、けっこう、こう、広く、浅く(うんうん)っていう感じだったんですよ、(うん)なので、もうちょっとこう、このまま仕事ができないんじゃないかと、なんか、自分で思って、(んー)で、ちょっと中途半端かな、技術的に、(んー)なので、せっかくなので、で、うちの親も、ま、大学くらいは行ったら、いいじゃないっていう、(うんうん)言ってくれて、(うんうん)でー、で、私けっこう、その時に、あのー、部活を掛け持ちしてたんですよ

(79)は、主題提示機能を持つ助詞「も」の後ろの「ま(ー)」である。話者 YF5 は、「うちの親も」を発してから、「大学くらいは行ったら、いいじゃない」と話者の親の意見を述べる前に「ま(ー)」を使っている。

5.8.1.2.2　質問直後の「ま(ー)」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に質問直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.8.1.2.3　肯定直後の「ま(ー)」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に肯定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.8.1.2.4 否定直後の「ま(ー)」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に否定直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.8.1.2.1　思索直後の「ま(ー)」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に思索直後の「ま(ー)」は観察されなかった。

5.8.2　まとめ

以上の 5.8.1 での記述により、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 9]で示す。

［表 9］【会話 7】における話者 YF5 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 7】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」の直前	「ま(ー)」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		名詞+格助詞、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、ま(ー)～	◎	ー	ー	ー	ー
			フィラー、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			～ので、ま(ー)～	○	ー	なんていうんですかね	んー	ー
			～たら、ま(ー)～	○	ー	ー	うん	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	○	ー	まだ	はい	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 9]を見ると、【会話 7】では、統語的な「ま(ー)」が相対的に多く現れた。談話的な「ま(ー)」は主題直後の「ま(ー)」しか現れなかった。また、統語的な「ま(ー)」には、句間、節間の「ま(ー)」の文形式が多く現れた。

第 6 章　「なんか」の記述

本章では、4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 の発話に現れるフィラーの「なんか」を分類し、会話ごとに「なんか」の分布、および分布のまとめを記述する。

本研究は、フィラーの出現位置により、フィラーを分類している。分類の詳細は第 5 章に示している。

記述に入る前に、本研究で分析対象としない「なんか」を示しておこう。

(80) a. なんか暖かいものがほしいな。
　　b. 子どもが帰ってこない日曜日はなんかさびしい。
　　c. 彼なんかの話を聞かないほうがいい。
　　d. 老後の趣味に油絵なんかどうですか?

上の(80a)の「なんか」は代名詞であり、不特定のものを表す。(80b)の「なんか」は副詞で、形容詞などを修飾する働きをする。(80c)と(80d)の「なんか」は副助詞で、類例の例示を示す。(80c)の「なんか」は「など」の意味である。(80d)の「なんか」は、例示される例が価値的に低いものである。これらの 4 種類の「なんか」はフィラーではないため、分析対象外とする。

本章では、会話データを挙げる場合、「なんか」が含まれている発話は言うまでもなく、その前後の発話も合わせて挙げる。これは文脈を明確にするためである。

以下では、4 人の話者の統語的な「なんか」と談話的な「なんか」の例を挙げながら、詳しく見ていく。

6.1　【会話 1】における話者 YF2 の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 1】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうし、YF1 と YF2 の会話である。

6.1.1　「なんか」の分布

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.1.1.1　統語的な「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見て

いく。

6.1.1.1.1　句間の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～名詞+格助詞、なんか～

「～名詞+格助詞、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(81) 01033YF1 教育なんですか？学部的には
01034YF2 いや、あのー、メディ？ん？メディカル？なんか、(えー)宇部、宇部に、なんか、大学があって、(うんうん)そこから来てるんで、(んー)ぜんぜん、その、学部とかは

(81)では、「なんか」の直前に、名詞「宇部」と格助詞「に」が現れている。「宇部に」は名詞句であるので、名詞句の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、句間に「なんか」が現れている。話者 YF2 は、相手の質問に学生は「教育なんですか」に対して、宇部に「大学があって、(うんうん)そこから来てるんで」を詳しく説明するために、「なんか」を使っている。

【2】～副詞、なんか～

「～副詞、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(82) 01065YF1 今、勉強(んー)どうですか？
01066YF2 ぜんぜん、ぜんぜん、なんか、<笑>うまくいかないですけどね<笑>

(82)では、副詞「ぜんぜん」の直後に「なんか」が現れているので、副詞句間の「なんか」である。話者 YF2 は、副詞「ぜんぜん」で勉強状況の大変さを強調してから、勉強が「うまくいかない」という状況を述べる前に、「なんか」を使っている。

(83) 01235YF1 そうそう、なんか、あっちの人もやっと分かってくれたような感じばかりで、(うんうん)で、でも、みんな親切だったのは、それはよかったんですけど
01236YF2 えー、すごい、なんか冷たいイメージあるんですよね

(83)では、「すごい」の直後に現れている「なんか」である。文脈から見ると、相手 YF1 の留学先の「みんな親切だった」という内容に、話者 YF2 は、外国、学国人に対してすごく冷たいイメージがあると思っている。「すごい」は副詞と考えられる。(82)と同じく、話者は副詞を発してから、具体的な内容を述べる前に「なんか」を使っている。

【3】～接続詞、なんか～

「～接続詞、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(84) 01099YF1 敬語とかだったらやっぱり出ないけど、(うん)、うん、さっきのマリカも佐賀県なんですけど(うん)、ふっと話すとか、めっちゃ、意識しているわけじゃないから、(うん)めっちゃ出ちゃう、本当に出ますよ

01100YF2 でも、なんか、安心すると、##<2 人笑>めっちゃ面白いですよね

(84)では、接続詞「でも」の直後に「なんか」が現れているので、接続詞句間の「なんか」である。YF1 は、意識していない時に、方言がかなり出ると言っている。話者 YF2 は、「でも」を発してから、相手の発話内容について、「安心すると」方言が出るという自分の理解を述べる前に「なんか」を使っている。

(85) 01182YF2 そうです、そうです

01183YF1 えー

01184YF2 本当は地元の和歌山を、(うん)受かったらよかったんですけど、(うん)ちょっと足りなくて、(うん)でー、なんか、バンザイのシステムとか知っていますか？

(85)では、接続詞「でー」の直後に現れている「なんか」であるので、接続詞句間の「なんか」である。文脈から話者 YF2 は、地元の和歌山の大学に点数が足りず、「バンザイのシステム」を通じて今の大学に来たことが分かる。YF2 は、接続詞「でー」を発してから、「バンザイのシステムとか知っていますか」と相手に聞く前に「なんか」を使っている。

【4】～フィラー、なんか～

「～フィラー、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(86) 01024YF2 あ、そうなんですか、えー

01025YF1 うんうん

01026YF2 私は、ここの、あのー、〇〇ゼミっていうゼミの、えー、なんか、1 回目の授業が終わってから、(うん)〇〇さんがいらっしゃって、(へー)<笑>なんか、女性でないとだめみたいな(んー)こと言ってたので、私 1 人なんですよ

(86)では、フィラー「えー」の直後に現れる「なんか」である。フィラーは句と考えられるので、この例は、句間の「なんか」である。会話の 2 人は初対面だったので、話者 YF2 は、自己紹介しながら、「えー」を発してから、具体的な事情「1 回目の授業が終わってから」を説明する前に「なんか」を使っている。

6.1.1.1.2 節間の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、なんか～

「～けど、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(87) 01035YF1 そうなんですね

01036YF2 違うんですけど、はい、(えー)4 人でやってます、で、でも、つい、この前、始まったばかりなんですけど、(うん)明日 2 回目の授業があるんですけど、(んー)なんか、卒論の(うん)題目(はい)を決めないといけないんじゃないですか、(はい)もう決めました?

(87)では、接続助詞「けど」の後ろに「なんか」が現れている。「～けど」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF2 は、「明日 2 回目の授業があるんですけど」を発してから、「卒論の題目を決めないといけない」ということを述べる前に、「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「んー」が入っている。

(88) 01059YF1 えー、校長って、院に行かないと無理なんですか?

01060YF2 なんですかね、たぶん、院にいかないといけないことは、(うん)<笑>どうですかね、(うん)私は、校長先生にあまりなりたいとは思わないので、<笑>(うん)あまり分からないですけど、なんか、院に行くって、(えー)ぜんぜん勉強してないですけどね、<2 人笑>、あと 2 年あるから、いいわーみた

い、<笑>言ってて、えーと、こんな、校長になるような感じの人ではないですね<笑>

(89) 01165YF1 そんなキャラじゃない?
01166YF2 ぜんぜん違う、すごい超面倒くさがりだし、(<笑>)##(<笑>)と感じなんですけど、(うん)なんか、会長を務めるといって、(うん)まじで？できるん？っていう感じ

(88),(89)はいずれも接続助詞「けど」の節間の「なんか」である。(88)では、話者 YF2 は、「あまり分からないですけど」と発したあとに、「院に行くって、ぜんぜん勉強してない」ということを述べる前に「なんか」を使っている。(89)では、話者 YF2 は、登場人物の第三者について「面倒くさがり」「感じなんですけど」を発したあとに、「会長を務める」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「うん」が入っている。

【2】～て、なんか～

「～て、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(90) 01024YF2 あ、そうなんですか、えー
01025YF1 うんうん
01026YF2 私は、ここの、あのー、○○ゼミっていうゼミの、えー、なんか、1 回目の授業が終わってから、(うん)○○さんがいらっしゃって、(へー)<笑>なんか、女性でないとだめみたいな(んー)こと言ってたので、私 1 人なんですよ

(90)では、従属接続詞「て」の後ろに「なんか」が現れている。「～て」は従属節であるので、節間の「なんか」と言える。話者 YF2 は、「○○さんがいらっしゃって」を発したあとに、「女性でないとだめみたいな」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「て」従属節と「なんか」の間に相手の驚き「へー」と話者の<笑>が入っている。

【3】～し、なんか～

「～し、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(91) 01283YF1 うん、人足りてないと

01284YF2 そうなんですよ、(えー)止めないといけないなと思うんですけど、(うん)もうけっこうほかの人とか止めたり、(うん)休んだりしてて、私、なぜか、マネージャーになってしまって、(うん)2 年生の時に、(うん)でー、マネージャーだと、こういろいろ、責任もあるし、(うん)なんか、普通のクルーの子よりは、入らないといけないときもあるし、いろいろあって、(えー)すごい後悔してます

(91)では、接続助詞「し」の後ろに「なんか」が現れている。「～し」は従属節であるので、節間の「なんか」と言える。話者 YF2 は、「マネージャーだと、こういろいろ、責任もあるし」を発したあとに、「普通のクルーの子よりは、入らないといけないときもある」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うん」が入っている。

6.1.1.1.3　文間の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる文間の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の文間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～ます、なんか～

「～ます、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(92) 01091YF1 分かりますよ、でも、なんか、ちょっと関、ちょっとというか、ぜんぜん関西、(あー)ぜんぜん関西弁でも

01092YF2 あー、よく言われます、なんか、こっちに来てから、(うん)最初はけっこう、しゃべってたんですけど、(うんうん)通じなくて<2 人笑 >

(92)では、文「よく言われます」の直後に「なんか」が現れているので、文間の「なんか」と言える。話者 YF2 は、「こっちに来てから、最初はけっこう、しゃべってたんです」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～ですね、なんか～

「～ですね、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(93) 01348YF2 あ、チャリだけど<2 人笑>

01349YF1 ##もう辞めたけど

01350YF2 えー、いいですね、(うん)なんか、楽しそうだし、社会経験になりますね

(93)では、文「いいですね」の後ろに「なんか」が現れているので、文間の「なんか」と言える。話者 YF2 は、相手のアルバイトについて「楽しそうだし、社会経験になります」という自分の評価を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「うん」が入っている。

【3】～ですよ、なんか～

「～ですよ、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(94) 01173YF1 え、ゼミは違うんですか？

01174YF2 ゼミは違うんですよ(うん)なんか、文芸で、4 つあって、(うん)私の、その言語のところと、音楽と、(うん)英語と、(うん)あと美術、(うん)4 つあるんですけど、(うん)ゴウケンは音楽のところに<笑>

(94)では、文「ゼミは違うんですよ」の後ろに「なんか」が現れているので、文間の「なんか」と言える。話者 YF2 は、「文芸で、4 つあって」などゼミについて詳しく説明するときに「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「うん」が入っている。

6.1.1.2　談話的な「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「なんか」を扱う。

以下では、主題直後の「なんか」、質問直後の「なんか」、肯定直後の「なんか」、否定直後の「なんか」、思索直後の「なんか」に分けて見ていく。

6.1.1.2.1　主題直後の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる主題直後の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の主題直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

～は、なんか～

「～は、なんか～」の文形式は、【会話 1】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(95) 01057YF1 あ、そうなんですね

01058YF2 はい、(えー)院に行くって、すごいなぁと思います、その子は、なんか、校長先生になりたいらしくて<笑>

(95)では、「なんか」の直前に副助詞「は」が現れている。「その子は」の「は」は主題を提示する機能があるので、主題直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF2 は、「その子」について「校長先生になりたいらしく」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

6.1.1.2.2　質問直後の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる質問直後の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、質問直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

【会話 1】には、話者 YF2 の質問直後の「なんか」が観察されなかった。

【2】 相手

【会話 1】には、相手の質問直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

(96) 01301YF1 えー、どんなクーレムされるんですか？
　　01302YF2 なんか、そのときは、こっちのミスで

(96)では、相手の質問「どんなクレームされるんですか」の直後に、話者 YF2 の発話頭に現れる「なんか」である。これは、相手の質問直後の「なんか」である。話者 YF2 は、相手の質問について「そのときは、こっちのミスで」と説明する時に「なんか」を使っている。

6.1.1.2.3　肯定直後の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる肯定直後の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、話者 YF2 の肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

【会話 1】には、話者の肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

(97) 01027YF1 あ、そうなんですか
　　01028YF2 はい、(へー)なんか、○○さんだけ残っててって言われて、(<笑>)なんやろう、何かしたかなぁ(うん)と思っていると、ふわふわしてたら、○○さんが来て、(うん)手伝ってください(うん)って言われて、あ、はい<笑>

(97)では、話者 YF2 の肯定な応答「はい」の直後に、「なんか」が現れているので、相手の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF2 は、相手の発話に応答してから、「〇〇さんだけ残っててって言われて」という具体的なことを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の驚き「へー」が入っている。

【2】 相手

【会話 1】には、相手肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

(98) 01094YF2 ぜんぜん通じなくて、え？なんて？どういう意味？こう(うん)聞かされているうちに、もういいや<2 人笑>
01095YF1 なるほど
01096YF2 なんか、混ざってきちゃいました、いろいろ(うん)でも、普通に、今ちょっと敬語とか話しているんですけど、(うんうん)ため口っていうか、(うんうん)普通のしゃべり方だと、バリバリ出ていると思います<笑>

(98)では、相手の応答「なるほど」の直後に、話者のフィラー「なんか」が現れているので、相手の肯定直後の例と言える。話者 YF2 は、前の発話に続き、方言と標準語が「混ざってきちゃいました」という状況を述べる前に「なんか」を使っている。

(99) 01306YF2 いや、持って来てみたい感じ(うん)で言われて、基本は、ま、持って行ってないですけど、(うん)でもすごい怒ってて、(うん)ちょうど私その時間で仕事あがりだったんで、(うん)じゃ、ついでに自分持っていきますと言ったんですけど、(うん)道ぜんぜん分からなくて、<笑>(うん)私車最近持ったばかりだし、<笑>(うんうん)山口の道ぜんぜん分からないし
01307YF1 そうですね
01308YF2 なんか、で、グーグルマップで(うん)行ったんですけど<笑>

(99)では、相手の肯定応答「そうですね」の直後に「なんか」が現れているので、相手の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF2 は、前の発話に続き、山口の道が分からないから、「グーグルマップで行ったんですけど」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに接続詞「で」が現れている。

6.1.1.2.4 否定直後の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる否定直後の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、否定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

【会話 1】には、話者の否定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

(100) 01285YF1 でも、自分ではマネージャーになりたいですみたいな?

01286YF2 いや、なんか、なってってて言われて、(うん)でー、ま、その、前のパートのマネージャーと学生のマネージャーがありますけど、(うん)学生のマネージャーが全部抜けてしまう、(うん)となって、#を作らないといけない私と、もう 1 人の人文の(うん)女の子はなってってて言われて、どっちも断れなくてみたいな、<2 人笑>感じですね、すごい面倒くさいですよ、マックのマネージャーになるの、研修に行かないといけなくて、(えー)福岡に、天神に、3 泊 4 日で

(100)では、否定応答詞「いや」の直後に「なんか」が現れているので、否定直後の「なんか」である。話者 YF2 は、相手の質問に対して、否定の応答のあとに、「なってってて言われて」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】 相手

【会話 1】には、相手の否定直後の「なんか」の文形式が観察されなかった。

6.1.1.2.5 思索直後の「なんか」

本節では、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる思索直後の「なんか」を扱う。

【会話 1】には、思索直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

【会話 1】には、話者の思索直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

(101) 01033YF1 教育なんですか？学部的には

01034YF2 いや、あのー、メディ？ん？メディカル？なんか、(えー)宇部、宇部に、なんか、大学があって、(うんうん)そこから来てるんで、(んー)ぜんぜん、その、学部とかは

(101)では、「あのー、メディ？ん？メディカル？」の直後に「なんか」が現れている。フィラー「あのー」、単語「メディ」の重複、疑問符「？」の使用から、話者は思索中であることが分かった。話者 YF2 は、大学の名前が思い出せない場合、「宇部に」「大学があって」という別の方法で学生が来た大学を説明するときに「なんか」を使っている。

(102) 01111YF1 大浴場みたいな？

01112YF2 うん、浴場？なんか、この机ぐらい、(えー)すごくちっちゃい、ところで、(うん)どきどきしながら入ったら、(うん)高校の部活の先輩がいて、(えー)えーーとみたいな、○○先輩、って感じになって、話してたら、(うん)同じ文芸芸能のコースのことに気づいて、(えー)で、そう、学年も先輩何人？いたので、(うん)一緒だったんですよ、でも、今まったく同じコース(えー)学年で、でもお互い何も知らなくて

(102)では、「浴場？」の直後に現れる「なんか」である。文脈から、大学の寮のお風呂についての話である。話者 YF2 は、相手の発話「大浴場みたいな？」に賛成ではないが、適当な説明方法がまだ見つかっていない。この例は、話者の思索直後の「なんか」である。話者 YF2 は、「この机ぐらい、すごくちっちゃい」とお風呂の広さを説明するときに、「なんか」を使っている。

【2】 相手

【会話 1】には、「相手思索直後」の「なんか」は次の文形式が観察された。

(103) 01327YF1 今はやってないんですけど、(うん)前は、あのー、ペペサールっていう、(うん)湯田にある、(うん)個人経営の(うん)

01328YF2 なんか、名前聞いたことある

(103)では、「なんか」の前に、「ペペサールっていう」「湯田にある」「個人経営の」の 3 つの店を説明する修飾語があるので、相手が店を説明するため、まだ思索中だと言えるので、相手思索直後の「なんか」の例である。話者 YF2 は、相手の思索の直後に店について「名前を聞いたことある」を述べる前に「なんか」を使っている。

6.1.2 まとめ

以上の 6.1.1 での記述により、【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を、次の[表 10]で示す。

[表 10] 【会話 1】における話者 YF2 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 1】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞+格助詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			副詞、なんか～	○	ー	<笑>	ー	ー
			接続詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			フィラー、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、なんか～	◎	ー	ー	うん、んー	ー
			～て、なんか～	○	<笑>	ー	へー	ー
			～し、なんか～	○	ー	ー	うん	ー
	文間		～ます、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			～ですね、なんか～	○	ー	ー	うん	ー
			～ですよ、なんか～	○	ー	ー	うん	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		○	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	○	ー	ー	へー	ー
		相手		○	ー	で	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	○	ー	ー	ー	えー
		相手		○	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 10] から、【会話 6】における話者 YF5 の「なんか」の分類と出現頻度を次のようにまとめる。

統語的な「なんか」では、全体的に多く現れている。その内、節間の「～けど、なんか～」は出現頻度が高い。

談話的な「なんか」では、全体的に出現度は低い。その内、話者の質問直後、「話者の否定直後は現れていない。

挿入要素については、節間、文間の例には、「なんか」の直前に、相手の相槌が多く挿入されている。

6.2 【会話 2】における話者 YF2 の「なんか」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 2】は、「初対面会話」の 20 代女性 YF2 と 60 代女性 OF1 の会話である。

6.2.1 「なんか」の分布

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.2.1.1 統語的な「なんか」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見ていく。

6.2.1.1.1 句間の「なんか」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 2】には、話者 YF2 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～代名詞、なんか～

「～代名詞、なんか～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(104) 02148OF1 それは、すごいことですよ(<笑>)
02149YF2 いやいや<笑>
02150OF1 本当
02151YF2 私、なんか、才能とか言える、私ではないし<笑>

(104)では、「私」の直後に「なんか」が現れている。「私」が代名詞であるので、句間の「なんか」である。話者 YF2 は、「才能とか言える、私ではないし」と述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～格助詞、なんか～

「～格助詞、なんか～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(105) 02166OF1 ##分からないけど

02167YF2 うらやましいと思うこともありますけどね、(はい)でも、やっぱり、努力して、身につけたものが、<笑>なんか、自分でも誇らしいですよね

(105)では、連帯修飾語「身につけたもの」と格助詞「が」の後ろに「なんか」が現れている。「身につけたものが」は名詞句であるので、句の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、句間の「なんか」である。話者 YF2 は、「身につけたもの」について「自分でも誇らしいですよね」という評価を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に話者の「<笑>」が入っている。

【3】～接続詞、なんか～

「～接続詞、なんか～」の文形式は【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(106) 02260OF1 なんか、週刊誌の見出しだけ見とったから、(うん)あ、この人が相手かと思いました<2 人笑>

02261YF2 はい、でも、なんか、変な、ねー、噂がありましたね

(106)では、接続詞「でも」の直後に「なんか」が現れているので、接続詞句間の「なんか」の例である。話者 YF2 は、「でも」を発してから、相手の発話内容について、「変な、ねー、噂がありましたね」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。

6.2.1.1.2 節間の「なんか」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 2】には、話者 YF2 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～ので、ま(ー)～

「～ので、なんか～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(107) 02303YF2 そうですね、(はい)私の友人が、(はい)えーと、ニュースの(はい)現場に行く仕事をしているって、(あー)レポートとか、(はい)カメラとかとったりして、(はい)でも、やっぱり、その自分が仕事あることは、どこかで事件が起きているということなので、なんか、つらいと言ってました

02304OF1 あ、そうですね

(107)では、「～ので」という従属節の後ろに「なんか」が現れているので、節間の「なん

か」の例である。話者 YF2 は、「ニュースの現場に行く仕事」をしている友人の仕事に関する感じを述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～と、ま(ー)～

「～と、なんか～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(108) 02253YF2 ねー、何回も、(そうそう)見直して、(はい)多分、他の人にも見てもらわないといけないですよね
02254OF1 そうですよね
02255YF2 直してもらわないと、なんか、私たち大学生と同じような気持ちが、<笑>(そうそうそう)　貼り間違えとか<笑>

(108)では、「～と」という従属節の後ろに「なんか」が現れているので、節間の「なんか」の例である。話者 YF2 は、「私たち大学生と同じような気持ち」という自分の理解を述べる前に「なんか」を使っている。

6.2.1.1.3　文間の「なんか」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に文間の「なんか」は観察されなかった。

6.2.1.2　談話的な「なんか」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「なんか」を扱う。

以下では、主題直後の「なんか」、質問直後の「なんか」、肯定直後の「なんか」、否定直後の「なんか」、思索直後の「なんか」に分けて見ていく。

6.2.1.2.1　主題直後の「なんか」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる主題直後の「なんか」を扱う。

【会話 2】には、話者 YF2 の主題直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

～も、なんか～

「～も、なんか～」の文形式は、【会話 2】の話者 YF2 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(109) 02256OF1 そうそうそう、だからね、正しいのを持って来て見せればいいのにと思いましたね
02257YF2 ねー、すごい思いますね、(うん)昨日も、なんか、(はい)記者会見があり

ましたね

(109)では、名詞「昨日」と副助詞「も」の直後に「なんか」が現れている。「昨日も」の「も」は主題を提示する機能があるので、主題直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF2 は、「記者会見がありましたね」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに相手の相槌「はい」が入っている。

6.2.1.2.2　質問直後の「なんか」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に質問直後の「なんか」は観察されなかった。

6.2.1.2.3　肯定直後の「なんか」

本節では、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる肯定直後の「なんか」を扱う。

【会話 2】には、話者 YF2 の肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

(110) 02160OF1 で、１つ１つ覚えたことはね、忘れないですよね、(あー)そんなことはないですか？経験が？

02167YF2 そうですね、なんか、全部やろうとすると、(はい)ぜんぜん、もう、頭に入らないんですけど(はい)、少しずつ、(はい)頑張ろうと思って、ちょっとずつやっていくと、ちゃんと自分のものになります

(110)では、話者の肯定応答「そうですね」の直後に「なんか」が現れているので、話者肯定応答直後の「なんか」の例である。話者 YF2 は相手の発話内容について、まず応答してから、「全部やろうとすると、ぜんぜん」という自分の経験を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】 相手

(111) 02113YF2 そうですね、(はい)聞かれます、もう面接の練習とか(はい)もよくしているのですけど、なかなか、自分の長所を言ってください(はい)と言われると、(はい)困りますね、(あー)言葉に詰まります

02114OF1 そうですね

02115YF2 なんか、あまり言い過ぎてもちょっと、<笑>(あー)いやらしいとか<笑>

(111)では、相手の肯定応答「そうですね」の直後に「なんか」が現れている。話者 YF2 は、相手の応答の直後に、直接「あまり言い過ぎてもちょっと、いやらしいとか」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。

6.2.1.2.4　否定直後の「なんか」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に否定直後の「なんか」は観察されなかった。

6.2.1.2.5　思索直後の「なんか」

【会話 2】には、話者 YF2 の発話に話者の思索直後の「なんか」は観察されなかった。

6.2.2　まとめ

以上の 6.2.1 の記述により、【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 11]で示す。

[表 11]【会話 2】における話者 YF2 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 2】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		代名詞、なんか～	○	―	―	―	―
			～名詞+格助詞、なんか～	○	<笑>	―	―	―
			接続詞、なんか～	○	―	―	―	―
	節間		～ので、なんか～	○	―	―	―	―
			～と、なんか～	○	―	―	―	―
	文間			×	―	―	―	―
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	○	―	―	―	はい
	質問直後	話者	なんか～	×	―	―	―	―
		相手		×	―	―	―	―
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	○	―	―	―	―
		相手		○	―	―	―	―
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	×	―	―	―	―
		相手		×	―	―		―
	思索直後	話者	～、なんか～	×	―	―	―	―
		相手		×	―	―	―	―

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 11]から、【会話 2】における話者 YF2 の「なんか」の分類と出現頻度を次のようにまとめる。

統語的な「なんか」では、句間、節間は現れているが、文間は現れていない。

談話的な「なんか」では、全体的に少ない。その中の質問直後、否定直後、思索直後はいずれも現れていない。また、主題直後、肯定直後は現れているが、出現頻度が低い。

挿入要素については、全体的に少ない。

6.3　【会話 3】における話者 YF3 の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代女性どうし YF3 と YF4 の会話である。

6.3.1　「なんか」の分布

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.3.1.1　統語的な「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見ていく。

6.3.1.1.1　句間の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～名詞、なんか～

「～名詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(112) 03156YF4 ですね、なんで京都に行こうと思ってたんですか?
　　03157YF3 京都、なんか、土地がすごい好きで

(112)では、「京都」の直後に「なんか」が現れている。「京都」は名詞であるので、名詞の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、句間の「なんか」である。話者 YF3 は、「京都」を発したあとに、自分が京都に対して「土地がすごい好きで」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

(113) 03262YF4 はい、(うんうん)#じゃないですからね
　　03263YF3 はい、そうですよね、(はい)えー、あのー、アパートの上の人が、(はい)そういう軽音系の人、なんか、よく弾いてて、(はい)、たまに、こう、メンバーが来るのか知らないけど、歌うんですよね

(113)では、「軽音系の人」の直後に「なんか」が現れている。「軽音系の人」は名詞句であるので、句間にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「軽音系の人」を発したあとに、「軽音系の人」が「よく弾いてて」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

(114) 03436YF4 そうですね、カナダに行って、何するかと言ったら、(うん)#(<笑>)
03437YF3 ##じゃないですか、カナダ、なんか、#のイメージ

(114)では、名詞「カナダ」の直後に「なんか」が現れているので、句間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、「カナダ」を発したあとに、カナダが「#のイメージ」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～名詞+格助詞、なんか～

「～名詞+格助詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(115) 03142YF4 あ、(はい)そうなんですか
03143YF3 そうです、そうです、(はー)小論文と、なんか、センターとかぐらいだったんで、(はい)はい、特にそんな私が苦手な数字がなかったんで

(115)では、名詞「小論文」と格助詞「と」の直後に「なんか」が現れている。「小論文と」は名詞句であるので、句の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「小論文と」を発したあとに、「小論文」と並立する言葉について「センターとかぐらいだったんで」を述べる前に「なんか」を使っている。

(116) 03198YF4 電車 OK ですね、(うんうん)でも、なんか、たまに酔います
03199YF3 うんうん、はい、私も、家で、なんか、ずっと車に乗らなくて、いきなりバスとか乗ったりすると、(はい)きたりしますね

(116)では、名詞「家」と格助詞「で」の直後に「なんか」が現れている。「家で」はデ格句であるので、句間にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「家で」を発したあとに、「ずっと車に乗らなくて、いきなりバスとか乗ったりすると」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

(117) 03340YF4 えー、で、水、蛇口から出なかったりとかするんですか？

03341YF3 それはないんですけど、(はい)でも、あの、最初来た時は、ちょっと、シャワーの、(はい)なんか、出るところ大きいですけど、#を、(はい)なんか、みっともない#みたいな<2 人笑>##出るところとか、大きかったんですけど、いつの間にか、付け替えられていて

(117)では、名詞「シャワー」と格助詞「の」の後ろに「なんか」が現れている。「シャワーの」は名詞句であるので、句の後ろに「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「シャワーの」を発したあとに、水が「出るところ大きいですけど」ということ述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「はい」が入っている。

(118) 03412YF4 すごいシンラーメンって聞いたんですけど、(うん)食べたことがなかったんですよ

03413YF3 うん、友達と、あのー、韓国に、(はい)旅行した時に、なんか、もう、ゲストハウスみたいにお金払うんですよ、(はい)そこ朝食にシンラーメンが美味しくて<2 人笑>

(118)では、連帯修飾節「旅行した時」と格助詞「に」の直後に「なんか」が現れている。「旅行した時に」は句であるので、句の後ろに「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「ゲストハウスみたいにお金払うんですよ」と朝食の時のことを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに、副詞「もう」が挿入されている。

【3】～副詞、なんか～

「～副詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(119) 03161YF3 京都に行こうかなと思ったんですよ

03162YF4 あ、はいはい

03163YF3 京都府立大学に行って、(はい)英語、私、今欧米文学コースなんですけど、(はい)ま、英語が、すごい、なんか、学びやすい環境っていうか、調べたら分かったんで、(はい)行ってみたいなと思ってて

(119)では、「すごい」の直後に「なんか」が現れている」。文脈から、「すごい」は「学びやすい環境」を修飾するので、副詞と考える。話者 YF3 は、「すごい」を発したあとに、「学びやすい環境」と自分が京都府立大学についての評価を述べる前に「なんか」を使っている。

【4】～形容詞、なんか～

「～形容詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(120) 03169YF3 うん、でも、私が、本当に計画性がないんですよ<2 人笑>
03170YF4 そうですよね
03171YF3 すごい、なんか、友達とかが、(はい)その、高校 1 年生のときから、もう、AO で、絶対大学を受けて、(えー)それに向けて勉強してた、(えー)とか聞くと、(はい)なんか、3 年計画、すごいな<笑>

(120)では、「すごい」の直後に「なんか」が現れている。文脈からこの「すごい」は「友達がすごい」の意であるので、形容詞である。話者 YF3 は、「すごい」を発したあとに、「友達とか」などの具体的な例を述べる前に「なんか」を使っている。

【5】～接続詞、なんか～

「～接続詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(121) 03108YF4 そうなんですね<笑>、##でも、あれですね、社員といいつつ、バイトとやる事あんまり変わらないじゃないですか
03109YF3 そうですね、で、なんか、あのー、時給は、バイトの方が高いみたいな<笑>

(121)では、「で」の直後に「なんか」が現れている。「で」は接続助詞であるので、これは句間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、「で」を発してから、相手に発話内容の続き、「時給は、バイトの方が高いみたいな」という自分の見解を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後にフィラー「あのー」が挿入されている。

(122) 03366YF4 けっこう言いましたよね、##(うんうん)なんか、(うん)もう、インドなんか、絶対(飲めないですよね)飲めないですよね
03367YF3 えー、なんか、友達が、(はい)この前、インドに行ったらしくて、(はい)で、なんか、1 人は神経質だったから、ものすごい、スプーンも、お皿も(はい)消毒、(えー)消毒って、拭いて食べていたのに、(はい)お腹壊したらしいよ<2 人笑>

(122)では、文脈から、接続詞「で」の直後に「なんか」が現れている。これも句間の「な

んか」の例である。話者 YF3 は、「で」を発したあとに、前の話の内容の続き「1 人は神経質だったから、ものすごい、スプーンも」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

【6】～助詞、なんか～

「～助詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(123) 03298YF4 えー、みたいな、(うん)どう掃除したらいいから分からない
03299YF3 え、そなんですか、でも、2 人で 1 部屋なんて、なんか、こう、考えられないというか

(123)では、名詞句「2 人で 1 部屋」と助詞「なんて」の直後に「なんか」が現れている。「2 人で 1 部屋なんて」は名詞句と考えられるので、これは句間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、前の話に続き、「考えられないというか」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろにフィラー「こう」が入っている。

【7】～フィラー、なんか～

「～フィラー、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(124) 03214YF4 はい、(うん)でも、福岡、あれですか、え、どんな職に、聞いて大丈夫ですか?
03215YF3 大丈夫です、大丈夫です(はい)レディースのブライダルなので、(はい)結婚式の、こう、なんか、いろいろと、ドレスをだったり、こう、##したりとか、まだ決めてないですけど(あー)、でもたぶん、地下とか電車でも行けるので、(はい)車はいらないかなと思って

(124)では、「こう」の直後に現れる「なんか」である。「こう」はフィラーと考えられるので、フィラーの後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「こう」を発してから、前の話「結婚式の」について、「いろいろと、ドレスをだったり」などについて説明する前に「なんか」を使っている。

(125) 03232YF4 取れます、取れます
03233YF3 行こう
03234YF4 はい

03235YF3 えー、なんか、何の、何の楽器とかしてますか、その

(125)では、「えー」の直後に現れる「なんか」である。文脈から、この【えー】は、話題を変える機能をしているので、フィラーと考えられる。すなわち、フィラーの後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「えー」を発してから、新話題「何の、何の楽器とかしてますか」という質問をする前に「なんか」を使っている。

(126) 03436YF4 そうですね、カナダに行って、何するかと言ったら、(うん)#(<笑>)
03437YF3 ##じゃないですか、カナダ、なんか、#のイメージ
03438YF4 あ、それありますね、(うんうん)えー
03439YF3 えー、なんか、速いですね、4 年間

(126)も、「えー」の直後に現れる「なんか」である。文脈から、この「えー」は話題を変える機能をしているので、フィラーと考えられる。話者 YF3 は、「えー」を発してから、新話題「速いですね、4 年間」を述べる前に「なんか」を使っている。

(127) 03336YF4 なんか、(うん)文化とかけっこう違うんです？
03337YF3 えー、なんか、私、(はい)シャワーで怒られたことがあって、(はい)#も、水を、(はい)大切にするから、(はい)シャワーを 5 分以内で、もう、(えー)マストぐらいという感じで、(はい)ちょっと私が##ですから(あー)(<笑>)そうしたら、(はい)怒られました

(127)では、「えー」の直後に「なんか」が現れている。文脈から、この「えー」は、話者 YF3 が相手の質問に対して発話する前に現れているので、フィラーと考えられる。話者 YF3 は、相手の質問に対する回答「私、シャワーで怒られたことがあって」を発する前に「なんか」を使っている。

(128) 03366YF4 けっこう言いましたよね、##(うんうん)なんか、(うん)もう、インドなんか、絶対(飲めないですよね)飲めないですよね
03367YF3 えー、なんか、友達が、(はい)この前、インドに行ったらしくて、(はい)で、なんか、1 人は神経質だったから、ものすごい、スプーンも、お皿も(はい)消毒、(えー)消毒って、拭いて食べていたのに、(はい)お腹壊したらしいよ<2 人笑>

(128)では、前例の(127)と同じく、フィラー「えー」の直後に現れる「なんか」である。話者 YF3 は、相手の話内容に対して「友達が、この前、インドに行ったらしくて」と回答する前に「なんか」を使っている。

(129) 03363YF3 えー、普通、私飲んでないですけど、飲もうと思えば飲めるかもしれないんですけど
03364YF4 あ、そうなんですか
03365YF3 えー、なんか、日本は、なんか、水道水が飲めるから、すごい、いい国というか、(はい)恵まれているみたいです

(129)も、「えー」の直後に現れる「なんか」である。文脈から、この「えー」は、フィラーと考えられる。話者 YF3 は、前の話内容を続けて「日本は、なんか、水道水が飲めるから、すごい、いい国というか」という自分の評価を述べる前に「なんか」を使っている。

6.3.1.1.2 節間の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、なんか～

「～けど、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(130) 03244YF4 ぜんぜん分からないです
03245YF3 あのー、ユーチューブに、(はい)こう、やっている、(はい)なんだろう、バンドみたいな感じなんですけど、なんか、軽音をしている人と知ってそうなと<2 人笑>

(130)では、接続助詞「けど」の後ろに「なんか」が現れている。「～けど」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF3 は、「軽音をしている人と知ってそうな」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。接続助詞「けど」の節間の「なんか」の例としては、次のようなものもある。

(131) 03375YF3 ガンジス川あるじゃないですか
03376YF4 ありますね

03377YF3 ガンジス川は汚いっていう、(えー)なんか、そのー、現地の人たちは、(はい)そこに入って、体を洗ったり、(はい)んー、沐浴とかして、(はい)ぜんぜんいいですけど、(はい)なんか、そこに日本人とか入っちゃうと、(はい)ものすごい菌にやられたとか、(あー)#とか、#入っちゃ駄目ですねという、(はい)でも、私の友達が入ってみたらって、<2 人笑>で、その後は、ちょっと、あのー、お腹の中を調べてみたら、(はい)こう、寄生虫が、(えー)<2 人笑>思い切って入ってた

(131)も、従属節「～けど」の後ろに現れる「なんか」の例である。話者 YF3 は、前の話内容を続けて、「そこに日本人とか入っちゃうと、ものすごい菌にやられたとか」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「はい」が入っている。

【2】～て、なんか～

「～て、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(132) 03444YF4 私ですか、(うん)書け書けと言われているんですけど、(うんうん)もう、ぜんぜん、なんか、進めないですよね

03445YF3 うん、なんか、経済の人で、誰か 11 月中に論文を出して、(はい、え、早い)論文を出して、なんか、留学に行くというか、(はい)残りを、また留学に使うって言ってました、(えー)経済の人で

(132)では、接続助詞「て」の後ろに「なんか」が現れている。「～て」は従属節であるので、節間の「なんか」の例と言える。話者 YF3 は、前の話内容の続き、「留学に行くという」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

【3】～と、なんか～

「～と、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(133) 03169YF3 うん、でも、私が、本当に計画性がないんですよ<2 人笑>

03170YF4 そうですよね

03171YF3 すごい、なんか、友達とかが、(はい)その、高校 1 年生のときから、もう、AO で、絶対大学を受けて、(えー)それに向けて勉強してた、(えー)とか聞くと、(はい)なんか、3 年計画、すごいな<笑>

(133)では、接続助詞「と」の後ろに現れる「なんか」である。文脈から、「とか聞くと」は従属節であるので、節間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、「3 年計画、すごいな」という自分の評価を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「はい」が入っている。

6.3.1.1.3　文間の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる文間の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の文間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～ですね、なんか～

「～ですね、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(134) 03042YF4 鳥栖、なんか、けっこう工場が多いと聞いたから
03043YF3 あー、でも、そうかもしれないですね、なんか、(はい)私、アウトレットくらいしか知らないです<2 人笑>

(134)では、文「そうかもしれないですね」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、文間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF3 は、「私アウトレットくらいしか知らないです」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに相手の相槌「はい」が入っている。

(135) 03418YF4 ゲストハウスはなんですか?
03419YF3 ゲストハウスは、なんか、もう、(はい)民宿みたいな感じですね、(おー)なんか、あそこ、安くて、もう、(はい)##みんなでみたいなとことで、(はい)でもなんか、そのいろんな人が、もう、なんだろう、フランス人とか、いろいろ来てたので、(はい)みんなで、こう、お酒飲んだりして、けっこう交流できるところ、(えー)##ホテル、そんなないので、(ですよね)##から、見たいな(<笑>)

(135)では、文「民宿みたいな感じですね」の後ろに「なんか」が現れている。すなわち、文間にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、前の話内容を続けて、「あそこ、安くて」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「おー」が入っている。

【2】～とか、なんか～

「～とか、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(136) 03458YF4 全員ですね、(うんうん)ゼミで、なんか、すごい毎週毎週発表してて、(うん)で、なんか、(うん)すごい、ゼミがすごい意識高いんですよ、(ああ)なんか、間違ったら駄目になるんですけど

03459YF3 その就職率はいいですか、就職先はいいとか、なんか、有名な

03460YF4 あー、あれですか、なんか、あのー、かもしれないです

(136)では、「なんか」の前に、文「就職先はいい」と助詞「とか」が現れている。「就職先はいいとか」は文であるので、文間にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、文間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、前の話につづき、「有名な」企業とかを出す前に「なんか」を使っている。

【3】～け、なんか～

「～け、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(137) 03450YF4 えー、どうやろう、書くとしたら、すごい

03451YF3 なんか、今度思えば、(はい)書け、なんか、経済の人は、なんか、1 ヶ月ぐらいあれば書けるらしいよ

(137)では、「なんか」の前に動詞の命令形「～け」が現れている。「書け」は動詞文と考えられるので、文間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、自分に対して、早く論文を「書け」と発したあとに、「経済の人」が書く状況を述べる前に「なんか」を使っている。

【4】～っていう、なんか～

「～名詞+格助詞、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(138) 03375YF3 ガンジス川あるじゃないですか

03376YF4 ありますね

03377YF3 ガンジス川は汚いっていう、(えー)なんか、そのー、現地の人たちは、(はい)そこに入って、体を洗ったり、(はい)んー、沐浴とかして、(はい)ぜんぜんいいですけど、(はい)なんか、そこに日本人とか入っちゃうと、(は

い)ものすごい菌にやられたとか、(あー)#とか、#入っちゃ駄目ですねという、(はい)でも、私の友達が入ってみたらって、<2 人笑>で、その後は、ちょっと、あのー、お腹の中を調べてみたら、(はい)こう、寄生虫が、(えー)<2 人笑>思い切って入ってた

(138)では、「なんか」の前に句「ガンジス川は汚い」と連語「っていう」が現れているので、文間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、前に話を続けて、ガンジス川について「そのー、現地の人たちは、そこに入って」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の驚きの感嘆詞「えー」が入っている。

【5】～じゃなくて、なんか～

「～じゃなくて、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(139) 03472YF4 そうですね、(うん)うん、毎週みんな集まるんですか?
03473YF3 集まって、(はい)で、まー、本当にまだ##書けるんじゃなくて、(はい)なんか、テーマはこれで、どんなに進めて行くっていうの、(はい)今言っている感じですね、でも発表と言っても、報告という感じです(あ、そうなんですか)、##ってて、(はい)もう、今ここまで出来ていますって、そして、コメントして、次の人<2 人笑>

(139)では、「なんか」の前に動詞「書ける」と形容詞「じゃなくて」が現れているので、文間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、論文が「書けるんじゃなくて」を発したあとに、「テーマはこれで、どんなに進めて行くっていうの」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「はい」が入っている。

6.3.1.2　談話的な「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる談話的な「なんか」を扱う。

以下では、主題直後の「なんか」、質問直後の「なんか」、肯定直後の「なんか」、否定直後の「なんか」、思索直後の「なんか」に分けて見ていく。

6.3.1.2.1　主題直後の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる主題直後の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に主題直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

(140) 03363YF えー、普通、私飲んでないですけど、飲もうと思えば飲めるかもしれない

んですけど

03364YF4 あ、そうなんですか

03365YF3 えー、なんか、日本は、なんか、水道水が飲めるから、すごい、いい国というか、(はい)恵まれているみたいです

(140)では、「なんか」の前に名詞「日本」と副助詞「は」が現れている。「日本は」の「は」は主題を提示する機能があるので、主題直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「水道水が飲めるから、すごい、いい国というか」という主張を述べる前に「なんか」を使っている。

(141) 03418YF4 ゲストハウスはなんですか?

03419YF3 ゲストハウスは、なんか、もう、(はい)民宿みたいな感じですね、(おー)なんか、あそこ、安くて、もう、(はい)##みんなでみたいなとことで、(はい)でもなんか、そのいろんな人が、もう、なんだろう、フランス人とか、いろいろ来てたので、(はい)みんなで、こう、お酒飲んだりして、けっこう交流できるところ、(えー)##ホテル、そんなないので、(ですよね)##から、見たいな(<笑>)

(141)では、名詞「ゲストハウス」と副助詞「は」の直後に「なんか」が現れている。前例の(140)と同じく、「ゲストハウスは」の「は」は主題を提示する機能があるので、主題直後の「なんか」の例である。話者 YF3 は、ゲストハウスについて「民宿みたいな感じですね」という説明を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに副詞「もう」が入っている。

(142) 03450YF4 えー、どうやろう、書くとしたら、すごい

03451YF3 なんか、今度思えば、(はい)書け、なんか、経済の人は、なんか、1 ヶ月ぐらいあれば書けるらしいよ

(142)では、名詞「経済の人」と副助詞「は」の直後に「なんか」が現れている。「経済の人は」の「は」は主題を提示する機能があるので、主題直後の「なんか」である。話者 YF3 は、経済の人の論文について「1 ヶ月ぐらいあれば書けるらしいよ」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

6.3.1.2.2 質問直後の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる質問直後の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に質問直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

(143) 03055YF3 えー、サークルは入っているんですか?
03056YF4 入ってます
03057YF3 え、なんですか?
03058YF4 あのー、軽音楽の(はい)ところで
03059YF3 えーじゃ、姫山とかしたんですか？なんか
03060YF4 してました、してました

(143)では、「なんか」の前に話者の質問文「姫山とかしたんですか?」があらわれているので、話者の質問直後の「なんか」の例である。相手は軽音楽のサークルに入っているので、話者 YF3 は、相手が姫山祭で出し物、演奏などをしたかと聞きたいことが分かった。「なんか」のあと、話者の発話が現れなかった。

【2】 相手

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に相手の質問直後の「なんか」の文形式が観察されなかった。

6.3.1.2.3 肯定直後の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる肯定直後の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

(144) 03075YF3 軽音に入った人を知ってなかったです
03076YF4 あ、知らなかった
03077YF3 はい、なんか、(はい)行ってすごい喋るとかじゃないですけど、(はい)こう、おーいって(はい)<2 人笑>するぐらいしかない間柄っていうか、それぐらいだったんで

(144)では、話者の肯定応答「はい」の後に「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF３は、相手の発話にたいして「はい」で応答してから、前の話の続き「行ってすごい喋るとかじゃないですけど」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に相手の相槌「はい」が入っている。

(145) 03248YF4 あ、そうなんです？
03249YF3 はい、なんか、すごいうまくて、(はい)、そういうのを見て、(はい)やり

たいな、でも、ぜんぜんだめ<2 人笑>

(145)では、話者の肯定応答「はい」の直後に「なんか」が現れている。すなわち話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF3 は、相手の質問に対して、「はい」で応答してから、「すごいうまくて」という評価的なことを述べる前に「なんか」を使っている

(146) 03198YF4 電車 OK ですね、(うんうん)でも、なんか、たまに酔います
03199YF3 うんうん、はい、私も家で、なんか、ずっと車に乗らなくて、いきなりバスとか乗ったりすると、(はい)きたりしますね
03200YF4 あー、ですね
03201YF3 うん、なんか、1 年のとき
03202YF4 やっぱ、慣れとかあるんですね

(146)では、話者の肯定応答「うん」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、話者の肯定応答直後の「なんか」の例と言える。話者 YF３は、相手の発話に対して「うん」で応答してから、前の話内容を「１年のとき」で補充するとき、「なんか」を使っている。

(147) 03444YF4 私ですか、(うん)書け書けと言われているんですけど、(うんうん)もう、ぜんぜん、なんか、進めないですよね
03445YF3 うん、なんか、経済の人で、誰か 11 月中に論文を出して、(はい、え、早い)論文を出して、なんか、留学に行くというか、(はい)残りを、また留学に使うって言ってました、(えー)経済の人で

(147)では、(168)と同じく、話者の肯定応答「うん」の直後に「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF３は、相手の発話に対して「うん」で応答してから、前の話内容をつづけて「経済の人で」の状況を述べる前にで「なんか」を使っている。

【2】 相手

(148) 03109YF3 そうですね、で、なんか、あのー、時給は、バイトの方が高いみたいな<笑>
03110YF4 そうなんですか
03111YF3 なんか、あのー、時給にすると、(はい)高くなるらしいです、そちら、バイトの方

(148)では、相手の肯定応答「そうなんですか」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、相手の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF3 は、前の話「バイトの方が高い」

について原因を説明する前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「あのー」が入っている。

(149) 03124YF4 出身は福岡です、はい
03125YF3 なんか、人に聞いて、(はい)すぐ忘れると言われて<2 人笑>

(149)では、相手の肯定の応答直後に「なんか」が現れているので、相手の肯定直後の「なんか」の例である。しかし、相手の「はい」は自分の発話内容に対する応答である。話者 YF3 は、相手の発話の直後に、「人に聞いて、すぐ忘れると言われて」という自分の弱点を述べる前に「なんか」を使っている。

6.3.1.2.4 否定直後の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる否定直後の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に否定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

(150) 03164YF4 はい、あ、そうなんですね、(はい)山大に、その英語が学びやすい環境みたいのがあるんですか?
03165YF3 いや、なんか、ま、山大は、(はい)英語を学んだとき、こう、輝いてくる中で、(はい)あのー、国立で、(はい)英語があるというので、(はい)、けっこういいかな<笑>、特に、なんか山大を調べたわけじゃないですよ

(150)では、話者の否定の応答「いや」の直後に「なんか」が現れているので、話者の否定直後の「なんか」の例である。話者 YF3 は、相手の質問に対して、「いや」で応答してから、「山大は、英語を学んだとき、こう、輝いてくる中で」という山口大学についての評価を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「ま」が入っている。

(151) 03172YF4 そうですね、AO で受けて、(うん)えー、あれですか、人文の AO で、なんか、そういうテストがあるんですかね
03173YF3 いや、なんか、たぶん面接と、そのー、小論文と、あと、普通に大学の(はい)平均のテストの、たぶんそういうのが一般だから、(はい)もう、通常の平均のテストを頑張るみたいな

(151)も、話者の否定応答「いや」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、話者否定直後の「なんか」の例と言える。話者 YF3 は、相手の質問に対して「いや」で否定して

から、「面接と、そのー、小論文と」など人文の AO 入試について詳しく説明する前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに、副詞「たぶん」が入っている。

【2】 相手

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に相手の否定直後の「なんか」の文形式が観察されなかった。

6.3.1.2.5 思索直後の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる思索直後の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に思索直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

【会話 3】には、話者 YF3 の発話に話者の思索直後の「なんか」の文形式が観察されなかった

【2】 相手

(152) 03448YF4 もう、11 月に入りましたからね
03449YF3 うん
03450YF4 えー、どうやろう、書くとしたら、すごい
03451YF3 なんか、今度思えば、(はい)書け、なんか、経済の人は、なんか、1 ヶ月ぐらいあれば書けるらしいよ

(152)では、相手の発話「もう、11 月に入りました」「えー、どうやろう、書くとしたら、すごい」から、相手は卒業論文まだ書いてない、かなり悩んでいるうちに、また、意見、感想を述べたいが、まだ思索中の間に、話者 YF3 の「なんか」が現れている。すなわち、これは、相手の思索直後の「なんか」の例である。話者 YF3 は、卒業論文について「今度思えば、書け」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。

6.3.2 まとめ

以上の 6.3.1 での記述により、【会話 3】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 12]で示す。

[表 12] 【会話 3】における話者 YF3 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 3】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞、なんか～	◎	ー	ー	ー	ー
			名詞+格助詞、なんか～	◎	ー	もう	はい	ー
			副詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			形容詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、なんか～	○	ー	あのー	ー	ー
			～名詞+助詞、なんか～	○	ー	こう	ー	ー
			フィラー、なんか～	●	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、なんか～	○	ー	ー	はい	ー
			～て、なんか～	○	ー	ー	はい	ー
			～と、なんか～	○	ー	ー	はい	ー
	文間		～ですね、なんか～	○	ー	ー	おー	はい
			～とか、なんか～	○				
			っていう、なんか～	○	ー	ー	えー	ー
			書け、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			~じゃなくて、なんか～	○	ー	ー	はい	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	◎	ー	もう	ー	ー
	質問直後	話者	なんか～	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	◎	ー	ー	ー	はい
		相手		○	ー	あのー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	○	ー	ま、たぶん	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		○	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 12]から、【会話 6】における話者 YF5 の「なんか」の分類と出現頻度を次のようにまとめる。

統語的な「なんか」では、全体的に相対的に多く現れている。その中で、句間では、文形式の種類が多く、「フィラー、なんか～」「～名詞、なんか～」「～名詞+格助詞、なんか～」の形式の出現頻度が高い。節間は、「～けど、なんか～」「～て、なんか～」「～と、なんか～」の文形式が現れているが、出現頻度は少ない。文間も多くの種類の文形式が現れているが、出現頻度が低い。

談話的な「なんか」には、主題直後は出現頻度が高い。話者の質問直後は少なく現れているが、相手の質問直後は現れていない。話者の肯定直後は多く現れている一方、相手の肯定直後は少なく現れている。話者の否定直後は現れているが、相手の否定直後は現れていない。話者の思索直後は現れていないが、相手の思索直後は現れている。

挿入要素については、節間、文間の例には、「なんか」の直前に相槌が多く入っている。

6.4 【会話 4】における話者 YF3 の「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 4】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF3 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

6.4.1 「なんか」の分布

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.4.1.1 統語的な「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見ていく。

6.4.1.1.1 句間の「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～感嘆詞、なんか～

「～感嘆詞、なんか～」の文形式は【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(153) 04065YF3 はい、名前は聞いたことがあります
04066OF1 あ、(はい)この前、なくなられたんですよ
04067YF3 あ、なんか、聞きました

(153)では、フィラー「なんか」の直前に「あ」が現れている。「あ」は感嘆詞であるので、感嘆詞の直後に「なんか」が来ていることになる。感嘆詞は句と考えるので、これは句間の「なんか」の例と言える。話者 YF3 は、相手の発話について、感嘆詞「あ」を発してから、「聞きました」ということを述べる前に「なんか」を使っている。句間の例としては、他にも次のようなものもある。

(154) 04318OF1 そうですね、私、夜寝る前にもいいと思いますね
04319YF3 あ、なんか、あのー、覚えて、1 回寝るといいらしいですね、(あ、そうですね)脳に定着するのは、母が言ってました

(154)も、(153)と同じく、感嘆詞「あ」の直後に現れる「なんか」の例であり、句間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、相手の発話に対して、感嘆詞「あ」を発したあとに、「覚えて、1 回寝るいいらしいですね」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「あのー」が入っている。

【2】～接続詞、なんか～

「～接続詞、なんか～」の文形式は【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(155) 04280OF1 うん、いろんな新しい言葉とかね、(うん)そういうのを、なん?日本語検定でしたね、何でしたかね(うーん)それだったら、いいじゃないですかね
04281YF3 えー、ま、でも、なんか、いろいろ#検定とかありますね、(あ、いろんな)いろんな検定が

(155)では、フィラー「なんか」の前に「でも」が現れている。「でも」は接続詞であるので、接続詞の直後に「なんか」が来ていることなる。接続詞は句と考えるので、これは句間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、相手の発話の続き、日本語検定だけではなく、「いろいろ#検定とかありますね」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、フィラー「えー」「ま」が入っている。

【3】～名詞+助詞、なんか～

「～名詞+助詞、なんか～」の文形式は【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(156) 04324OF1 そうそう、(はい)夜勉強した方がいいですかね、夜は疲れてしまってね
04325YF3 でも、意外と、やっぱり、夜の方が集中できるかなと、シンと、なんか、(ああ)外が静かだから、はい

(156)では、「なんか」の直前に、擬態語「シン」と助詞「と」が現れている。「シンと」は名詞句であるので、名詞句の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、句間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF3 は、「シンと」を発してから、「外が静かだから」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに、相手の相槌「ああ」が入っている。

【4】～フィラー、なんか～

「～フィラー、なんか～」の文形式は【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が

挙げられる。

(157) 04328OF1 #、その日に寝てしまうの、12 時ぐらいとか
04329YF3 <笑>たまに、ですね、あのー、なんか、ちょっと飲み会とかがあったりすると

(157)では、フィラー「あのー」の直後に「なんか」が現れている。フィラーは句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF3 は、「12 時ぐらい」まで「寝てしまう」について、原因「ちょっと飲み会とかがあったりすると」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、フィラー「あのー」が入っている。

6.4.1.1.2　節間の「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、なんか～

「～けど、なんか～」の文形式は、【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(158) 04220OF1 あ、そうですか、(はい)うーん
04221YF3 私が、あのー、そう、英語が好きなので、(はい)将来ちょっと海外に行きたいとか、(はい)言ったんですけども、なんか、それについても、もう行きたいならみたいな<笑> 特に反対とかされないですね

(158)では、接続助詞「けども」の後ろに「なんか」が現れている。「～けども」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF3 は、「それについても、もう行きたいならみたいな、特に反対とかされないですね」という親の態度を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～て、なんか～

「～て、なんか～」の文形式は、【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(159) 04044OF1 えー、どんなことを書かれるんですか?
04045YF3 そうですね、んー、ちょっと、まだ、あやふやというところなんですけど

(はい)あのー、なんというかな、ちょっと、女性の強さみたい(はい)なものを、こう、テーマにして、なんか、(はい)まー、##の中でも上位っていう、2番目の(はい)女の子はすごい、(はい)男の子っぽくて、(はい)あのー、家庭を、(はい)そう、支えるっていうか、(はい)お父さんは戦争に行っておられた後、家庭を支えるために、(あー)お父さんは、あまり働いたことなかったんですけれども、女の子は働いて、(はい) 家を支えたりとか、ま、けっこうみんな強いところがあるので、##こっちにもってきて書いていこうかなと思って

(159)では、与格(二格)句「テーマに」と従属節「して」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、従属接続詞「て」の後ろに「なんか」が来ていることになる。「～て」は従属節であるので、節間の「なんか」と言える。話者 YF3 は、自分の論文のテーマに関わる作品について詳しく「##の中でも上位っていう、2番目の女の子はすごい、男の子っぽくて」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に相手の相槌「はい」が入っている。

【3】～ので、なんか～

「～ので、なんか～」の文形式は、【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(160) 04326OF1 そうですね
04327YF3 早起き私もしたいなと思ってるですけど、大学生そんなに早く来る必要がないので、(うん、そうそう)なんか、寝てしまうっていうのがあるので

(160)では、「～ので」という従属節の後ろに「なんか」が現れているので、節間の「なんか」の例である。話者 YF3 は、「大学生そんなに早く来る必要がない」について、「寝てしまうっていうのがある」という結果を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うん、そうそう」が入っている。

6.4.1.1.3　文間の「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる文間の「なんか」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の文間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～ですよ、なんか～

「～ですよ、なんか～」の文形式は、【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(161) 04394OF1 今から新しい暮らしが始まるんですよね

04395YF3 はい、そうですね、でも、もう、自分がもう 21 歳かと思ったりします、(はい)もう自分が、中学生のとき思ってた 21 歳、(はい)もうすごい大人と思ってたんですよ、なんか、自分がいざ 21 歳になって、へーと思いますね、まだ子供だなと思います<笑>

(161)では、「～ですよ」の直後に「なんか」が現れている。「もうすごい大人と思ってたんですよ」は文であるので、文間に「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「自分がいざ 21 歳になって、へーと思いますね」という感じを述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～みたいな、なんか～

「～みたいな、なんか～」の文形式は、【会話 4】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(162) 04344OF1 お酒あまり飲まなくて

04345YF3 いえいえ

04346OF1 そうですか

04347YF3 はい、でも、あのー、九州の人は、(はい)あのー、お酒が強いと言われてるので、私は九州というと、嫌だ、九州じゃないでしょうみたいな、なんか、飲めなかったら<笑>

(162)では、文「九州じゃないでしょうみたいな」の直後に現れる「なんか」の例である。文脈から、九州出身の人は「お酒が強いと言われて」、しかし、話者 YF3 は、酒があまり飲めない、飲み会で「飲めなかったら」などを述べる前に「なんか」を使っている。

6.4.1.2 談話的な「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる談話的な「なんか」を扱う。

以下では、主題直後の「なんか」、質問直後の「なんか」、肯定直後の「なんか」、否定直後の「なんか」、思索直後の「なんか」に分けて見ていく。

6.4.1.2.1 主題直後の「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる主題直後の「なんか」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に主題直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

～は、なんか～

「～は、なんか～」の文形式は、【会話 4】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(163) 04415YF3 そうですね、で、大学に 50 歳になってから、入られたんです？
04416OF1 そうですよ
04417YF3 それは、なんか、試験を受けて、入られたんですか?

(163)では、指示詞「それ」と副助詞「は」の直後に「なんか」が現れている。「それは」の「は」は主題を提示する機能があるので、主題直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF3 は、「試験を受けて、入られたんですか」と質問する前に「なんか」を使っている。

6.4.1.2.2　質問直後の「なんか」

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に質問直後の「なんか」は観察されなかった。

6.4.1.2.3　肯定直後の「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる肯定直後の「なんか」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】 話者

(164) 04201YF3 えーとですね、あのー、ニューカツスルって言って、シドニー(はい)あるじゃないですか、(はい)シドニーから、ちょっと 3 時間ほど行ったところで、ちょっと田舎なんですけどね
04202OF1 あ、そうですか
04203YF3 はい、なんか、すごい、あのー、みなさん悠々自適な暮らしをしていて<笑>

(164)では、話者の肯定応答「はい」の後に「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF３は、相手の応答に対して「はい」で応答してから、前の話の続き「みなさん悠々自適な暮らしをしていて」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に形容詞「すごい」とフィラー「あのー」が挿入されている。

(165) 04240OF1 今の姿を見られたら、<笑>安心ですね、もう自立したなというか
04241YF3 いやいや
04242OF1 うーん

04243YF3 はい、なんか、普段は何をされてるんですか?

(165)も、話者の肯定応答「はい」の後に「なんか」が現れているので、話者肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF３は、相手の発話に対して「はい」で応答してから、話題を変えるために、「普段は何をされてるんですか」を質問する前に「なんか」を使っている。

(166) 04214OF1 んー、オーストラリアは、ちょっと安全とかと言われてますよね
04215YF3 そうですね、なんか、日本人にすごく、あのー、人気らしい、留学するのとか、すごい多いらしいです

(166)では、話者の肯定応答「そうですね」の直後に「なんか」が現れている。これも、話者肯定直後の「なんか」の例と言える。話者 YF3 は、相手の発話に対して「そうですね」で応答してから、前の話の続き「日本人にすごく、あのー、人気らしい」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

【2】　相手

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に相手肯定応答直後の「なんか」の文形式が観察されなかった。

6.4.1.2.4　否定直後の「なんか」

本節では、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる否定直後の「なんか」を扱う。

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に否定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】　話者

(167) 04374OF1 そうですね(はい)楽しい職場ですね、あのー、おめでたいことだから
04375YF3 そうですね、はい、すごい、まー、疲れるんですけど、いや、なんか、いい疲れだなと思いますね、研修で、そう、1 日した後

(167)では、話者の否定の応答「いや」の直後に「なんか」が現れているので、話者否定直後の「なんか」の例である。話者 YF3 は、自分の話について、「いや」で否定してから、「いい疲れだなと思いますね」という考えを述べる前に「なんか」を使っている。

【2】　相手

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に相手否定応答直後の「なんか」の文形式が観察されなかった。

6.4.1.2.5　思索直後の「なんか」

【会話 4】には、話者 YF3 の発話に話者の思索直後の「なんか」は観察されなかった。

6.4.2　まとめ

以上の 6.4.1 での記述により、【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 13]で示す。

[表 13]【会話 4】における話者 YF3 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 4】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		感嘆詞、なんか～	○	―	あのー	―	―
			接続詞、なんか～	○	―	―	―	―
			フィラー、なんか～	○	―	―	―	―
			～名詞+助詞、なんか～	○	―	―	―	ああ
	節間		～けど、なんか～	○	―	―	―	―
			～て、なんか～	○	―	まー	―	はい
	文間		～ですよ、なんか～	○	―	―	―	―
			～みたいな、なんか～	○	―	―	―	―
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	○	―	―	―	―
	質問直後	話者	なんか～	×	―	―	―	―
		相手		×	―	―	―	―
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	◎	―	すごい、あのー	―	―
		相手		×	―	―	―	―
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	○	―	―	―	―
		相手		×	―	―	―	―
	思索直後	話者	～、なんか～	×	―	―	―	―
		相手		×	―	―	―	―

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　―:挿入要素現れない

[表 13]から、【会話 4】における話者 YF3 の「なんか」の分類と出現頻度を次のようにまとめる。

統語的な「なんか」では、句間、節間、文間は現れているが、相対的に出現頻度が低い。

談話的な「なんか」には、質問直後、思索直後は現れていない。主題直後は現れているが、出現頻度が低い。また、話者の肯定直後は多く現れている一方、相手の肯定直後は現れておらず、顕著な差が見られる。話者の否定直後は現れているが、相手の否定直後は現れていない。

挿入要素については、話者の肯定直後の例には、「なんか」の直後にフィラーの挿入要素

が多く入っている。

6.5　【会話 3】における話者 YF4 の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうし YF3 と YF4 の会話である。

6.5.1　「なんか」の分布

本節では、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.5.1.1　統語的な「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる「統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見ていく。

6.5.1.1.1　句間の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF4 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～名詞、なんか～

「～名詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(168) 03040YF4 あ、そうです?
　　03041YF3 はい、考えなかったです
　　03042YF4 鳥栖、なんか、けっこう工場が多いと聞いたから

(168)では、「なんか」の直前に、地名「鳥栖」が現れている。固有名詞「鳥栖」は名詞句と考えるので、名詞句の直後にフィラーが来ていることになる。すなわち、句間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、「鳥栖」を発してから、「けっこう工場が多いと聞いたから」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～名詞+格助詞、なんか～

「～、名詞+格助詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF3 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(169) 03294YF4 ないですか?

03295YF3 はい

03296YF4 ずっと狭いですよ、##なくて、なんか、(うん)入る前に掃除してたら(うん)、ベッドの下から、なんか、すごい、さまざまなもの入ってた

(169)では、連体修飾節「ベッドの下」と格助詞「から」の直後にフィラー「なんか」が現れている。「ベッドの下から」は名詞句と考えるので、これは、句間の「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、「ベッドの下」に「さまざまなもの入ってた」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、形容詞「すごい」が入っている。

(170) 03457YF3 なるほど、え、先生とけっこう 1 対 1 の感じですか？全員？

03458YF4 全員ですね、(うんうん)ゼミで、なんか、すごい、毎週毎週発表してて、(うん)で、なんか、(うん)すごい、ゼミがすごい意識高いんですよ、(ああ)なんか、間違ったら駄目になるんですけど

(170)では、名詞「ゼミ」と格助詞「で」の直後に「なんか」が現れている。「ゼミで」はデ格句であるので、これも句間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、「毎週毎週発表してて」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに、形容詞「すごい」が入っている。

【3】～名詞+とか、なんか～

「～名詞+とか、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(171) 03302YF4 なんか、最初は、アンケートがあるんですよ、(はい) 入る時に、で、なんか、#の時に、できれば、同学年がいいとかという、希望調査はありますよ

03303YF3 あ、なるほど、なるほど

03304YF4 はい、学部とか、部活とか、(うん)なんか、いろいろ聞かれます

(171)では、「なんか」の直前に，名詞「部活」と助詞「とか」が現れている。「部活とか」は名詞句と考えるので，これも、句間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、「部活とか」を発してから、「いろいろ聞かれます」を述べる前に「なんか」を使っている。

【4】～接続詞、なんか～

「～接続詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(172) 03196YF4 はい、私は電車ですよ
03197YF3 あー、電車 OK
03198YF4 電車 OK ですね、(うんうん)でも、なんか、たまに酔います

(172)では、「でも」の直後に「なんか」が現れている。「でも」は接続助詞であるので、接続詞の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。接続詞は句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「でも」を発してから、前の発話内容の続き、「たまに酔います」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

(173) 03289YF3 そうです、そうです、そうです
03290YF4 あー、(うん)私 1 回行ったんですけど、(はい)でも、なんか、すごい狭いところで、へーといって、(うんうん)で、まだ分からないですけど、(<笑>)、だから、言いました(うん)1 年の時、寮だったんですよ

(173)では、(172)と同じく接続詞「でも」の直後に現れる「なんか」の例である。話者 YF4 は、「でも」を発してから、前の話の内容を続けて、「すごい狭いところ」を述べる前に「なんか」を使っている。

(174) 03287YF3 部屋を選ぶ時に、分からないじゃないですか、(はい)で、こう勧められたままに(はい)そこにした<笑>
03288YF4 あ、そうなんですか、(うん)で、なんか、生協で(はい)あのー、一番初めの時ですか?

(174)では、接続詞「で」の直後に現れている「なんか」である。「で」は接続助詞であるので、接続詞の直後に「なんか」が来ていることになる。接続詞は句と考えるので、これは句間の「なんか」の例である。文脈から、相手は部屋を選ぶ時生協に勧められた。話者 YF4 は、相手の話の内容に続き、「生協で」「一番初めの時ですか」を質問する時に、「なんか」を使っている。

(175) 03301YF3 そうですね、(はい)必ずしも同学年とは限らないですか？
03302YF4 なんか、最初は、アンケートがあるんですよ、(はい) 入る時に、で、なんか、#の時に、できれば、同学年がいいとかという、希望調査はありますよ

(175)も、接続詞「で」の後ろに現れる「なんか」の例である。話者 YF4 は、前の話に続

き、「で」を発してから、「#の時に、できれば、同学年がいいとかという」を述べる前に「なんか」を使っている。

(176) 03457YF3 なるほど、え、先生とけっこう 1 対 1 の感じですか？全員？
03458YF4 全員ですね、(うんうん)ゼミで、なんか、すごい毎週毎週発表してて、(うん)で、なんか、(うん)すごい、ゼミがすごい意識高いんですよ、(ああ)なんか、間違ったら駄目になるんですけど

(176)も、接続詞「で」の直後に現れる句間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、「で」を発してから、前の話を続けて、「すごい毎週毎週発表してて」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、相手の相槌「うん」が入っている。

【5】～副詞、なんか～

「～副詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(177) 03009YF3 まえぶれなく、(はい)どういうことですか<2 人笑>
03010YF4 なんで、なんか、あのー、(はい)こういうやるよって、集まったとかじゃなくて、(はい)偶然ですか？

(177)では、「なんか」の直前に「なんで」が現れている。「なんで」は副詞であるので、副詞の後ろに「なんか」が来ていることになる。副詞は句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「なんで」を発してから、詳しく「こういうやるよって、集まったとかじゃなくて、偶然ですか」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「あのー」が入っている。

(178) 03269YF3 うん、すごい、めちゃうるさい<2 人笑>
03270YF4 えーと、私の隣の人も、(うん)すごい歌う人なんですよ、(<笑>)なんか、けっこう授業のない日とか、昼ぐらい寝たりするんですけど、(うん)なんか、10 時頃になったら、(えー)でも、たぶんアカペラ(はいはい) と思うんですよ、(うん)すごい、なんか、歌ってて(<笑>)よく響いてアパートの中

(178)では、「なんか」の直前に「すごい」が現れている。文脈から、この「すごい」は、「歌ってて」を修飾するので、副詞と考える。すなわち、副詞の直後に「なんか」が来ていることになる。副詞は句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、

「すごい」を発してから、「歌ってて」を述べる前に「なんか」を使っている。

(179) 03443YF3 卒論、<2 人笑>書いてますか?
03444YF4 私ですか、(うん)書け書けと言われているんですけど、(うんうん)もう、ぜんぜん、なんか、進めないですよね

(179)では、「なんか」の直前に「ぜんぜん」が現れているので、副詞の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、副詞句間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、副詞「ぜんぜん」を発してから、「進めないですよね」を述べる前に「なんか」を使っている。

(180) 03461YF3 うんうんうんうん、なるほど、なるほど
03462YF4 私、あまり、あのー、コースに入ってたんですけど、(うん)普通に、なんか、離脱しちゃたんで<2 人笑>分からないですよ

(180)では、「普通に」の直後に「なんか」が現れている。「普通に」は副詞であるので、この例は副詞句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「普通に」を発してから、「離脱しちゃたんで」という状態を述べる前に「なんか」を使っている。

【6】～フィラー、なんか～

「～フィラー、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(181) 03089YF3 えー、経済はどんな感じなんですか?
03090YF4 経済は、(うん)あのー、なんか、教養教員科はいいですけど、(はいはい)そこは(うん)30 人ぐらいだから、(はい)なんか、仲良いっぽいですけど、(はい)全員になると、400 人ぐらいですけど

(181)では、「なんか」の直前に「あのー」が現れている。文脈から、この「あのー」はフィラーと考えるので、フィラーの直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。フィラーは句と扱われるので、すなわち、この例は句間「なんか」である。話者 YF4 は、前の話の続き、「教養教員科はいいですけど」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

(182) 03317YF3 え、経済の人って、けっこう、あのー、留学とか行ったりするんですか？
03318YF4 経済ですか、(うん)なんか、あのー、え、##かな、そういう学部があるんですよ

(182)では、「なんか」の前に「経済ですか」が現れている。文脈と音声面から、「経済ですか」は質問文ではなく、フィラーと考えるので、この例はフィラーの直後の「なんか」である。YF4 は、「経済ですか」を発してから、相手の質問について経済(学部)の留学状態を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(183) 03380YF4 えー、怖い、<2 人笑>そうなんですか
03381YF3 現実ですよ
03382YF4 えー、なんか、聖なる川ガンジスみたいなイメージだったんですけど

(183)では、「なんか」の直前に「えー」が現れている。文脈と音声の面から、この「えー」は、フィラーと考えるので、この例は、フィラー直後の「なんか」である。話者 YF4 は、前の話に続き、「聖なる川ガンジスみたいなイメージだったんですけど」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

(184) 03396YF4 どのぐらいからいですか?
03397YF3 分からない、###<2 人笑>
03398YF4 えー、なんか、旨辛ラーメンあるじゃないんですか、(うん)あのー、ライライの旨辛ラーメンを食べたことがあります？

(184)も、「なんか」の直前に「えー」が現れている。文脈と音声の面から、この「えー」は、フィラーと考えるので、この例は、フィラー直後の「なんか」である。話者 YF4 は、前の話に続き、「旨辛ラーメンあるじゃないんですか」を述べる前に「なんか」を使っている。

(185) 03459YF3 その就職率はいいですか、就職先はいいとか、なんか、有名な
03460YF4 あー、あれですか、なんか、あのー、かもしれないです

(185)では、「なんか」の直前に「あれですか」が現れている。文脈から、「あれですか」は質問文ではなく、フィラーと考えるので、この例はフィラーの直後の「なんか」である。話者 YF4 は、相手の話の内容について「かもしれないです」という自分の意見と判断を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後にフィラー「あのー」が挿入されている。

【7】～って、なんか～

「～でいう、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(186) 03171YF3 すごい、なんか、友達とかが、(はい)その、高校 1 年生のときから、もう、AO で、絶対大学を受けて、(えー)それに向けて勉強してた、(えー)とか聞くと、(はい)なんか、3 年計画、すごいな<笑>

03172YF4 そうですね、AO で受けて、(うん)えー、あれですか、人文の AO って、なんか、そういうテストがあるんですかね

(186)では、「人文の AO って」の直後に「なんか」が現れている。「人文の AO って」は、名詞句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「そういうテストがあるんですかね」という質問する前に「なんか」を使っている。

(187) 03419YF3 ゲストハウスは、なんか、もう、(はい)民宿みたいな感じですね、(おー)なんか、あそこ、安くて、もう、(はい)##みんなでみたいなところで、(はい)でもなんか、そのいろんな人が、もう、なんだろう、フランス人とか、いろいろ来てたので、(はい)みんなで、こう、酒飲んだりして、けっこう交流できるところ、(えー)##ホテル、そんなないので、(ですよね)##から、見たいな(<笑>)

03420YF4 日本って言う、なんか、満喫という感じですか?

(187)では、「なんか」の直前に「日本って言う」が現れている。「日本って言う」は名詞句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は「マンキツという感じですか」を質問する前に「なんか」を使っている。

【8】～指示詞、なんか～

「～指示詞、なんか～」の文形式は【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(188) 03245YF3 あのー、ユーチューブに、(はい)こう、やっている、(はい)なんだろう、バンドみたいな感じなんですけど、なんか、軽音を知っている人と知ってそうなと<2 人笑>

03246YF4 あれですか、それ、なんか、なんと言ったらいいかな、バンドと言ったら、そんな感じですか？

(188)では、「なんか」の直前に「それ」が現れている。文脈から、「それ」は指示詞であ

り、「軽音を知っている人と知ってそうな」のことである。すなわち、指示詞の直後に「なんか」が来ていることになる。指示詞は句と考えるので、これは、句間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、相手の話に続けて、「バンドと言ったら、そんな感じですか」という質問をする前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後にフィラー「なんと言ったらいかな」が挿入されている

6.5.1.1.2　節間の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF4 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、なんか～

「～けど、なんか～」(220a)の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(189) 03131YF3 なんで山大に来たんですか?
03132YF4 私は、本当に適当なんですけど、(うん)なんか、1 年の時の面談で、先生は山口大学に行ったらと言われたんで、じゃ、それで<笑>

(189)では、接続助詞「けど」の後ろに「なんか」が現れている。「～けど」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF4 は、相手の質問について具体的に「1 年の時の面談で」などを回答、説明する前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(190) 03177YF3 何点ないともうだめですか?
03178YF4 そうですね、なんか、(うん)人と競るんで、(うん)何点以下はだめではないんですけども、(うん)、なんか、去年の人が、4.8 じゃ落ちたって、(えー)、4.6 ぐらいだったんですよ、(うん)だから、わーーと思ってて

(190)では、「なんか」の直前に「～ですけども」が現れている。「～けれども」は従属節と考えるので、この例も節間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、前の話の続き、「去年の人が、4.8 じゃ落ちたって」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(191) 03269YF3 うん、すごい、めちゃうるさい<2 人笑>
03270YF4 えーと、私の隣の人も、(うん)すごい歌う人なんですよ、(<笑>)なんか、

けっこう授業のない日とか、昼ぐらい寝たりするんですけど、(うん)
なんか、10 時頃になったら、(えー)でも、たぶんアカペラ(はいはい) と
思うんですよ、(うん)すごい、なんか、歌ってて(<笑>)よく響いてアパー
トの中

(191)では、「なんか」の前に従属節「寝たりするんですけど」が現れているので、節間の例である。話者 YF4 は、前の話を続けて、「10 時頃になったら」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(192) 03274YF4 相当に歌ってる(<笑>)
03275YF3 なるほど
03276YF4 うん、ぜんぜん知らない人なんですけど、(うん)なんか、最近声が##、声がうら返っているんですよ、(<笑>)###、そうなんですよ<2 人笑>

(192)では、「ぜんぜん知らない人なんですけど」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、節間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、自分の話の続き、「最近声が##、声がうら返っているんですよ」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うん」が入っている。

【2】～て、なんか～

「～て、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(193) 03017YF3 はい、(えー)大丈夫なんですか？1 時間で、これから予定
03018YF4 はい、大丈夫です、(<笑>)授業終わって、なんか、(はい)少しリラックスしようと<2 人笑>

(193)では、「授業終わって」の後ろに「なんか」が現れている。「授業終わって」の「て」は接続助詞であるので、この例は節間の「なんか」である。話者 YF4 は、前の話の内容の続き「少しリラックスしようと」自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、相手の相槌「はい」が入っている。

【3】～から、なんか～

「～から、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(194) 03089YF3 えー、経済はどんな感じなんですか？
03090YF4 経済は、(うん)あのー、なんか、教養教員科はいいですけど、(はいはい)そこは(うん)30 人ぐらいだから、(はい)なんか、仲良いぽいですけど、(はい)全員になると、400 人ぐらいですけど

(194)では、接続助詞「から」の後ろに「なんか」が現れている。「～から」は従属節であるので、この例は節間の「なんか」と言える。話者 YF4 は、前の話の内容の続き、「仲良いぽいですけど」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「はい」が入っている。

【4】～ので、なんか～

「～ので、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(195) 03144YF4 あー、そうですか<2 人笑>
03145YF3 そうです
03146YF4 えー(うん)、私 AO だったんで、なんか、(あ)けっこう
03147YF3 早かったんですね

(195)では、「なんか」の直前に「私 AO だったんで」が現れている。文脈から、「私 AO だったんで」の「だったんで」は「でしたので」と考える。すなわち、これは接続助詞「ので」の直後に現れる「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、AO 入試である自分について「けっこう」などを述べる前に、「なんか」を使っている。しかし、相手に割り込まれた。「なんか」の直後に相手の相槌「あ」が入っている。

6.5.1.1.3 文間の「なんか」

本節では、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる文間の「なんか」を扱う。

【会話 3】には、話者 YF4 の文間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～ですよ、なんか～

「～ですよ、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(196) 03269YF3 うん、すごい、めちゃうるさい<2 人笑>
03270YF4 えーと、私の隣の人も、(うん)すごい歌う人なんですよ、(<笑>)なんか、けっこう授業のない日とか、昼ぐらい寝たりするんですけど、(うん)なん

か、10 時頃になったら、(えー)でも、たぶんアカペラ(はいはい）と思うんですよ、(うん)すごい、なんか、歌ってて(<笑>)よく響いてアパートの中

(196)では、「なんか」の前に文「すごい歌う人なんですよ」が現れているので、文の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、これは、文間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、前の話の続き「授業のない日とか」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の「<笑い>」が入っている。

(197) 03457YF3 なるほど、え、先生とけっこう 1 対 1 の感じですか？全員？
03458YF4 全員ですね、(うんうん)ゼミで、なんか、すごい毎週毎週発表してて、(うん)で、なんか、(うん)すごい、ゼミがすごい意識高いんですよ、(ああ)なんか、間違ったら駄目になるんですけど

(197)では、「なんか」の前に文「ゼミがすごい意識高いんですよ」が現れているので、文間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、前の話の続き「間違ったら駄目になるんですけど」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「ああ」が入っている。

【2】～ですね、なんか～

「～ですね、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(198) 03146YF4 えー(うん)、私 AO だったんで、なんか、(あ)けっこう
03147YF3 早かったんですね
03148YF4 早かったんですね、(うんうん)なんか、比較的楽に受かっちゃったもんで、(んー)10 月だったですし、うん、そんなもんですね、(うん)夏ぐらいにも決まってて

(198)では、「なんか」の前に文「早かったんですね」が現れているので、文の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、これも、文間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、前の話の AO について「比較的楽に受かっちゃったもんで」と自分評価を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「うんうん」が入っている。

【3】～ですよね、なんか～

「～ですよね、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(199) 03095YF3 酒屋ですか?
03096YF4 いや、違うんですよね、なんか、あのー、(うん)なんですっけ、旅館と、もう 1 個くらいの感じで

(199)では、「なんか」の前に文「違うんですよね」が現れているので、文間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、自分のバイト先について「旅館と、もう 1 個くらいの感じで」を紹介する前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに、フィラー「あのー」「なんですっけ」が入っている。

【4】～すみません、なんか～

「～すみません、なんか～」の文形式は、【会話 3】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(200) 03128YF4 はい、そうですね、でも、住んでみると、意外に(そう)そんなに感じないですよね
03129YF3 そうですよね、(はい)住みやすいというか
03130YF4 はい、あれですか、(はい)すみません、なんか<笑>
03131YF3 なんで山大に来たんですか？

(200)では、文「すみません」の直後に「なんか」が現れているので、文間の例である。文脈から、話者 YF4 は、続けて話したいが、笑っているうちに、相手に割り込まれた。「なんか」の直後に話者の「<笑>」が入っている。

6.5.1.2　談話的な「なんか」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に談話的な「なんか」は観察されなかった。

6.5.1.2.1　主題直後の「なんか」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に主題直後の「なんか」は観察されなかった。

6.5.1.2.2　質問直後の「なんか」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に質問直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】　話者

(201) 03006YF4 そうですね、はい、知り合いだったんですね

03007YF3 あ、そうですか<笑>

03008YF4 もう、ぜんぜん、ないですか？なんか、(はい)何にもまえぶれなく、ですか？

(201)では、「なんか」の直前に「ないですか」が現れている。「ないですか」は話者の質問であるので、この例は話者の質問直後の「なんか」である。話者 YF4 は、自分の質問の続き、さらに「何にもまえぶれなく、ですか」と質問する前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、相手の相槌「はい」が入っている。

【2】　相手

(202) 03301YF3 そうですね、(はい)必ずしも同学年とは限らないですか？

03302YF4 なんか、最初は、アンケートがあるんですよ、(はい）入る時に、で、なんか、#の時に、できれば、同学年がいいとかという、希望調査はありますよ

(202)では、相手の質問「必ずしも同学年とは限らないですか」の直後に「なんか」が現れているので、相手の質問直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、相手の質問に対して、詳しく「最初は、アンケートがあるんですよ」を説明する前に「なんか」を使っている。

6.5.1.2.3　肯定直後の「なんか」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】　話者

(203) 03037YF3 佐賀はもう、すごい田舎なので、(あー)何もないので

03038YF4 はい、(うん)なんか、鳥栖とか、けっこう都会って言ってますよね

(203)では、「なんか」の前に応答詞「はい」が現れている。「はい」は話者の肯定応答であるので、この例は話者の肯定直後の「なんか」と言える。話者 YF4 は、相手の出身地「佐賀」について「鳥栖とか、けっこう都会って言ってますよね」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に相手の相槌「うん」が入っている。

(204) 03280YF4 家は、めちゃくちゃ近いですよ

03281YF3 あ、そう、大学の周辺ですか?

03282YF4 はい、なんか、裏門出てすぐぐらいのところ

(204)では、話者の肯定応答「はい」の直後に「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、「はい」を発してから、相手の質問「大学の周辺ですか」について「裏門出てすぐぐらいのところ」と詳しく回答する前に「なんか」を使っている。

(205) 03087YF3 仲いいですよね
03088YF4 ですよね、(うん)なんか、みんな同じポロシャツとか着てるじゃないですか(あー)見てもうらやましいね

(205)では、話者の肯定応答「ですよね」の直後に「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、「ですよね」を発してから、「みんな同じポロシャツとか着てるじゃないですか」という自分の見解を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(206) 03455YF3 ##ですよね
03456YF4 ですよね、なんか、手を##<2 人笑>

(206)では、話者の肯定応答「ですよね」の直後に「なんか」が現れている。この例も、話者の肯定直後の「なんか」の例と言える。「なんか」の後ろの内容が聞き取れなかったので、分析を省略する。

(207) 03464YF4 会計事務所とか行くようですよ、毎週毎週誰か、2,3 人発表してて、(うーん) 早く発表してって言われたんですけど、(うん) で、まだ、準備
03465YF3 いやですよね<笑>
03466YF4 ですよね、なんか、友達に聞いたら、(うん)経済の子なんですけど、(うん)いつもゼミとか 15 分ぐらいで終わるって聞くんですけど、(うん)私のところ、たぶん、もう、2 時間ぐらいですよ

(207)では、前例と同じく、話者の肯定応答「ですよね」の直後に「なんか」が現れている。この例も、話者の肯定直後の「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、前の話の続き、「友達に聞いたら、経済の子なんですけど」という経済の状況を述べる前に「なんか」を使っている。

(208) 03177YF3 何点ないともうだめですか？
03178YF4 そうですね、なんか、(うん)人と競るんで、(うん)何点以下はだめではな

いんですけども、(うん)、なんか、去年の人が、4.8 じゃ落ちたって、(えー)、4.6 ぐらいだったんですよ、(うん)だから、わーーと思ってて

(208)では、話者の肯定応答「そうですね」の直後に「なんか」が現れている。この例も、話者の肯定直後の「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、相手の質問「何点ないともうだめですか」について「人と競るんで、何点以下はだめではないんですけども」と回答する前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に相手の相槌「うん」が入っている。

(209) 03383YF3 そうそう、現地の人はもともとそういう川、ガンジスそういうイメージを思っているんですけど、(はい)すごい本当に汚い
03383YF4 うん、なんか、インドの人は日本に来たとき#ですよね<2 人笑>

(209)では、話者の肯定応答「うん」の直後に「なんか」が現れている。この例は、「話者肯定応答直後」の「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、相手の話について「うん」と応答してから、「インドの人は日本に来たとき#ですよね」を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】 相手

(210) 03045YF3 地元なのに、え、じゃ○○とか知ってますか?
03046YF4 ○○ですか?
03047YF3 はい
03048YF4 なんか、名前を聞いたことがある気がするんですけど

(210)では、相手の肯定応答「はい」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、相手の肯定応答の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。それゆえ、この例は、相手の肯定直後の「なんか」である。話者 YF4 は、前の相手の質問に対して「名前を聞いたことがある気がするんですけど」と回答する前に「なんか」を使っている。

(211) 03078YF4 あー、そうなんですね
03079YF3 そうです、そうです
03080YF4 なんか、英米で、みんな、仲良いのかなぁと思ってて

(211)では、相手の肯定応答「そうです、そうです」の直後に「なんか」が現れている。この例は、相手の肯定直後の「なんか」の例と言える。話者 YF4 は、前の話の続き、「英米で、みんな、仲良いのかなぁと思ってて」と自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。

分　　類	【会話 3】

(212) 03334YF4 あー、(うん)そうか、あれですよね、北半球と南半球で違うんですね
03335YF3 そうですね、(はい)そうそうそう
03336YF4 なんか、(うん)文化とかけっこう違うんです？

(212)では、相手の肯定応答「そうそうそう」の直後に「なんか」が現れている。この例も、相手の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、質問「文化とかけっこう違うんです」をする前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に相手の相槌「うん」が入っている。

6.5.1.2.4　否定直後の「なんか」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に否定直後の「なんか」は観察されなかった。

6.5.1.2.5　思索直後の「なんか」

【会話 3】には、話者 YF4 の発話に話者の思索直後の「なんか」は観察されなかった。

6.5.2　まとめ

以上の 6.5.1 での記述により、【会話 3】における話者 YF4 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 14]で示す。

				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			名詞+格助詞、なんか～	○	ー	すごい	ー	ー
			名詞+助詞、なんか～	○	ー	ー	うん	ー
			指示詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、なんか～	●	ー	ー	ー	うん
			副詞、なんか～	◎	ー	あのー	ー	ー
			フィラー、なんか～	◎	ー	ー	ー	ー
			って、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、なんか～	◎	ー	ー	うん	ー
			～て、なんか～	○	ー	ー	ー	はい
			～から、なんか～	○	ー	ー	はい	
			～ので、なんか～	○	ー	ー	ー	あ
	文間		～ですよね、なんか～	◎	ー	あのー	あ、うん	ー
			～すみません、なんか～	○	ー	<笑>	ー	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	なんか～	○	ー	ー	ー	はい
		相手		○	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	●	ー	ー	うん	うん
		相手		◎	ー	ー	ー	うん
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	○	ー	あのー	うん	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

[表 14]【会話 3】における話者 YF4 の「なんか」の分類および出現頻度

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 14]から、【会話 3】における話者 YF4 の「なんか」の分類と出現頻度は次のようである。

統語的な「なんか」は、相対的に多く現れた。その中で、句間の種類が多い。「~副詞、なんか～」「～接続詞、なんか～」「～フィラー、なんか～」の 3 種類の文形式は相対的に多い。節間の種類も多いが、「～けど、なんか～」の文形式が一番多く現れている。文間は「～ですよね、なんか～」「～すみません、なんか～」の 2 種類が現れる中、「～ですよね、なんか～」の文形式が多い。

談話的な「なんか」では、質問直後、肯定直後、思索直後が現れる一方、主題直後、否定直後が現れてない。その中で、話者の質問直後と相手の質問直後は差が見られていない。話者の肯定直後と相手の肯定直後は両方に多く現れているが、話者の肯定直後が相対的に

多く現れている。話者の思索直後は現れているが、相手の思索直後は現れていない。

6.6 【会話 5】における話者 YF4 の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 5】は、「初対面会話」の 20 代女性 YF4 と 60 代女性 OF1 の会話である。

6.6.1　「なんか」の分布

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.6.1.1　統語的な「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見ていく。

6.6.1.1.1　句間の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～名詞、なんか～

「～名詞、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(213) 05076OF1 <笑>やられたことがあります?

05077YF4 1 回、なんか、あのー、ちっちゃい頃に、(はい)公民館の華道みたいなやつやったんですよ、(はい)その時に 1 回だけ、お花やったんですよ(んー)ぜんぜん難しいなと思って

(213)では、「なんか」の直前に「1 回」が現れている。「1 回」は名詞であるので、名詞の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、相手の質問に対して、「1 回」を発してから、具体的に「ちっちゃい頃に、公民館の華道みたいなやつやったんですよ」と回答する前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「あのー」が入っている。

(214) 05094OF1 みんな手でやっていた時代ですよね

05095YF4 えー、私も 1 回やったことがありますよ、(あ)稲刈り、なんか、小学校か、(あー)なんかの、なんか、(はい)いったん、借りてたんですよ、田んぼ、(あー)で、収穫時期にやりました

(214)では、名詞「稲刈り」の直後に「なんか」が現れているので、句間の例である。話者 YF4 は、「稲刈り」を発してから、「稲刈り」について、詳しく「小学校か、いったん、借りてたんですよ」などを説明する前に「なんか」を使っている。

(215) 05239YF4 どっちかに入っていると言ってました
05240OF1 あ、そうですか
05241YF4 はい、(んー)アンケート、なんか、実験みたいなことしてましたよ

(215)では、名詞「アンケート」の直後に「なんか」が現れているので、句間の例である。話者 YF4 は、「アンケート」を発したあとに、「アンケート」について、さらに「実験みたいなことしてましたよ」と説明する前に「なんか」を使っている。

【2】～名詞+格助詞、なんか～

「～名詞+格助詞、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(216) 05094OF1 みんな手でやっていた時代ですよね
05095YF4 えー、私も一回やったことがありますよ、(あ)稲刈り、なんか、小学校か、(あー)なんかの、なんか、(はい)いったん、借りてたんですよ、田んぼ、(あー)で、収穫時期にやりました

(216)では、代名詞「なんか」と格助詞「と」の直後にフィラー「なんか」が現れている。「なんかの」は名詞句であるので、名詞句の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、思い出せないことがあって、「なんかの」を発して後に、話の続きに「借りてたんですよ、田んぼ」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、相手の相槌「はい」が入っている。

(217) 05256OF1 理論ばかりですか?
05257YF4 はい、本当理論ばっかりですね、(んー)理論と、私のコースが、(はい)なんか、あのー、分析じゃないですけど、(はい)そのー、数字を、(はい)いて、分析するような学科なんですよ、(んー)学科っていうか、コースなんですよね、(はい)なんで、そういう、あのー、人に聞いて、(はい)意見を調査するっていうのはないんですよ

(217)では、連体修飾節「私のコース」と格助詞「が」の後ろに「なんか」が現れている。

「私のコースが」は名詞句であるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、自分のコースについて「分析じゃないですけど」と説明する前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に相手の相槌「はい」が入っている。「なんか」の直後に、フィラー「あのー」が入っている。

【3】～副詞、なんか～

「～副詞、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(218) 05110OF1 あ、あのー、今はね、萩市になってますけど、(あー)合併したから、萩市になったけど(はい)本当はね、すごく田舎です

05111YF4 あ、そうなんですか、えー、萩では、すごい、なんか、有名ですよね

(218)では、「すごい」の直後に「なんか」が現れている。文脈から、「すごい」は「有名」を修飾するので、副詞であり、副詞句と考える。すなわち、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「すごい」を発してから、前の主語「萩」について「有名ですよね」と評価をする前に、「なんか」を使っている。

【4】～感嘆詞、なんか～

「～感嘆詞、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(219) 05460OF1 そうですね、あ、ここに、1 目ゴム編って言うんですよ、(えー)だから、長いなあって思ったら、この辺で切りますよね、(はい)この分だけゴムあみすると、(はい)短くなるんです

05461YF4 あ、そうなんですね、(うん)あ、なんか、頑張ってみようかな<2 人笑>

(219)では、「あ」の直後に「なんか」が現れている。「あ」は感嘆詞であるので、感嘆詞の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。感嘆詞は句と考えるので、すなわち、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「あ」を発してから、「頑張ってみようかな」と自分の考えを述べる前に、「なんか」を使っている。

【5】～フィラー、なんか～

「～フィラー、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(220) 05236OF1 そうですね、(はい)その専門の先生がおられるので、(はい)そこでやれるんです

05237YF4 あ、そうなんですね、なんか、友達も社会学(はい)の、なんだかな、なんか、社会学コースっていう、ありますよね

(220)では、「なんだかな」の直後に「なんか」が現れている。文脈から、「なんだかな」はフィラーと考えるので、フィラーの直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。フィラーは基本的に句と考えるので、この例も句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「なんだかな」を発してから、前の話の続きに「社会学コースっていう、ありますよね」を述べいる前に、「なんか」を使っている。

【6】～連体詞、なんか～

「～連体詞、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(221) 05397YF4 すごいですね

05398OF1 いやいや、それは

05399YF4 私は、こういう、(はい)なんか、なんていうかな、#みたいなやつ、たぶんできないと思います

(221)では、「こういう」の後ろに「なんか」が現れている。「こういう」は連体詞であるので、連体詞の後ろにフィラー「なんか」が現れることになる。連体詞は句と考えるので、すなわち、この例は句間の「なんか」である。話者 YF4 は、「こういう」を発したあとに、「#みたいなやつ、たぶんできないと思います」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「はい」が入っている。また、「なんか」の直後に、フィラー「なんていうかな」が入っている。

6.6.1.1.2 節間の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、なんか～

「～けど、なんか～」の文形式は、【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(222) 05380OF1 そうですね、(んー)ま、何でもそうかもしれません<2 人笑>

05381YF4 そうですね、なんか、ミシンとか、(はい)ぜんぜん使わないですけど、(うんうん)なんか、通販とかで見ると、(はい)すごいですよね、(うん)縫い目がすごいかざり縫いとかできたり

(222)では、接続助詞「けど」の後ろに「なんか」が現れている。「～けど」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF4 は、ミシンを使わないが、「通販とかで見ると、すごいですよね」という自分の評価を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うんうん」が入っている。

【2】～から、なんか～

「～から、なんか～」の文形式は、【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(223) 05215YF4 えー、そういうことについて書けるんですね、なんか、え、人文とおっしゃいましたよね
05216OF1 そうです
05217YF4 人文だから、なんか、そういう
05218OF1 あ、(はい)人文、社会学だったんです

(223)では、接続助詞「から」の後ろに「なんか」が現れている。「～から」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF4 は、「人文だから」の続きに「そういう」などを話す前に、「なんか」を使っている。だが、相手に割り込まれた。

(224) 05354OF1 あのー、その時代はそうだったんですかね
05355YF4 そうですよね、(うん)私たちは、教科書でそれしか見てないから、なんか、あーと思いますよね

(224)では、従属節「～から」の直後に「なんか」があらわれているので、節間の「なんか」の例である。話者 YF4 は、前の話の続きに「あーと思いますよね」という自分の驚きを表す前に「なんか」を使っている。

6.6.1.1.3　文間の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる文間の「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の文間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～ですね、なんか～

「～ですね、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(225) 05146OF1 うん、(えー)そんな、そんな昔で、そんな田舎だったんです<笑>
05147YF4 粘土が手に入っていて、すごいですね、なんか、買わないとないじゃないですか、一般だったら

(225)では、文「すごいですね」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、文間にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF4 は、前の話の粘土について、「買わないとないじゃないですか」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。

(226) 05214OF1 そうですね、で、ちょうど第 1 回目があった頃ですかね、学校に来る頃(あー)で、それを書きました
05215YF4 えー、そういうことについて書けるんですね、なんか、え、人文とおっしゃいましたよね
05216OF1 そうです
05217YF4 人文だから、なんか、そういう
05218OF1 あ、(はい)人文、社会学だったんです

(226)では、文「そういうことについて書けるんですね」の直後に「なんか」が現れているので、文間の例である。話者 YF4 は、「人文とおっしゃいましたよね」と相手が所属した学部を確認する前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「え」が入っている。

【2】～ですよ、なんか～

「～ですよ、なんか～」の文形式は【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(227) 05114OF1 今、今年は、特に、あのー、今度、(あ) 吉田松陰のあれでね
05115YF4 ですね、吉田松陰の、(はい)あのー、生家っていうか、家があるじゃないですか、(はい) 私はそこへ行ったことがあるんですよ、(あー)なんか、小学校の時の、(あー)修学旅行で

(227)では、文「私はそこへ行ったことがあるんですよ」の後ろに「なんか」が現れてい

るので、文間の例である。話者 YF4 は、前の話を続けて、詳しく「小学校の時の、修学旅行で」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「あー」が入っている。

6.6.1.2　談話的な「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる談話的な「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の談話的な「なんか」は次の文形式が観察された。

6.6.1.2.1　主題直後の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる主題直後の「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に主題直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

～も、ま(ー)～

「～も、なんか～」の文形式は、【会話 5】の話者 YF4 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(228) 05382OF1 あ、そうですね、(はい)昔は直線しかできなかったのにね(<笑>)
05383YF4 そうですね、でも、私も、(はい)なんか、中学とかで、(はい)裁縫とかがあったんですけど、(あー)まだ、あれでしたよ、まっすぐでしたよ

(228)では、代名詞「私」と副助詞「も」の後ろに「なんか」が現れている。「も」は主題提示機能をするので、この例は主題直後の「なんか」である。話者 YF4 は、「中学とかで、裁縫とかがあったんですけど」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「はい」が入っている。

6.6.1.2.2　質問直後の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる質問直後の「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に質問直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】　話者

(229) 05066OF1 はい、だからね、すぐ近いから(はい)公民館で習いごとに行っていました
05067YF4 えー、公民館、中国語だけですか？なんか、他にも

(229)では、話者の質問文「中国語だけですか」の直後に「なんか」が現れているので、質問文の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、この例は話者の質問直後の「なんか」である。話者 YF4 は、自分の質問の続き「他にも」を聞く前に「なん

か」を使っている。

(230) 05427YF4 編み物しないから、知らないです
05428OF1 そうですよね
05429YF4 どのぐらいかかるんですか？なんか、例えば、んー、セーター1 着だったら

(230)では、話者の質問文「どのぐらいかかるんですか」の直後に「なんか」が現れているので、話者の質問直後の「なんか」である。話者 YF4 は、自分の質問に続き、さらに質問について詳しく「例えば、んー、セーター1 着だったら」と説明する前に「なんか」を使っている。

【2】 相手

(231) 05130OF1 え、なぜですか?
05131YF4 なんか、お母さんが、(うん)手滑らして、落としました

(231)では、質問文「なぜですか」の直後に「なんか」が現れている。「なぜですか」は相手の質問文であるので、この例は相手の質問直後の「なんか」である。話者 YF4 は、相手の質問の直後に、「お母さんが、手滑らして、落としました」と回答する前に「なんか」を使っている。

6.6.1.2.3 肯定直後の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる肯定直後の「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に肯定直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】話者

(232) 05120OF1 あー、そうですか
05121YF4 はい、(うん)なんか、校長先生かなんかの、(はい)授業で、(はい)山口に修学旅行で行っていたかな、萩に、萩焼に絵付けしましたよ

(232)では、「なんか」の前に応答詞「はい」が現れている。「はい」は話者の肯定応答であるので、この例は話者の肯定直後の「なんか」である。話者 YF4 は、前の話の続きに、「校長先生かなんかの、授業で、山口に修学旅行で行っていたかな」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に相手の相槌「うん」が入っている。

(233) 05441YF4 そうですよね、なに、労力の割には、みたいなところもありますからね

05442OF1 そうそうそう
05443YF4 はい、なんか、セーターを、(はい)崩して編み直したりっていうのは、あったりするじゃないですか

(233)では、話者の肯定応答「はい」の後ろに「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、相手の発話に対して応答してから、前の話の続き「セーターを、崩して編み直したりっていうのは」を述べる前に「なんか」を使っている。

(234) 05263YF4 いや、たぶん、ソフトがあるとは、あると思います
05264OF1 あ、うーん
05265YF4 はい、なんか、会計みたいなやっているんですよ

(234)では、話者の肯定応答「はい」の後ろに「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、「はい」を発してから、「会計みたいなやっているんですよ」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

(235) 05391YF4 はい、(んー)キャンディーマクラみたいなやつ
05392OF1 はい、あ、そうですね
05393YF4 はい、(んー)なんか、裁縫とかされます?

(235)では、話者の肯定応答「はい」の後ろに「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、相手の発話に対して応答してから、「裁縫とかされます？」という質問をする前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「んー」が入っている。

(236) 05136OF1 うん、あー、それが、今、あのー、体験するんですよね、修学旅行で
05137YF4 そうですね(うん)なんか、絵付けとか、そういう陶芸とかされたことがあります？

(236)では、話者の肯定応答「そうですね」の後ろに「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、「そうですね」を発してから、「絵付けとか、そういう陶芸とかされたことがあります？」という質問をする前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(237) 05380OF1 そうですね、(んー)ま、何でもそうかもしれません<2 人笑>

05381YF4 そうですね、なんか、ミシンとか、(はい)ぜんぜん使わないですけど、(うんうん)なんか、通販とかで見ると、(はい)すごいですよね、(うん)縫い目がすごいかざり縫いとかできたり

(237)では、話者の肯定応答「そうですね」の後ろに「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、「そうですね」を発してから、「ミシンとか、ぜんぜん使わないですけど」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

(238) 05342OF1 こっちに来て、あのー、(はい)同じことで、あのね、(はい)友達になった人がね、(はい)あのー、岡山に、紡績会社っていうか、あ、なんか、縫製工場に行ったんだそうです、(はいはいはい)あのー、楽しかったよと言っていました

05343YF4 あ、そうなんですね、(はい)なんか、けっこう教科書とか見ると、辛そうだなと思って

(238)では、話者の肯定応答「そうなんですね」の後ろに「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、相手の発話に対して応答してから、「けっこう教科書とか見ると、辛そうだなと思って」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の相槌「はい」が入っている。

(239) 05236OF1 そうですね、(はい)その専門の先生がおられるので、(はい)そこでやれるんです

05237YF4 あ、そうなんですね、なんか、友達も社会学(はい)の、なんだかな、なんか、社会学コースっていう、ありますよね

(239)では、話者の肯定応答「そうなんですね」の後ろに「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF4 は、相手の発話に対して応答してから、「友達も社会学の」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

(240) 05374OF1 あ、私たちは、それが難しいと思う

05375YF4 あ、本当ですか、(うん)なんか、こう縫っているじゃないですか、(はい)で、ピッて手でやるから、(はい)でも、あれですけどね、タイミングは難しいですけどね

(240)では、「本当ですか」の後ろに「なんか」が現れている。文脈から、「本当ですか」は、話者の肯定の応答と考えるので、この例は、で、話者の肯定直後の「なんか」の例で

ある。話者 YF4 は、「本当ですか」を発してから、前の話の続き「こう縫っているじゃないですか」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の相槌「うん」が入っている。

【2】　相手

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に相手の肯定直後の「なんか」の文形式が観察されなかった。

6.6.1.2.4　否定直後の「なんか」

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に否定直後の「なんか」は観察されなかった。

6.6.1.2.5　思索直後の「なんか」

本節では、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる思索直後の「なんか」を扱う。

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に思索直後の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】　話者

(241) 05148OF1 あ、そういうことですね、(はいはい)恵まれていたかもしれない<2 人笑>
05149YF4 はい、んー、なんか、何で大学に入ろうと思ったんですか?

(241)では、「んー」の直後に「なんか」が現れている。文脈と音声の面から、「んー」はフィラーではなく、話者がまだ思索中である。すなわち、この例は話者の思索直後の「なんか」である。話者 YF4 は、「何で大学に入ろうと思ったんですか?」という質問をする前に「なんか」を使っている。

【2】　相手

【会話 5】には、話者 YF4 の発話に相手の思索直後の「なんか」の文形式が観察されなかった。

6.6.2　まとめ

以上の 6.6.1 での記述により、【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 15]で示す。

[表 15]【会話 5】における話者 YF4 の「なんか」の分類および出現頻度

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

分類				【会話5】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞、なんか～	◎	ー	あのー	あー	ー
			名詞+格助詞、なんか～	○	ー	あのー	はい	はい
			副詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			感嘆詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			フィラー、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			連体詞、なんか～	○	ー	なんていうかな	はい	ー
	節間		～けど、なんか～	○	ー	ー	うん	ー
			～から、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
	文間		～ですよね、なんか～	◎	ー	え	あー	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	○	ー	ー	はい	ー
	質問直後	話者	なんか～	○	ー	ー	ー	ー
		相手		○	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	●	ー	ー	うん、はい、んー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	○	んー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

[表 15]から、【会話 5】における話者 YF4 の「なんか」の分類と出現頻度を次のようにまとめる。

統語的な「なんか」では、相対的に多く現れた。その中で、句間の種類が多い。「~名詞、なんか～」の文形式は相対的に多い。節間は、「～けど、なんか～」「～から、なんか～」の文形式しか現れていない。文間は「～ですよね、なんか～」しか現れていないが、出現頻度が高い。

談話的な「なんか」では、否定直後は現れていない一方、主題直後、質問直後、肯定直後、思索直後は現れている。話者の質問直後と相手の質問直後は差がない。話者の肯定直後は多く現れているが、相手の肯定直後は現れていない。また、話者の思索直後は現れているが、相手の思索直後は現れていない。

挿入要素については、統語的な句間、文間の「なんか」では、「なんか」の直後に挿入要素フィラーが入っている。また、「なんか」の直前に、相槌「はい」、「うん」が多く入っている。

6.7　【会話 6】における話者 YF5 の「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 6】は、「知り合い会話」の 20 代女性 YF5 と 30 代女性 YF6 の会話である。

6.7.1　「なんか」の分布

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.7.1.1　統語的な「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見ていく。

6.7.1.1.1　句間の「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 6】には、話者 YF5 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～指示詞+格助詞、なんか～

「～指示詞+格助詞、なんか～」の文形式は【会話 6】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(242) 06010YF5 そうなんですよ、やっと、こう、なんというんですかね、なんとなく、こう、(んー)進み方というか、(うんうん)やっぱり、いろんな階級というか、いろんな役割分担しているじゃないですか

06011YF6 うんうん、そうですね

06012YF5 で、それに、なんか、係長とか、課長とか、いろんな名前がついてて、(うん)そういう人たちとどうやって、こう一緒に進めるのかみたいなのが、模索中というか

(242)では、指示詞「それ」と格助詞「に」の直後に「なんか」が現れている。「それに」は句であるので、句間にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF5 は、前の話の続きに「係長とか、課長とか、いろんな名前がついてて」を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～感嘆詞、なんか～

「～感嘆詞、なんか～」の文形式は【会話 6】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(243) 06054YF5 いや、私も、こう、最近って、こう、新入生が入ってくる(うん)季節じゃないですか、(うんうん)で、あの、学生じゃない、なんか、あの、職員の、こう、ビラっていう
06055YF6 カード？これ？
06056YF5 そうですね、カードを下げずに、(うんうん)お昼に、プラーっと歩いている時に、(うんうん)あのー、チラシをもらったんですよ、学生と思われて、(あー、<笑>) あー、あー、なんか、(<笑>)これ喜んでいいのか

(243)では、「あー」の直後に「なんか」が現れている。文脈と音声の面から、「あー」は感嘆詞であるので、感嘆詞の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。感嘆詞は句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF5 は、前の話を続けて、「これ喜んでいいのか」という疑問をする前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に相手の「<笑>」が入っている。

【3】～副詞、なんか～

「～副詞、なんか～」の文形式は【会話 6】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(244) 06337YF6 なんなんだったかなっていって、(うん)また、こう、係長の方から、こう、(うん)来られると、また、あ、すみませんってなって(そうですね)しまうかもしれないので
06338YF5 あ、そうですね、本当に、なんか、こう、すぐにさっと、何でもかんでも聞いてくださるというか

(244)では、「なんか」の直前に「本当に」が現れている。「本当に」は副詞であるので、副詞の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、この例は、副詞句間の「なんか」である。話者 YF5 は、「すぐにさっと、何でもかんでも聞いてくださるというか」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「こう」が入っている。

【4】～フィラー、なんか～

「～フィラー、なんか～」の文形式は【会話 6】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(245) 06135YF6 学部に行かれることないですか?

06136YF5 あるもん、あの、テニュアトラックを私担当になったので、(あー)獣医学部とか、（ああ)あとは、そうですね、なんか、いろいろ、こことここに行くことがあるから、(うん)覚えてねって、農学部とか、(あー)言われて

(245)では、「そうですね」の直後に「なんか」が現れている。文脈から、「そうですね」は、話者が自分に対して言っているので、フィラーと考える。すなわち、この例は、フィラーの直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF4 は、「いろいろ、こことここに行くことがあるから」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

(246) 06261YF6 あー、なんか、やっぱり、違うんですかね、特別な感じ(うん)なんですか、そのテニュアって?

06262YF5 そうですね、なんか、人事の制度としては、(うんうん)わりと、最近なんですかね

(246)では、「そうですね」の直後に「なんか」が現れている。文脈から、「そうですね」は話者の応答ではなく、話者が相手の質問を回答する前の場つなぎ機能をしているので、フィラーと考えられる。すなわち、この例はフィラー句間の「なんか」である。話者 YF5 は、相手の質問に対して、「人事の制度としては、わりと、最近なんですかね」と回答する前に「なんか」を使っている。

6.7.1.1.2 節間の「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 6】には、話者 YF5 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

～けど、なんか～

「～けど、なんか～」の文形式は、【会話 6】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(247) 06099YF6 あ、そうなんですね

06100YF5 私は工学部で、(うんうん)私高専から、（うんうん）工学部に行って、(うんうん)で、学部と(うんうん)大学院卒業したんですけど、(うんうん)なんか、基本的には、私の学科だけ、ちょっと特殊で、女性が多かったんですけど、基本的には男性が多い(そうですね)ところなんです、(うん)なので、今、周りが、女性に囲まれて(<笑>）いるので、あー、すごい<2 人笑

>

(247)では、接続助詞「けど」の後ろに「なんか」が現れている。「～けど」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF5 は、「基本的には、私の学科だけ、ちょっと特殊で、女性が多かったんです」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の相槌「うんうん」が入っている。

6.7.1.1.3　文間の「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる文間の「なんか」を扱う。

【会話 6】には、話者 YF5 の文間の「なんか」は次の文形式が観察された。

～っていうのか、なんか～

「～っていうのか、なんか～」の文形式は、【会話 6】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(248) 06037YF6 かも知れないですね
06038YF5 はい
06039YF6 あ、そうなんだ
06040YF5 なんか、どうしよう、どうしようっていう時に、(うん)すみませんっていうのか、(<笑>)なんか、言ってもいいんかなと(<笑>あ)思ってしまうっていうか

(248)では、文「すみませんっていうのか」の後ろに「なんか」が現れているので、文間の「なんか」の例である。話者 YF5 は、「言ってもいいんかな」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に相手の「<笑>」が入っている。

6.7.1.2　談話的な「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる談話的な「なんか」を扱う。

以下では、主題直後の「なんか」、質問直後の「なんか」、肯定直後の「なんか」、否定直後の「なんか」、思索直後の「なんか」に分けて見ていく。

6.7.1.2.1　主題直後の「なんか」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に主題直後の「なんか」は観察されなかった。

6.7.1.2.2　質問直後の「なんか」

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に質問直後の「なんか」は観察されなかった。

6.7.1.2.3　肯定直後の「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる肯定直後の「なんか」を扱う。

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に話者の肯定直後の文形式が観察された。

【1】　話者

(249) 06085YF6 普通にプライベートとか、(うんうん)また、なにか、(うんうん)これがでとか、(うんうん)いいんですけど、(うん)仕事で(そうですね)となると、えー、どうやって、どうやってみたいな

06086YF5 そうですよね

06087YF6 感じになっちゃうんですよ

06088YF5 うんうん、なんか、こう、程度よく、(うんうん)打ち解けるための(うん)小話じゃないですけど、(うん)そういうの、こう、あれば、いいですけど

(249)では、話者の肯定応答「うんうん」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、話者の肯定直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF5 は、相手の発話に対して「うんうん」と応答してから、「程度よく、打ち解けるための小話じゃないですけど」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に「こう」が入っている。

(250) 06239YF6 でも、1 人暮らしだから、けっこう大変なんじゃないですか、家事とか

06240YF5 そうですね、なんか、やっぱ、あの、学生の頃は、実家にいたので、(うんうん)ずっと通ってたんですけど、(うんうん)そうですね、最近やっぱり、ずっと 1 人暮らしになって(うんうんうん)

(250)では、話者の肯定応答「そうですね」の直後に「なんか」が現れているので、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF5 は、相手の発話内容に対して「そうですね」と応答してから、「学生の頃は、実家にいたので、ずっと通ってたんです」という自分の経験を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、副詞「やっぱ」、フィラー「あの」が入っている。

【2】　相手

(251) 06037YF6 かも知れないですね

06038YF5 はい

06039YF6 あ、そうなんだ

06040YF5 なんか、どうしよう、どうしようっていう時に、(うん)すみませんっていうのが、(<笑>)なんか、言ってもいいんかなと(<笑>あ)思ってしまうっていうか

(251)では、相手の「そうなんだ」の直後に「なんか」が現れている。文脈から、「そうなんだ」は相手の肯定の応答であるので、この例は、相手の肯定直後の「なんか」である。話者 YF5 は、前の話の続き、「どうしよう、どうしようっていう時に」という状態を述べる前に「なんか」を使っている。

6.7.1.2.4　否定直後の「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる否定直後の「なんか」を扱う。

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に話者の否定直後の文形式が観察された。

【1】　話者

(252) 06071YF6 そうですね、一緒にっていうのが、(はい)なかなかないから

06072YF5 なかったですからねー、すごい、いや、なんか、いい機会だなと思って、<2 人笑>楽しみに、はい、してました

(252)では、「いや」の直後に「なんか」が現れている。「いや」は話者が自分の発話「すごい」に対して否定の応答であるので、この例は話者の否定直後の「なんか」である。話者 YF5 は、今回の会話調査で相手と話しできること「いい機会だなと思って」と自分の見解を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】　相手

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に話者の否定直後の相手の「なんか」は観察されなかった。

6.7.1.2.5　思索直後の「なんか」

本節では、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる思索直後の「なんか」を扱う。

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に話者の思索直後の文形式が観察された。

【1】　話者

(253) 06049YF6 嬉しいのは嬉しい反面、(うん)えー、まだ 25 才でいいのかみたいな、<2 人笑>自分の中で#

06050YF5 なるほど

06051YF6 そうなんですよ

06052YF5 そうか

06053YF6 うんうん

06054YF5 いや、私も、こう、最近って、こう、新入生が入ってくる(うん)季節じゃないですか、(うんうん)で、あの、学生じゃない、なんか、あの、職員の、こう、ビラっていう

06055YF6 カード？これ？

(253)では、「なんか」が「学生じゃない」の直後に現れている。「なんか」の直後に、フィラー「あの」、修飾語「職員の」「ビラっていう」の使用から、話者は「学生じゃない」を説明するため、適切な表現を思索している。すなわち、この例は話者の思索直後の「なんか」である。話者 YF5 は、適切な表現を探している時に「なんか」を使っている。

【2】　相手

【会話 6】には、話者 YF5 の発話に話者の思索直後の相手の「なんか」は観察されなかった。

6.7.2　まとめ

以上の 6.7.1 での記述により、【会話 6】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 16]で示す。

[表 16] 【会話 6】における話者 YF5 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 6】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		代名詞+格助詞(に)、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			感嘆詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			副詞、なんか～	○	ー	こう	ー	ー
			フィラー、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、なんか～	○	ー	ー	うんうん	ー
	文間		～っていうのが、なんか～	○	ー	ー	<笑>	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	◎	ー	こう、やっぱ、あの	へー	ー
		相手		○	ー	で	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	○	ー	あの	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 16]から、【会話 6】における話者 YF5 の「なんか」の分類と出現頻度を次のようにまとめる。

統語的な「なんか」では、現れているが、出現頻度が低い。その中で、句間に 4 種類の文形式が現れている。節間は、「～けど、なんか～」の文形式しか現れていない。文間も「～っていうのが、なんか～」のみである。

談話的な「なんか」では、主題直後、質問直後は現れていない。一方、肯定直後、思索直後は現れている。その中で、話者の肯定直後は出現頻度が高く、相手の肯定直後は出現頻度が低い。また、否定直後、思索直後では、話者の方は現れているが、相手の方は現れていない。

挿入要素については、談話的な「なんか」の中に、話者の肯定直後の「なんか」の直後に、挿入要素が多く現れている。

6.8 【会話 7】における話者 YF5 の「なんか」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」を扱う。

【会話 7】は、「知り合い会話」の 20 代女性 YF5 と 60 代女性 OF2 の会話である。

6.8.1 「なんか」の分布

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」の分布を記述する。

以下では、フィラーの分類による統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて記述していく。

6.8.1.1 統語的な「なんか」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「統語的な「なんか」を扱う。

以下では、句間の「なんか」、節間の「なんか」、文間の「なんか」に分けて詳しく見ていく。

6.8.1.1.1 句間の「なんか」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる句間の「なんか」を扱う。

【会話 7】には、話者 YF5 の句間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～名詞+格助詞、なんか～

「～名詞+格助詞、なんか～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(254) 07053OF2 たまたま受けるって、たまたまの意味がよく分からなくて(<笑>) 、普通そこへ行こう、エントリーしようって思っても(はいはい)と聞いて(うん)、なんか、やっぱ、例えば、身近に高専に行った人がいるとか、（あー）誰か、その、そういう、なんかあって、(はい)あのー、志望って分かるけど、まったくないって、普通ちょっと考えにくい、どうですかね

07054YF5 いや、あの、別に知り合いとかいなくて、(うんうん)いや、本当に普通の、なんか、大学に入学する、進学校っていうんですかね

(254)では、名詞「普通」と格助詞「の」の直後に「なんか」が現れている。「普通の」は名詞句であるので、名詞句の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、この例は句間の「なんか」である。話者 YF5 は、相手の疑問に対して「大学に入学する、進学校っていうんですかね」という事実を述べる前に「なんか」を使っている。

(255) 07068YF5 英語とか、数学とか、(あ、はいはい)100 点満点とか、(え、え)あるんですけど、まったく対策もせず、受けて、(うんうん)なんか、受かって<笑>

07069OF2 んー

07070YF5 で、まー、なんていうんですかね、(んー)たまたま私が受けたのが、(うん)あのー、情報電子っていう学科で、(あー、そうなんだ)なんか、パソコンとか、(はいはいはい、そうですね)ハードやソフト系だったんですけど、まー、そのころ、あの、家庭にパソコンが普及してて、(うんうん)で、なんか、こう、やっぱパソコン面白そうみたいな、(んー)興味があったんですよ、(うんうん)で、まー、高専せっかく受かったし、(うんうん)行こうと思って、(んー)高専に行きました

(255)では、名詞「学科」と格助詞「で」の後ろに「なんか」が現れている。「学科で」は名詞句であるので、この例は、句間の「なんか」である。話者 YF5 は、前の話に続き、「パソコンとか、ハードやソフト系だったんですけど」ということを述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直前に、相手の応答「あー、そうなんだ」が入っている。

(256) 07083OF2 何をやってたんですか?

07084YF5 えーとですね、ま、アーチェリー部と、(アーチェリー)美術部と、(えー)伝統文化と同好会と、(伝統文化、えー)、なんか、アイドルとかしてたんですよ

(256)では、名詞「同好会」と格助詞「と」の後ろに「なんか」が現れている。「同好会と」は名詞句であるので、この例は、句間の「なんか」である。話者 YF5 は、前の話の続きに「アイドルとかしてたんですよ」を述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～形容詞、なんか～

「～形容詞、なんか～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(257) 07173OF2 でも、今は、あがきが終わりましたので、(おー)今、やっと、なんか、いろんな意味で、えーと、自分の好きなものを受け入れて、(うん)えーと、それに、時間を割く、(うんうん)ことが、一番いい、(えー)とリフレッシュするし、(うんうん)なんか、それが好きかなという感じ

07174YF5 わー、すごい、なんか、悟りを開いたような<笑>

(257)では、形容詞「すごい」の直後に「なんか」が現れている。形容詞は句と考えるの

で、この例は、句間の「なんか」である。話者 YF5 は、相手の発話に対して「すごい」と言ってから、「悟りを開いたような」という自分の感じを述べる前に「なんか」を使っている。

【3】～接続詞、なんか～

「～接続詞、なんか～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(258) 07068YF5 英語とか、数学とか、(あ、はいはい)100 点満点とか、(え、え)あるんですけど、まったく対策もせず、受けて、(うんうん)なんか、受かって<笑>

07069OF2 んー

07070YF5 で、まー、なんていうんですかね、(んー)たまたま私が受けたのが、(うん)あのー、情報電子っていう学科で、(あー、そうなんだ)なんか、パソコンとか、(はいはいはい、そうですね)ハードやソフト系だったんですけど、まー、そのころ、あの、家庭にパソコンが普及してて、(うんうん)で、なんか、こう、やっぱパソコン面白そうみたいな、(んー)興味があったんですよ、(うんうん)で、まー、高専せっかく受かったし、(うんうん)行こうと思って、(んー)高専に行きました

(258)では、接続詞「で」の直後に「なんか」が現れている。接続詞は句と考えるので、この例は句間の「なんか」である。話者 YF5 は、「パソコン面白そうみたいな」という自分の主張を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「こう」、副詞「やっぱ」が入っている。

(259) 07153OF2 あ、なるほど、なるほど

07154YF5 はい、発見というか、(うん、そうね)があって、だから、なんか、絵好きなんですよ、こう、描いたり好きで、(うん)楽しいんですけど、(んー)うん、やっぱり、なにか、課題っていうか、なにかある方が、より楽しい

(259)では、接続詞「だから」の直後に「なんか」が現れている。この例も句間の「なんか」である。話者 YF5 は、前の話の続きに「絵好きなんですよ」ということを述べる前に「なんか」を使っている。

(260) 07147OF2 え、ま、先ちょっと話が出たけど、ま、その趣味の話で、(はい)あのー、絵も好き、(うんうん)自分で描いたりとかされてるんですかね

07148YF5 あー、でも、なんか、ちょっとなんか、難しくて、あっ、なんか、なんていうんですかね、なんか、自分で、あっ、今日この時間使って、(うんうん)あの絵を描くぞう見たいな、(うんうん)あまりなくて、そういう欲求があまりなくて、(んー)なんか、例えば、誰かから頼まれたり、(うんうん)課題が出て、こういうのを描きなさいみたいなのがあったりすると、(うんうん)燃えるんですけど

(260)では、接続詞「でも」の直後に「なんか」が現れている。この例も句間の「なんか」である。話者 YF5 は、「でも」を発してから、絵を描くことについて「難しくて」という評価を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、副詞「ちょっと」、フィラー「なんか」が入っている。

【4】～連体詞、なんか～

「～連体詞、なんか～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(261) 07227OF2 そうですね、解放されて、好きなことができる
07228YF5 えー
07229OF2 本当にいいな
07230YF5 いいですね
07231OF2 で、今は、そういう
07232YF5 んー、いや、いいね、なんか、そういう、そういう、なんか、年取ったら、そうしたい

(261)では、連体詞「そういう」の直後に「なんか」が現れている。連体詞は句と考えるので、この例は、「句間」の「なんか」である。話者 YF5 は、「そういう」を「年取ったら、そうしたい」と説明する前に、「なんか」を使っている。

【5】～感嘆詞、なんか～

「～感嘆詞、なんか～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(262) 07147OF2 え、ま、先ちょっと話が出たけど、ま、その趣味の話で、(はい)あのー、絵も好き、(うんうん)自分で描いたりとかされてるんですかね
07148YF5 あー、でも、なんか、ちょっと、なんか、難しくて、あっ、なんか、なんていうんですかね、なんか、自分で、あっ、今日この時間使って、(う

んうん)あの絵を描くぞうみたいな、(うんうん)あまりなくて、そういう欲求があまりなくて、(んー)なんか、例えば、誰かから頼まれたり、(うんうん)課題が出て、こういうのを書きなさいみたいなのがあったりすると、(うんうん)燃えるんですけど

(262)では、感嘆詞「あっ」の直後に「なんか」が現れている。感嘆詞は句と考えるので、この例は「句間」の「なんか」である。話者 YF5 は、絵を描くことについて「自分で、あっ、今日この時間を使って、あの絵を描くぞうみたいな」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の後ろに、フィラー「なんていうんですかね」「なんか」が入っている。

【6】～フィラー、なんか～

「～フィラー、なんか～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(263) 07147OF2 え、ま、先ちょっと話が出たけど、ま、その趣味の話で、(はい)あのー、絵も好き、(うんうん)自分で描いたりとかされてるんですかね

07148YF5 あー、でも、なんか、ちょっとなんか、難しくて、あっ、なんか、なんていうんですかね、なんか、自分で、あっ、今日この時間使って、(うんうん)あの絵を描くぞうみたいな、(うんうん)あまりなくて、そういう欲求があまりなくて、(んー)なんか、例えば、誰かから頼まれたり、(うんうん)課題が出て、こういうのを書きなさいみたいなのがあったりすると、(うんうん)燃えるんですけど

(263)では、「なんていうんですかね」の直後に「なんか」が現れている。「なんていうんですかね」は場つなぎ機能をしていることから、フィラーと言える。すなわち、この例は、フィラーの「句間」の「なんか」である。話者 YF5 は、絵を描くことについて「自分で、あっ、今日この時間使って、あの絵を描くぞうみたいな」を述べる前に、「なんか」を使っている。

(264)07181OF2 それに、付随したお友達みたいな(うんうん)人もいるので、(はい)ま、それが、すごく、よくって、楽しみで、たくさん、こう、今、あのー、お付き合いとか、遊んだりしているので、(うんうん)いいなあ

07182YF5 あ、いいですね

07183OF2 いいですね

07184YF5 えー、そうですか、いいですね、なんか、なんかオペラというと、どこで見るんですか？

(264)では、「なんか」の直後に「なんか」が現れている。文脈から、この例も、フィラー句の直後の「なんか」である。話者 YF5 は、「オペラというと、どこで見るんですか」という質問する前に「なんか」を使っている。

6.8.1.1.2　節間の「なんか」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる節間の「なんか」を扱う。

【会話 7】には、話者 YF5 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～けど、なんか～

「～けど、なんか～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(265) 07149OF2 なるほど<笑>
07150YF5 はい
07151OF2 へー
07152YF5 じゃ、それを、自分、それを、例えば、こうちょっと、中学生の時とか、(うんうん)若い時は、なんていうんですかね、すぐ自分、中途半端だなみたいな、(んー)好きなのか、好きじゃないのか、分からないっていう、(おう）例えば、絵を描くのが、(うんうん)と思ってたんですけど、なんか、それは大学に入って、いろんな先生からちょっと聞いたのは、(うんうん)やっぱり、なんていうんですかね、自分のために、こう、自分の、あの、自己満足のために描くみたいなの、やっぱり、アーチスト的なみたいな、(うんうん)アーチスト的な感覚であって、(うんうん)で、やっぱりなにか、こう、課題とかに向かって、(うんうん)解決していくのが、こう、デザイン的な感覚のことと言われて、(あー)あ、自分って、こっちに向いてたんだという

(265)では、接続助詞「けど」の後ろに「なんか」が現れている。「～けど」は従属節であるので、従属節の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、節間にフィラー「なんか」が現れている。話者 YF5 は、絵を描くことについて「それは大学に入って」などと自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。

【2】～て、なんか～

「～て、なんか～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(266) 07066YF5 そうなんですよ、で、だから、私、高専とかで、傾斜配点とかあるんですよ

07067OF2 傾斜配点?

07068YF5 英語とか、数学とか、(あ、はいはい)100 点満点とか、(え、え)あるんですけど、まったく対策もせず、受けて、(うんうん)なんか、受かって<笑>

(266)では、「受けて」の後ろに「なんか」が現れている。「受けて」の「て」は従属節の接続助詞であるので、この例は「節間」の「なんか」である。話者 YF5 は「受けて」の結果「受かって」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うんうん」が入っている。

(267) 07081OF2 あー、そうなんだ、それで、えーと、あの、編入して、(はい)編入した時は、もう、じゃ、そのまま、院にまで行こうと思ってたの？

07082YF5 いや、まったく思ってなくって、(うん)なんか、あのー、うちの高専って言うのは、ハードからソフトまで、(うん)とりあえず一通りやろうという、けっこう、こう、広く、浅く(うんうん)っていう感じだったんですよ、(うん)なので、もうちょっとこう、このまま仕事ができないんじゃないかと、なんか、自分で思って、(んー)で、ちょっと中途半端かな、技術的に、(んー)なので、せっかくなので、で、うちの親も、ま、大学くらいは行ったら、いいじゃないっていう、(うんうん)言ってくれて、(うんうん)でー、で、私けっこう、その時に、あのー、部活を掛け持ちしてたんですよ

(267)も、接続助詞「て」の後ろに「なんか」が現れているので、「節間」の「なんか」である。話者 YF5 は、前の話を続けて、卒業した高専について「うちの高専って言うのは、ハードからソフトまで」などを説明する前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「うん」が入っている。また、「なんか」の直後に、フィラー「あのー」が入っている。

(268) 07147OF2 え、ま、先ちょっと話が出たけど、ま、その趣味の話で、(はい)あのー、絵も好き、(うんうん)自分で書いたりとかされてるんですかね

07148YF5 あー、でも、なんか、ちょっとなんか、難しくて、あっ、なんか、なんていうんですかね、なんか、自分で、あっ、今日この時間使って、(うんうん)あの絵を書くぞうみたいな、(うんうん)あまりなくて、そういう欲求があまりなくて、(んー)なんか、例えば、誰かから頼まれたり、(うんう

ん)課題が出て、こういうのを書きなさいみたいなのがあったりすると、(うんうん)燃えるんですけど

(268)では、前例と同じく、接続助詞「て」の後ろに「なんか」が現れているので、「節間」の「なんか」である。話者 YF5 は、「そういう要求があまりなくて」について「例えば、誰かから頼まれたり、課題が出て」のように説明する前に、「なんか」を使っている。「なんか」の前に相手の相槌「んー」が入っている。

6.8.1.1.3　文間の「なんか」

本節では、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる文間の「なんか」を扱う。

【会話 7】には、話者 YF5 の節間の「なんか」は次の文形式が観察された。

【1】～ですね、なんか～

「～ですね、なんか～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(269) 07181OF2 それに、付随したお友達みたいな(うんうん)人もいるので、(はい)ま、それが、すごく、よくって、楽しみで、たくさん、こう、今、あのー、お付き合いとか、遊んだりしているので、(うんうん)いいなあ
07182YF5 あ、いいですね
07183OF2 いいですね
07184YF5 えー、そうですか、いいですね、なんか、なんかオペラというと、どこで見るんですか?

(269)では、文「いいですね」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、文の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF5 は、相手の発話内容について「いいですね」と評価してから、「オペラというと、どこで見るんですか?」という質問をする前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後にフィラー「なんか」が入っている。

【2】～いいね、なんか～

「～いいね、なんか～」の文形式は、【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(270) 07227OF2 そうですね、解放されて、好きなことができる
07228YF5 えー
07229OF2 本当にいいな

07230YF5 いいですね
07231OF2 で、今は、そういう
07232YF5 んー、いや、いいね、なんか、そういう、そういう、なんか、年取ったら、そうしたい

(270)では、文「いいね」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、文の直後にフィラー「なんか」が来ていることになる。話者 YF5 は、相手の発話内容について「いいね」と評価してから、「そういう、そういう、なんか、年取ったらそうしたい」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。

【3】～と、なんか～

「～と、なんか～」の文形式は【会話 7】の話者 YF5 の発話に現れた、次の例が挙げられる。

(271) 07081OF2 あー、そうなんだ、それで、えーと、あの、編入して、(はい)編入した時は、もう、じゃ、そのまま、院にまで行こうと思ってたの?
07082YF5 いや、まったく思ってなくって、(うん)なんか、あのー、うちの高専って言うのは、ハードからソフトまで、(うん)とりあえず一通りやろうという、けっこう、こう、広く、浅く(うんうん)っていう感じだったんですよ、(うん)なので、もうちょっとこう、このまま仕事ができないんじゃないかと、なんか、自分で思って、(んー)で、ちょっと中途半端かな、技術的に、(んー)なので、せっかくなので、で、うちの親も、ま、大学くらいは行ったら、いいじゃないっていう、(うんうん)言ってくれて、(うんうん)でー、で、私けっこう、その時に、あのー、部活を掛け持ちしてたんですよ

(271)では、「このまま仕事ができないんじゃないかと」という文の直後に「なんか」が現れているので、「文間」の「なんか」である。話者 YF5 は、前の話の続きに、「自分で思って」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。

6.8.1.2　談話的な「なんか」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に談話的な「なんか」は観察されなかった。

6.8.1.2.1　主題直後の「なんか」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に主題直後の「なんか」は観察されなかった。

6.8.1.2.2　質問直後の「なんか」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に質問直後の「なんか」は観察されなかった。

6.8.1.2.3　肯定直後の「なんか」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に肯定直後の「なんか」は観察されなかった。

6.8.1.2.4　否定直後の「なんか」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に否定直後の「なんか」は観察されなかった。

6.8.1.2.5　思索直後の「なんか」

【会話 7】には、話者 YF5 の発話に話者の思索直後の「なんか」は観察されなかった。

6.8.2　まとめ

以上の 6.8.1 での記述により、【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 17]で示す。

[表 17]【会話 7】における話者 YF5 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 7】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞+、なんか～	◎	あ、そうなんだ、伝統文化、えー	ー	ー	ー
			形容詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、なんか～	◎	ー	こう、ちょっとなんか	ー	ー
			連体詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			感嘆詞、なんか～	○	ー	なんていうんですかね	ー	ー
			フィラー、なんか～	○	なんか	ー	ー	ー
	節間		～けど、なんか～	○	ー	ー		ー
			～て、なんか～	◎	ー		うん、んー	
	文間		～ます、なんか～	○	ー	なんか	ー	ー
			～いいね、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			～と、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 17]から、【会話 7】における話者 YF5 の「なんか」の分類と出現頻度を次のようにまとめる。

統語的な「なんか」は、相対的に多く現れている。句間では、文形式が多い、その中で、「～名詞、なんか～」「～接続詞、なんか～」の文形式が出現頻度が高い。節間では、「～けど、なんか～」「～て、なんか～」が現れているが、「～て、なんか～」の文形式の出現頻度が高い。文間は「～ます、なんか～」「～いいね、なんか」「～と、なんか～」の文形式があるが、出現頻度が低い。

談話的な「なんか」は、全く現れていない。

挿入要素については、統語的な「なんか」の中に、「なんか」の前後に、挿入要素が多く

現れている。

第 7 章　「ま(ー)」と「なんか」の比較と分析

本章では、4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 の同世代の相手と、年上の相手との会話に現れる「ま(ー)」と「なんか」の分布と出現頻度を比較、分析する。また、4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 の「ま(ー)」と「なんか」による分析結果をさらに検証するため、デフォルトデータ【会話 8】による分析も行う。

本研究は「ま(ー)」と「なんか」の待遇差を評価する際、待遇レベルを用いる。一般的には、発話者は場、相手などを配慮し、場、相手によって、丁寧さが異なる待遇表現を選択する。本研究は、言語表現の丁寧さを待遇レベルと呼ぶ。

7.1　「ま(ー)」の比較と分析

本節では、4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 の同世代の相手と、年上の相手との会話に現れる「ま(ー)」の分布と出現頻度を比較、分析する。

7.1.1　【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の比較と分析

本節では、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 1】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうしの YF1 と YF2 の会話である。【会話 2】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF2 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

第 5 章「ま(ー)」の記述により、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を、次の[表 18]で示す。

[表 18] 【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類			【会話 1】					【会話 2】				
			頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
				「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌 前	相槌 後		「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌 前	相槌 後
統語的な「ま(ー)」	句間	代名詞、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	はい	−
		名詞+格助詞、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
		副詞、ま(ー)～	○	−	−	−	−	○	−	でも	−	−
		形容詞、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
		接続詞、ま(ー)～	◎	−	−	−	−	◎	−	−	−	はい
		感嘆詞、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	でも	−	−
		ではなく、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	はい	−
		フィラー、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
	節間	～けど、ま(ー)～	◎	−	−	うん	−	●	−	すごい やっぱり	はい はー	−
		～て、ま(ー)～	○	−	−	−	−	◎	−	−	はい	−
		～し、ま(ー)～	○	−	−	−	−	◎	−	−	はい あー	−
		～ので、ま(ー)～	×	−	−	はい うん	−	○	−	−	はい	−
	文間	～たりとか、ま(ー)～	○	−	−	うん	−	×	−	−	−	−
談話的な「ま(ー)」	主題直後	～は(も)、ま(ー)～	○	−	−	−	−	●	−	−	はい	−
	質問直後 話者	ま(ー)～	×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	質問直後 相手		×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	肯定直後 話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	でも	んー	−
	肯定直後 相手		×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
	否定直後 話者	いや、ま(ー)～	×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	否定直後 相手		×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	思案直後 話者	～、ま(ー)～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	思案直後 相手		×	−	−	−	−	×	−	−	−	−

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

次は、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて比較、分析していく。

7.1.1.1　統語的な「ま(ー)」

[表 18]から、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる統語的な「ま(ー)」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

統語的な「ま(ー)」は、【会話 2】の方に相対的に多く現れている。

【1】句間の「ま(ー)」

句間では、【会話 2】の方に文形式が多く現れる一方、【会話 1】の方は文形式が少ない。その中で、「～接続詞、ま(ー)～」の文形式が両方に出現頻度が高い。挿入要素については、年上の 60 代の女性との【会話 2】には、話者 YF2 が「ま(ー)」の直後に接続詞「でも」を挿入している。また、相手の発話の「ま(ー)」の前後に相槌「はい」が現れている。20 代どうしの【会話 1】には、話者による挿入要素と相手による相槌が現れていない。

句間という位置では、句は文中における独立性の度合いが低いと考えられるため、句の直後に「ま(ー)」が現れることは少ない。しかし、60 代女性との会話には「ま(ー)」が多く現れている。従って、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。

【2】節間の「ま(ー)」

節間では、【会話 2】の方に文形式が多い。また、両方とも現れる文形式は、「～けど、ま(ー)～」「～て、ま(ー)～」「～し、ま(ー)～」は【会話 2】の方が相対的に多い。その中で、「～けど、ま(ー)～」が【会話 2】の方にやや多く現れているが、両方とも出現頻度が高い。

挿入要素については、【会話 2】には、話者 YF2 の「ま(ー)」の直後に、「すごい」「やっぱり」という副詞が現れている。また、相手の相槌「はい」が多く現れている。

節間という位置では、南不二男(1974)によると、従属の度合いによって、従属節は A 類、B 類、C 類の 3 種類に分けられる。この中で、「ま(ー)」の出現頻度の高い「～けど」「～て」「～し」は C 類に属している。C 類の従属節は相対的に独立度が高く、それゆえ、その直後に様々な要素が入りやすいと言える。相対的な頻度では、60 代女性との会話に節間の「ま(ー)」が多く現れている。従って、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。

【3】文間の「ま(ー)」

文間では、【会話 1】には「～たりとか、ま(ー)～」の文形式しか現れていない。【会話 2】には現れていない。

文間という位置では、独立性が高い文の間であるため、様々な要素が入りやすいと考えるが、文形式が現れる【会話 1】にも例が少ない。

7.1.1.2　談話的な「ま(ー)」

[表 18]から、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「ま(ー)」は、【会話 2】の方に相対的に多く現れている。

【1】主題直後の「ま(ー)」

主題直後の「ま(ー)」は年上の 60 代との会話に特に多く現れている。挿入要素については、【会話 2】に「ま(ー)」の前に相手による相槌「はい」が現れている。

主題直後という位置は、統語的には句間であり、その直前の名詞句は独立性が低いように見えるが、意味的には主題提示機能を有しているため、独立性が高いのではないかと考えられる。また、音声的にも、主題にはプロミネンスが置かれることがある。それゆえ、談話的にも主題部分は焦点化されていると言えよう。20 代の話者 YF2 は年上の 60 代の相手との会話では、まず主題を発話することによって、発話権を獲得する。そして、その後、その発話権を保持するために、「ま(ー)」を多用しているのではなかろうか。それゆえ、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。

【2】質問直後の「ま(ー)」

質問直後の「ま(ー)」は【会話 1】と【会話 2】の両方に現れていない。

【3】肯定直後の「ま(ー)」

肯定直後では、話者の肯定直後と相手の肯定直後は【会話 2】に現れている一方、【会話 1】に現れていない。挿入要素については、話者の肯定直後には話者 YF2 による接続詞「でも」が現れている。また、相手 OF1 による相槌「んー」が現れている。

話者の肯定直後という位置では、話者は相手の発話に対して、まず「はい」「うん」「そうですね」などで応答してから、発話する。20 代女性どうしの【会話 1】に現れておらず、年上 60 代の女性との【会話 2】に現れているのは、年上の 60 代の相手に対して、丁寧に応答してから、「ま(ー)」で発話権を取り、発話するからである。このことから、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。また、相手の肯定直後という位置では、相手の肯定的な応答「はい」「うん」「そうですね」の後に、話者 YF2 は「ま(ー)」で発話権をとり、発話する。前の主題直後の「ま(ー)」と関連して、話者が「ま(ー)」を発してから、発話することから、ここも同じく、相手の肯定直後の「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。

【4】否定直後の「ま(ー)」

否定直後の「ま(ー)」も【会話 1】と【会話 2】の両方に現れていない。

【5】思索直後の「ま(ー)」

思索直後では、相手の思索直後は【会話 1】と【会話 2】の両方の現れていない。話者の思索直後は【会話 1】にしか現れていない。

話者の思索直後という位置では、話者は相手に対して発話の仕方などを慎重に考えながら発話するのであるが、発話内容に関する思索もある。また、わずかな差しかないため、ここの「ま(ー)」は待遇性があるか否かは断定し難い。

7.1.2　【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の比較と分析

本節では、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうしの YF3 と YF4 の会話である。【会話 4】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF3 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

第 5 章「ま(ー)」の記述により、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を、次の[表 19]で示す。

[表 19]【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 3】					【会話 4】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌			「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		名詞+格助詞、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			副詞、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
			フィラー、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー	◎	ー	でも、なんか	はい	ー
	節間		～けど、ま(ー)～	○	ー	ー	はい	ー	○	ー	ー	ー	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

次は、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて比較、分析していく。

7.1.2.1　統語的な「ま(ー)」

[表 19]から、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる統語的な「ま(ー)」の分類と出現頻度まとめると、次のようになる。

統語的な「ま(ー)」は、【会話 4】の方に相対的に多く現れている。

【1】句間の「ま(ー)」

句間では、【会話 4】の方に文形式がやや多く現れる一方、【会話 3】の方に文形式は少ない。その中で、「フィラー、ま(ー)～」の文形式が【会話 4】により多く現れている。挿入要素については、話者 YF3 による接続詞「でも」、フィラー「なんか」が挿入されている。また、相手による相槌「はい」が現れている。

前述により、句間という位置では、句は文中における独立性の度合いが低いと考えられるため、句の直後に「ま(ー)」が現れることは少ない。しかし、60 代女性との会話には「ま(ー)」が多く現れている。従って、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。

【2】節間の「ま(ー)」

節間では、【会話 3】と【会話 4】の両方に「～けど、ま(ー)～」の文形式が現れているが、頻度は低い。ここでは、「ま(ー)」は待遇性があまり見えない。

【3】文間の「ま(ー)」

文間では、【会話 3】と【会話 4】の両方に現れていない。

7.1.2.2　談話的な「ま(ー)」

[表 19]から、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「ま(ー)」は、【会話 4】の方に相対的に多く現れている。

【1】主題直後の「ま(ー)」

主題直後の「ま(ー)」は年上の 60 代との【会話 4】に現れているが、20 代どうしの【会話 3】に現れていない。

【2】質問直後の「ま(ー)」

質問直後は両方の会話に現れていない。

【3】肯定直後の「ま(ー)」

肯定直後では、話者の肯定直後の「ま(ー)」は年上の 60 代との【会話 4】に現れているが、20 代どうしの【会話 3】に現れていない。

【4】否定直後の「ま(ー)」

否定直後は両方の会話に現れていない。

【5】思索直後の「ま(ー)」

思索直後は両方の会話に現れていない。

主題直後、話者の肯定直後の「ま(ー)」は、年上の 60 代との【会話 4】に現れることから、「ま(ー)」の待遇レベルが高いと言えるが、やはり、わずかな差しかないため、待遇性があるとは言い難い。

7.1.3　【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の比較と分析

本節では、【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうし YF3 と YF4 の会話である。【会話 5】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF4 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

第 5 章「ま(ー)」の記述により、【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 20]で示す。

[表 20]【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 3】					【会話 5】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌			「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的なま(ー)	句間		～、ま(ー)～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	節間		～、ま(ー)～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	文間		～、ま(ー)～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	否定直後	話者	いや、ま(ー)～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	思案直後	話者	～、ま(ー)～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　－:挿入要素現れない

次は、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて比較、分析していく。

7.1.3.1　統語的な「ま(ー)」

[表 20]から、【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる統語的な「ま(ー)」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

統語的な「ま(ー)」は、【会話 3】と【会話 5】の両方とも現れていない。

話者 YF4 は 20 代女性どうしの会話にも、年上の 60 代の女性との会話にも統語的な「ま(ー)」を使っていない。これは、フィラーの使いは個人差があると考えられる。

7.1.3.2　談話的な「ま(ー)」

[表 20]から、【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「ま(ー)」では、全体的に極めて少ない。

【1】主題直後の「ま(ー)」

主題直後では、【会話 3】と【会話 5】の両方に現れていない。

【2】質問直後の「ま(ー)」

質問直後では、【会話 3】と【会話 5】の両方に現れていない。

【3】肯定直後の「ま(ー)」

肯定直後では、相手の肯定直後の「ま(ー)」は、会話の両方に現れていない。話者の肯定直後の「ま(ー)」は年上の 60 代との【会話 4】に現れているが、20 代どうしの【会話 3】に現れていない。

【4】否定直後の「ま(ー)」

「否定直後」では、【会話 3】と【会話 5】の両方に現れていない。

【5】思索直後の「ま(ー)」

思索直後では、【会話 3】と【会話 5】の両方に現れていない。

話者 YF4 は、20 代女性どうしの会話に「ま(ー)」を全く使っていない、年上の 60 代の女性との会話に談話的な「ま(ー)」を使っているが、ごくわずかである。すなわち、話者 YF4 は談話的な「ま(ー)」をほとんど使っていない。これは、フィラーの使い方には個人差があると考えられる。

7.1.4　【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の比較分析

本節では、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 6】は、「知り合い会話」の 20 代の女性 YF5 と 30 代の女性 YF6 の会話である。【会話 7】は、「知り合い会話」の 20 代の女性 YF5 と 60 代の女性 OF2 の会話である。

第 5 章「ま(ー)」の記述により、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を、次の[表 21]で示す。

[表 21]【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 6】					【会話 7】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌			「ま(ー)」直前	「ま(ー)直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		名詞+格助詞、ま(ー)～	○	ー	ー	うん	ー	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	◎	ー	ー	ー	ー
			フィラー、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			～ので、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	なんていうんですかね	んー	ー
			～たら、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	うん	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	また	はい	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

次は、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて比較、分析していく。

7.1.4.1　統語的な「ま(ー)」

[表 21]から、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる統語的な「ま(ー)」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

統語的な「ま(ー)」は、【会話 7】の方に相対的に多く現れている。

【1】句間の「ま(ー)」

句間では、年上の 60 代女性との【会話 7】の方に文形式がやや多く現れている。また、「～接続詞、ま(ー)～」の文形式が【会話 6】に現れていない一方、【会話 7】の出現頻度が高い。挿入要素については、【会話 6】に、「ま(ー)」の前に相手による相槌「うん」が現れている。

句間という位置では、句は文中における独立性の度合いが低いと考えられるため、句の直後に「ま(ー)」が現れることは少ないと言える。しかし、60 代女性との会話には「ま(ー)」が多く現れる。従って、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。

【2】節間の「ま(ー)」

節間では、同世代の相手との【会話 6】に「ま(ー)」が現れていない一方、年上の 60 代の【会話 7】の方にやや多い文形式が現れている。挿入要素については、【会話 7】には、「ま(ー)」の直後に話者 YF5 によるフィラー「なんていうんですかね」が挿入されている。また、相手による相槌「んー」が現れている。

前述により、節間という位置では、南不二男(1974)によると、従属の度合いによって、従属節は A 類、B 類、C 類の 3 種類に分けられる。この中で、【会話 7】に現れる「～けど」は C 類に属しており、「～ので」「～たら」は B 類に属している。C 類の従属節は相対的に独立度が高く、その直後に様々な要素が入りやすい。B 類の従属節の独立性は A 類と C 類の間であり、やや高い。そうはいっても、60 代女性との会話に節間の「ま(ー)」が相対的に多く現れている。従って、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言えよう。

【3】文間の「ま(ー)」

文間では、【会話 6】と【会話 7】の両方に現れていない。

7.1.4.2　談話的な「ま(ー)」

[表 21]から、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「ま(ー)」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「ま(ー)」は、年上の 60 代の女性との【会話 7】にやや多く現れている。

【1】主題直後の「ま(ー)」

主題直後の「ま(ー)」は、同世代との【会話 6】に現れていない一方、年上の 60 代の女性との【会話 7】に現れている。挿入要素については、【会話 7】に「ま(ー)」の直後に話者による接続詞「また」が挿入されている。また、「ま(ー)」の前に相手による相槌「はい」が現れている。

前述により、主題直後という位置は、若い世代の話者は年上の 60 代の相手との会話の場合には、まず主題を発話することによって、発話権を獲得する。そして、その後、その発話権を保持するために、「ま(ー)」を多用しているのではなかろうか。それゆえ、「ま(ー)」は待遇レベルが高いと言える。

【2】質問直後の「ま(ー)」

質問直後では、【会話 6】と【会話 7】の両方に現れていない。

【3】肯定直後の「ま(ー)」

肯定直後では、【会話 6】と【会話 7】の両方に現れていない。

【4】否定直後の「ま(ー)」

否定直後では、【会話 6】と【会話 7】の両方に現れていない。

【5】思索直後の「ま(ー)」

思索直後では、話者の思索直後の「ま(ー)」は、【会話 6】と【会話 7】の両方に現れていない。相手の思索直後の「ま(ー)」が【会話 6】に現れていないが、【会話 7】に現れている。

相手思索直後という位置では、話者は相手がまだ思索中に、「ま(ー)」を発して、発話することである。【会話 7】に現れているが、頻度が低いため、「ま(ー)」は待遇レベルが高いか否かは断定できない。

7.2　「なんか」の比較と分析

本節では、4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 が同世代の相手と、年上の相手との会話に現れる「なんか」の分布と出現頻度を比較、分析する。

7.2.1　【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の比較と分析

本節では、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 1】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうしの YF1 と YF2 の会話である。【会話 2】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF2 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

第 6 章の「なんか」の記述により、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 22]で示す。

[表 22]【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 1】					【会話 2】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「なんか」直前	「なんか」直後	相槌			「なんか」直前	「なんか」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「なんか」	句間		代名詞、なんか～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
			名詞+格助詞、なんか～	○	−	−	−	−	○	<笑>	−	−	−
			副詞、なんか～	○	−	−	<笑>	−	×	−	−	−	−
			接続詞、なんか～	○	−	−	−	−	○	−	−	−	−
			フィラー、なんか～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	節間		～けど、なんか～	◎	−	−	うんんー	−	×	−	−	−	−
			～て、なんか～	○	<笑>	−	へー	−	×	−	−	−	−
			～し、なんか～	○	−	−	うん	−	×	−	−	−	−
			～ので、なんか～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
			～と、なんか～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
	文間		～ます、なんか～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
			～ですね、なんか～	○	−	−	うん	−	×	−	−	−	−
			～ですよ、なんか～	○	−	−	うん	−	×	−	−	−	−
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	○	−	−	−	−	○	−	−	−	はい
	質問直後	話者	なんか～	×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
		相手		○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	○	−	−	へー	−	○	−	−	−	−
		相手		○	−	で	−	−	○	−	−	−	−
	否定直後	話者	いや、なんか～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
		相手		×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	思索直後	話者	～、なんか～	○	−	−	−	えー	×	−	−	−	−
		相手		○	−	−	−	−	×	−	−	−	−

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　−:挿入要素現れない

次は、統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて比較、分析していく。

7.2.1.1　統語的な「なんか」

[表 22]から、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる統語的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

統語的な「なんか」は、【会話 1】の方に相対的に多く現れている。

【1】句間の「なんか」

句間では、20 代どうしの【会話 1】の方に文形式がより多く現れている。挿入要素については、【会話 1】には、「なんか」の直前に相手による相槌機能の「笑」が現れている。【会話 2】には、「なんか」の直前に話者 YF2 による「笑」が現れている。

句間という位置では、句は文中における独立性の度合いが低いと考えられるため、句の直後に「ま(ー)」が現れることは少ない。だが、20 代女性どうしの【会話 1】には「なんか」がやや多く現れている。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【2】節間の「なんか」

節間では、【会話 1】には、「～けど、なんか～」「～て、なんか～」「～し、なんか～」の文形式が現れている、その中で、「～けど、なんか～」の文形式の出現頻度が高い。【会話 2】には、「～ので、なんか～」「～と、なんか～」の文形式しか現れていない。挿入要素については、【会話 1】には、「なんか」の前に相手による相槌「うん」「んー」「へー」が現れている。【会話 2】には、現れていない。

前述により、節間という位置では、南不二男(1974)によると、従属の度合いによって、従属節は A 類、B 類、C 類の 3 種類に分けられる。この中で、【会話 1】に現れている「～けど」「～て」「～し」は C 類に属している。C 類の従属節は相対的に独立度が高く、それゆえ、その直後に様々な要素が入りやすい。相対的な頻度では、20 代女性どうしの会話に節間の「なんか」が多く現れている。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【3】文間の「なんか」

文間では、【会話 1】には、多くの文形式が現れている一方、【会話 2】には現れていない。挿入要素については、【会話 1】に「なんか」直前に相手による相槌「うん」が現れている。

文間という位置では、独立性が高い文の間であるため、様々な要素が入りやすいと考える。しかし、20 代女性どうしの【会話 1】に現れているが、年上の 60 代女性との【会話 2】に現れていない。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

7.2.1.2　談話的な「なんか」

[表 22]から、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「なんか」は、【会話 1】の方に相対的に多く現れている。

【1】主題直後の「なんか」

主題直後では、【会話 1】と【会話 2】の両方とも現れている。しかも、出現頻度の差が見られない。このことから、主題直後の「なんか」は待遇性がないと言えよう。

【2】質問直後の「なんか」

質問直後では、話者の質問直後には【会話 1】と【会話 2】の両方に現れていない。相手の質問直後には、20 代女性どうしの【会話 1】にしか現れていない。

相手の質問直後という位置の「なんか」は、話者は相手の質問の後に、直接「なんか」を発して、発話する。この環境の「なんか」の例は、【会話 1】に現れているが、【会話 2】現れていない。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【3】肯定直後の「なんか」

肯定直後では、話者の肯定直後と相手の肯定直後は【会話 1】と【会話 2】の両方とも現れている。しかも、出現頻度の差が見られない。このことから、肯定直後の「なんか」は待遇性がないと言えよう。

【4】否定直後の「なんか」

否定直後では、相手の否定直後には【会話 1】と【会話 2】の両方に現れている。話者の否定直後には、20 代女性どうしの【会話 1】にしか現れていない。

話者の否定直後という位置の「なんか」は、話者は自分の発話に対して、「いや」で否定してから、「なんか」を発して、発話することである。この環境の「なんか」の例は、【会話 1】に現れているが、【会話 2】に現れていない。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【5】思索直後の「なんか」

思索直後では、話者の思索直後、相手の思索直後は【会話 1】に現れているが、【会話 2】に現れていない。これは、話者 YF2 は 20 代女性どうしの【会話 1】によく「なんか」を使って、発話を始めると考えられる。このことから、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

7.2.2　【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の比較と分析

本節では、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうし YF3 と YF4 の会話である。【会話 4】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF3 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

第 6 章の「なんか」の記述により、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を、次の[表 23]で示す。

[表 23]【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 3】					【会話 4】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「なんか」直前	「なんか」直後	相槌			「なんか」直前	「なんか」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞、なんか～	◎	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
			名詞+格助詞、なんか～	◎	ー	もう	ー	はい	×	ー	ー	ー	ー
			副詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
			形容詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
			接続詞、なんか～	○	ー	あのー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			名詞+助詞、なんか～	○	ー	こう	ー	ー	○	ー	ー	ー	ああ
			感嘆詞、なんか～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			フィラー、なんか～	●	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			っていう、なんか	○	ー	ー	えー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、なんか～	○	ー	ー	はい	ー	○	ー	ー	ー	ー
			～て、なんか～	○	ー	ー	はい	ー	○	ー	まー	ー	はい
			～と、なんか～	○	ー	ー	はい	ー	×	ー	ー	ー	ー
	文間		～ですよね、なんか～	○	ー	ー	おー	はい	×	ー	ー	ー	ー
			書け、なんか～	○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
			みたいな、なんか～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	◎	ー	もう	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	なんか～	○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	◎	ー	ー	ー	はい	◎	ー	すごい、あのー	ー	ー
		相手		○	ー	あのー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや、なんか～	○	ー	ま、たぶん	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

次は、統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて比較、分析していく。

7.2.2.1　統語的な「なんか」

[表 23]から、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF3 の発話に現れる統語的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

統語的な「なんか」は、【会話 3】の方に相対的に多く現れている。

【1】句間の「なんか」

句間では、20 代どうしの【会話 3】の方に文形式がとりわけ多く現れている。しかも、その中で、「フィラー、なんか～」、「名詞、なんか～」、「名詞+格助詞、なんか～」の文形式の出現頻度が特に高い。一方、年上の 60 代の女性との【会話 4】には、「なんか」の文形式が少ない、出現頻度も低い。挿入要素については、【会話 3】には、「なんか」の直後に話者による副詞「もう」、フィラー「あのー」「こう」が現れている。また、相手による相槌「はい」「えー」が現れている。【会話 4】には、「なんか」の直後に相手による相槌「ああ」が現れている。

句間という位置では、句は文中における独立性の度合いが低いと考えられるため、句の直後に「ま(ー)」が現れることは少ないと言える。しかし、20 代女性どうしの【会話 3】には「なんか」が非常に多く現れている。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【2】節間の「なんか」

節間では、「～けど、なんか～」「～て、なんか～」の文形式が【会話 3】と【会話 4】の両方に現れている。「～と、なんか～」の文形式は【会話 3】にしか現れていない。挿入要素については、【会話 3】には、「なんか」の前に相手による相槌「はい」が多く現れている。【会話 4】には、挿入要素が現れていない。

節間という位置では、前述により、従属節の独立性が高いほど、様々な要素が入りやすい。全体的に見れば、20 代女性どうしの会話に多く現れ、しかも、「～と、なんか」は年上の 60 代女性との会話に現れていない。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【3】文間の「なんか」

文間では、【会話 3】には、【会話 4】よりやや多い文形式が現れている。挿入要素については、【会話 3】に「なんか」前後に相手による相槌「おー」、「はい」が現れている。

文間という位置では、独立性が高い文の間であるため、様々な要素が入りやすい。20 代女性どうしの【会話 3】にやや多く現れていることから、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

7.2.2.2　談話的な「なんか」

[表 23]から、【会話 3】と【会話 4】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「なんか」は、【会話 3】の方に相対的に多く現れている。

【1】主題直後の「なんか」

主題直後では、【会話 3】での出現頻度が【会話 4】よりやや高い。

前述により、主題直後という位置は、統語的には句間であり、その直前の名詞句は独立性が低いように見えるが、意味的には主題提示機能を有しているため、独立性が高いのではないかと考えられる。また、音声的にも、主題にはプロミネンスが置かれることがある。それゆえ、談話的にも主題部分は焦点化されていると言えよう。20 代の女性どうしの【会話 3】に多く現れている。このことから、20 代の話者は、主題を発話することによって、発話権を獲得する。そして、その後、その発話権を保持するために、「なんか」を多く使っている。それゆえ、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【2】質問直後の「なんか」

質問直後では、話者の質問直後には、20 代女性どうしの【会話 3】にしか現れていない。相手の質問直後には【会話 3】と【会話 4】の両方に現れていない。

質問直後の「なんか」は、【会話 3】と【会話 4】に現れる頻度の差はわずかであるため、「なんか」は待遇性があるか否かは言い難い。

【3】肯定直後の「なんか」

肯定直後では、話者の肯定直後の「なんか」は、【会話 3】と【会話 4】の両方とも現れている。また、相手の肯定直後の「なんか」は、20 代女性どうしの【会話 3】にしか現れていない。差があまり見られないため、「なんか」は待遇性があるとは言い難い。

【4】否定直後の「なんか」

否定直後では、【会話 3】と【会話 4】の両方に現れる頻度は同じである。そのため、「なんか」の待遇性があるか否かは言えない。

【5】思索直後の「なんか」

思索直後では、話者の思索直後の「なんか」は、会話の両方に現れていない。相手の思索直後は【会話 3】にしか現れていないが、差があまり見られないため、「なんか」は待遇性があるか否かは言い難い。

7.2.3　【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の比較と分析

本節では、【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「なんか」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 3】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうし YF3 と YF4 の会話である。【会話 5】は、「初対面会話」の 20 代の女性 YF4 と 60 代の女性 OF1 の会話である。

第 6 章の「なんか」の記述により、【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を、次の[表 24]で示す。

[表 24]【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 3】					【会話 5】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「なんか」直前	「なんか」直後	相槌			「なんか」直前	「なんか」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー	◎	ー	あのー	あー	ー
			名詞+格助詞、なんか～	○	ー	すごい	ー	ー	○	ー	あのー	はい	はい
			名詞+助詞、なんか～	○	ー	ー	うん	ー	×	ー	ー	ー	ー
			指示詞、なんか～	○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
			接続詞、なんか～	●	ー	ー	ー	うん	×	ー	ー	ー	ー
			副詞、なんか～	◎	ー	あのー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			感嘆詞、なんか～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			フィラー、なんか～	◎	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
			連体詞、なんか～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	なんていうかな	はい	ー
			っていう、なんか	○	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、なんか～	◎	ー	ー	うん		○	ー	ー	うん	ー
			～て、なんか～	○	ー	ー	ー	はい	×	ー	ー	ー	ー
			～から、なんか～	○	ー	ー	はい	ー	○	ー	ー	ー	ー
			～ので、なんか～	○	ー	ー	ー	あ	×	ー	ー	ー	ー
	文間		～ですよね、なんか～	◎	ー	あのー	あ、うん	ー	◎	ー	え	あー	ー
			すみません、なんか～	○	ー	<笑>	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	はい	ー
	質問直後	話者	なんか～	○	ー	ー	ー	はい	○	ー	ー	ー	ー
		相手		○	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	●	ー	ー	うん	うん	●	ー	ー	うんはいんー	ー
		相手		◎	ー	ー	ー	うん	×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや、なんか～	×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	○	ー	あのー	うん	ー	○	んー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー	×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

次は、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて比較、分析していく。

7.2.3.1　統語的な「なんか」

[表 24]から、【会話 3】と【会話 5】における話者 YF4 の発話に現れる統語的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

統語的な「なんか」は、【会話 3】の方に相対的に多く現れている。

【1】句間の「なんか」

句間では、20 代どうしの【会話 3】の方に文形式がやや多く現れている。その中で、とりわけ、「接続詞、なんか～」の文形式は年上の 60 代女性との【会話 5】より多く現れている。挿入要素については、【会話 3】には、「なんか」の直後に話者 YF4 による副詞「すごい」、フィラー「あのー」が挿入されている。又、「なんか」の前後に相手による相槌「うん」が現れている。【会話 5】には、「なんか」の直後に話者 YF4 によるフィラー「あのー」「なんていうかな」が現れている。また、「なんか」の前後に相手による相槌「はい」「あー」が現れている。

句間という位置では、句は文中における独立性の度合いが低いと考えられるため、句の直後に「ま(ー)」が現れることは少ないと言える。しかし、20 代女性どうしの【会話 3】には「なんか」がより多く現れている。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【2】節間の「なんか」

節間では、20 代どうしの【会話 3】の方に多く現れている。その中で、「～て、なんか～」「～ので、なんか～」の文形式が【会話 3】に現れているが、【会話 5】には現れていない。挿入要素については、【会話 3】には、「なんか」の前後に相手による相槌「はい」「うん」「あ」が現れている。【会話 5】には、「なんか」の前に相手による相槌「はい」しか現れていない。

前述により、節間では、従属節の独立性が高いほど、様々な要素が入りやすい。独立性が高い「～けど」「～て」は【会話 3】に多く現れている。やや高い「～から」「～ので」も【会話 3】に多く現れている。すなわち、従属節の独立性に関わらず、「なんか」は 20 代女性どうしの【会話 3】に出現頻度が高い。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【3】文間の「なんか」

文間では、「～ですよね、なんか～」という文形式が【会話 3】と【会話 5】の両方によく現れている。「すみません、なんか～」という分形式は【会話 3】にしか現れていない。挿入要素については、【会話 3】には、「なんか」の直後に話者によるフィラー「あのー」「笑」

が現れている。また、「なんか」の前に、相手による相槌「あ」「うん」が現れている。

文間という位置では、独立性が高い文の間であるため、様々な要素が入りやすいと考える。20 代女性どうしの【会話 3】にやや多く現れているが、頻度の差がわずかであるため、「なんか」は待遇性があるか否かは言いがたい。

7.2.3.2　談話的な「なんか」

[表 24]から、【会話 1】と【会話 2】における話者 YF2 の発話に現れる談話的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「なんか」は、【会話 3】の方に相対的に多く現れている。

【1】主題直後の「なんか」

主題直後では、年上の 60 代の女性との【会話 5】に現れているが、20 代女性どうしの【会話 3】には現れていない。わずかな差のため、「なんか」は待遇性があるか否かは言いがたいであろう。

【2】質問直後の「なんか」

質問直後では、話者の質問直後、相手の質問直後は【会話 3】と【会話 5】での出現頻度の差が見られないため、「なんか」は待遇性がないと言えよう。

【3】肯定直後の「なんか」

肯定直後では、話者の肯定直後の「なんか」は、【会話 3】と【会話 5】での出現頻度の差が見られない。相手の肯定直後は 20 代女性どうしの【会話 3】に多く現れている一方、年上の 60 代女性との【会話 5】には現れていない。挿入要素については、【会話 3】には、「なんか」の前後に相手による相槌「うん」が多く現れている。【会話 5】には、「なんか」の前に、相手による相槌「うん」「はい」「んー」が現れている。

相手の肯定直後の「なんか」は、相手の応答「はい」「うん」「そうですね」の直後に、話者は直接「なんか」で発話すると考える。20 代の話者 YF4 は、20 の女性に対して、遠慮せず、「なんか」で発話権を獲得する。しかし、60 代の女性に対して、この環境の「なんか」を使っていない。従って、「なんか」は待遇レベルが低いと言えよう。

【4】否定直後の「なんか」

否定直後では、話者の否定直後、相手の否定直後は会話の両方に差が見られないため、「なんか」は待遇性がないと言えよう。

【5】思索直後の「なんか」

思索直後では、話者の思索直後、相手の思索直後の会話の両方に差が見られないため、「な

んか」は待遇性がないと言えよう。

7.2.4　【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の比較

本節では、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 6】は、「知り合い会話」の 20 代の女性 YF5 と 30 代の女性 YF6 の会話である。【会話 7】は、「知り合い会話」の 20 代の女性 YF5 と 60 代の女性 OF2 の会話である。

第 6 章の「なんか」の記述により、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 25]で示す。

[表 25]【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 6】					【会話 7】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「なんか」直前	「なんか」直後	相槌			「なんか」直前	「なんか」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	あ、そうなんだ、伝統、文化、えー	－	－
			代名詞、なんか～	○	－	－	－	－	×	－	－	－	－
			形容詞、なんか～	○	－	－	－	－	×	－	－	－	－
			接続詞、なんか～	×	－	－	－	－	◎	こう、ちょっと、なんか	－	－	－
			副詞、なんか～	○	－	こう	－	－	×	－	－	－	－
			感嘆詞、なんか～	○	－	－	－	－	○	ないでね、なんてうすんか	－	－	－
			連体詞、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
			フィラー、なんか～	○	－	－	－	－	○	なんか	－	－	－
	節間		～けど、なんか～	○	－	－	うん	－	○	－	－	－	－
			～て、なんか～	×	－	－	－	－	◎	－	－	うんー	－
	文間		～ます、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	なんか	－	－
			～いいね、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
			～っていうのが、なんか～	○	－	－	<笑>	－	×	－	－	－	－
			～と、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	質問直後	話者	なんか～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	◎	－	こう、やっぱ、あの	へー	－	×	－	－	－	－
		相手		○	－	で	－	－	×	－	－	－	－
	否定直後	話者	いや、なんか～	○	－	－	－	－	×	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	思索直後	話者	～、なんか～	○	－	あの	－	－	×	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　－:挿入要素現れない

次は、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて比較、分析していく。

7.2.4.1　統語的な「なんか」

[表 25]から、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる統語的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

統語的な「なんか」は、年上の 60 代の女性との【会話 6】の方に相対的に多く現れている。

【1】句間の「なんか」

句間では、「感嘆詞、なんか～」「フィラー、なんか～」の文形式が【会話 6】と【会話 7】両方ともに現れ、しかも差が見られない。「名詞、なんか～」「接続詞、なんか～」「連体詞、なんか～」の文形式が【会話 7】に現れているが、【会話 6】に現れていない。その中で、「接続詞、なんか～」の出現頻度が高い。また、「代名詞、なんか～」「形容詞、なんか～」「副詞、なんか～」の文形式が【会話 6】に現れているが、出現頻度が低い。挿入要素については、【会話 6】には、「なんか」の直後に話者によるフィラー「こう」しか現れていない。【会話 7】には、「なんか」の直前に話者 YF5 による副詞「ちょっと」、フィラー「こう」「なんていうんですかね」「なんか」が現れている。また、「なんか」の前に、相手による相槌機能をする「あ、そうなんだ」「伝統文化、えー」が現れている。

「知り合い会話」の【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の句間の「なんか」は、前述の「初対面会話」の句間の「なんか」と違い、年上の 60 代女性との【会話 7】にやや多く現れている。前述により、「なんか」は「初対面会話」に待遇レベルが低いと検証したが、「知り合い会話」に年上の相手に多く現れることは、相手が年上だが、知り合いなので、待遇レベルが低い「なんか」を多用するのであろう。

【2】節間の「なんか」

節間では、「～けど、なんか～」の文形式は【会話 6】と【会話 7】での頻度の差が見られない。「～て、なんか～」の文形式が【会話 6】に現れていないが、【会話 7】に多く現れている。すなわち、年上の 60 代女性との会話に多く現れている。挿入要素については、【会話 6】には、「なんか」の前に相手による相槌「うん」が現れている。【会話 7】には、「なんか」の前に、相手による相槌「うん」「んー」が現れている。

「知り合い会話」の【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の節間の「なんか」も、前述の「初対面会話」の節間の「なんか」と違い、年上の 60 代女性との【会話 7】に多く現れている。これは、「知り合い会話」には相手が年上だが、知り合いなので、待遇レベルが低い「なんか」を多用するのであろう。

【3】文間の「なんか」

文間では、年上の 60 代女性との【会話 7】に「なんか」が多く現れている。挿入要素については、【会話 6】には、「なんか」の前に相手による相槌機能をする「笑」が現れている。【会話 7】には、「なんか」直後に話者によるフィラー「なんか」が現れている。

文間の「なんか」も年上の 60 代女性との【会話 7】に多く現れることは、前の句間、節間と同じく、相手は年上だが、親しい知り合い関係なので、独立性が低い「なんか」を多用するのであろう。

7.2.4.2　談話的な「なんか」

[表 25]から、【会話 6】と【会話 7】における話者 YF5 の発話に現れる談話的な「なんか」の分類と出現頻度をまとめると、次のようになる。

談話的な「なんか」は、【会話 6】に現れているが、【会話 7】には現れていない。

【1】主題直後の「なんか」

主題直後では、【会話 6】と【会話 7】の両方とも現れていない。

【2】質問直後の「なんか」

質問直後では、【会話 6】と【会話 7】の両方とも現れていない。

【3】肯定直後の「なんか」

肯定直後では、話者の肯定直後と相手の肯定直後は【会話 6】に現れているが、【会話 7】に現れていない。しかも、【会話 6】の話者の肯定直後の「なんか」の出現頻度の差が高い。挿入要素については、【会話 6】には、「なんか」の直後に話者 YF5 による副詞「やっぱ」、フィラー「こう、あの」が現れている。

【4】否定直後の「なんか」

否定直後では、相手の否定直後には【会話 6】と【会話 7】の両方に現れていない。話者の否定直後には、同世代の女性どうしの【会話 6】にしか現れておらず、差はわずかである。

【5】思索直後の「なんか」

思索直後では、相手の思索直後は【会話 6】と【会話 7】の両方に現れていないため、差が見られない。話者の思索直後は、【会話 6】にしか現れていない。しかし、差はわずかである。

「知り合い会話」の【会話 6】と【会話 7】の談話的な「なんか」は、「初対面会話」の結果と同じように、同世代の相手に多く使われることから、「なんか」は待遇性が低いと言えよう。

7.3　デフォルトデータによる検証

本節では、デフォルトデータとしての【会話 8】における話者 YF7 の「ま(ー)」と「なんか」を分析し、4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 の「ま(ー)」と「なんか」による分析結果をさらに検証する。

本論文では、フィラーに待遇性があるか否かのを究明する目的であるため、初対面、知り合い、同性、同世代、異世代などの条件を設定し、【会話 1】～【会話 7】のデータを収集した。それに対して、本節のデータは、このような条件にかかわらないデータである。【会話 8】は、20 代の女性どうし、親しい友達関係の話者 YF7 と YF8 の会話で、これをデフォルトデータとする。

7.3.1　【会話 8】における「ま(ー)」と「なんか」の記述

本節では、【会話 8】における YF7 の発話に現れる「ま(ー)」と「なんか」の例を記述する。

7.3.1.1　【会話 8】における話者 YF7 の「ま(ー)」

本節では、【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れる「ま(ー)」の例を記述する。

【会話 8】は、親しい友達関係の 20 代の女性どうし、YF7 と YF8 の会話である。

7.3.1.1.1　統語的な「ま(ー)」

【会話 8】には、話者 YF7 の発話に、句間、節間の「ま(ー)」が観察された。

【1】句間の「ま(ー)」

(272) 08337YF7 ガキかなと思って、いや、自分もガキなんやけどね、(あ)自分よりもガキな人を見ると、自分の中で、(あああ)判断して、あ、こいつ自分よりガキや、自分の価値観の中でね、（おー）もちろん、自分もガキやけ、井の中のかわずなんだけど、あ、そのー

08338YF8 〈笑〉いろいろかわず

08339YF7 うん、なんだけど、(うん)その、えー、まー、自分、まー、棚にあげて、そういうことね、取り上げて、棚にあげて

08340YF8 棚にあげて

(272)は、名詞「自分」の直後に「ま(ー)」が現れている。「自分」は名詞句であるので、名詞句の直後にフィラー「ま(ー)」が来ていることになる。話者 YF7 は、「自分もガキ」が、「自分」のことを「棚にあげて」という意見を言う前に、「ま(ー)」を使っている。

(273) 08391YF7 本当それ、いるんだろうと思うけど、(うん)まー、たぶん、私は思うに、ま、年上の方は、そういう人多いかなみたいな

08392YF8 はー

08393YF7 だから、まー、年上の方がいいのかもねっていう、その当たる可能性が高いっていう

(273)は、接続詞の「だから」の直後にフィラー「ま(ー)」が現れている。すなわち、接続詞句の直後の「ま(ー)」の例である。話者 YF7 は、前の話を続けて、まず「だから」を発している。そして、「年上の方がいいのかもねっていう」という自分の考えを述べる前に、「ま(ー)」を使っている。

(274) 08410YF8 おー、え、2 人の内のは、こっちの方でしょ?

08411YF7 ああ、ごめん、違う

08412YF8 ではなくて?

08413YF7 あのー、ん、あのー、まー

08414YF8 あー、英国紳士か、はー

(274)では、フィラー「あのー」の直後に「ま(ー)」が現れている。すなわち、連続するフィラーの直後の「ま(ー)」の例である。話者 YF7 は、前の話を続けて話したいものの、まだ思索している最中に、相手の YF8 に割り込まれている。

【2】節間の「ま(ー)」

(275) 08398YF8 同年代はガキやなと思う?

08399YF7 あ、いや、人によるけど、(うん)ま、○○、うん、○○、(<笑>)○○さんね、(うん)ガキやわと思う

(275)は、接続助詞「けど」の後ろに「ま(ー)」が現れている、すなわち、節間の「ま(ー)」の例である。話者 YF7 は、「人によるけど」を発した後に、ガキだと思っている人の名前をあげる前に、「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(276) 08376YF8 えー、人生観という、もし付き合うとしたら

08377YF7 ああ、でも、そう思ったら、まー、やっぱ、年上の方がいいんかねえ

(276)は、接続助詞「たら」の後ろに「ま(ー)」が現れている、すなわち、節間の「ま(ー)」の例である。話者 YF7 は、「そう思ったら」を発した後に、「年上の方がいいんかねえ」という自分の考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の直後に副詞の「やっ

ぱ」が現れている。

7.3.1.1.2　談話的な「ま(ー)」

【1】相手の質問直後の「ま(ー)」

(277) 08426YF8 〈笑〉え、そういうのいやじゃないの?
08427YF7 面倒くさい
08428YF8 えー、面倒くさいけど、付き合うんやね?
08429YF7 まーね、(いやー)しようがないわ、人間として、私、そこは、妥協するべき〈2 人笑〉

(277)は、相手の質問「面倒くさいけど、付き合うんやね?」の直後に、「ま(ー)」が現れている。すなわち、相手の質問直後の例である。話者 YF7 は、相手の質問の後に、「しようがないわ、人間として、私、そこは、妥協するべき」という自分の意見を述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の後ろに、相手の「いやー」が入っている。

【2】話者の肯定直後の「ま(ー)」

(278) 08331YF7 うん、排除したいよね
08332YF8 したいよね、〈笑〉怖いな、言い方が
08333YF7 そうそう、うん(えー)、まー、しようがないよね
08334YF8 言い方

(278)は、話者の肯定応答表現の「そうそう、うん」の後ろに「ま(ー)」が現れている。すなわち話者の肯定直後の「ま(ー)」の例である。話者 YF7 は、前の話を続けて、「しようがないよね」という自分の考えを述べる前に「ま(ー)」を使っている。「ま(ー)」の前には、相手の驚き表現「えー」が入っている。

【3】話者の否定直後の「ま(ー)」

(279) 08413YF7 あのー、ん、あのー、まー
08414YF8 あー、英国紳士か、はー
08415YF7 いや、まー、内 2 人に関しては、そのー、どうでもいいじゃん、正直そういうことは、(うん)可愛い、可愛くないっていう、議論にはあがるけど

(279)は、話者の否定応答表現「いや」の直後に「ま(ー)」が現れている。すなわち、話者の否定直後の「ま(ー)」の例である。話者 YF7 は、前の話について、さらに「内 2 人に関しては」と自分の意見を述べる前に、「ま(ー)」を使っている。

7.3.1.1.3　まとめ

【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れる「ま(ー)」の分類および出現頻度を次の[表 26]で示す。

[表 26]【会話 8】における話者 YF7 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 8】				
				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」の直前	「ま(ー)」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		名詞、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
			接続詞、ま(ー)～	◎	ー	ー	ー	ー
			フィラー、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
	節間		～けど、ま(ー)～	○	ー	たぶん	うん	ー
			～たら、ま(ー)～	○	ー	やっぱ	ー	ー
	文間		～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		○	ー	ー	ー	いやー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	○	ー	ー	えー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、ま(ー)～	○	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 26]を見ると、統語的な「ま(ー)」は相対的に多く現れたが、文間の「ま(ー)」が現れなかったことが分かる。、その内、接続詞句間の「ま(ー)」の例が最も多かった。また、談話的な「ま(ー)」に相手の質問直後、話者の肯定直後、話者の否定直後の「ま(ー)」の例が現れたが、出現頻度が低かった。

7.3.1.2　【会話 8】における話者 YF7 の「なんか」

本節では、【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れる「なんか」の例を記述する。

【会話 8】は、親しい友達関係の 20 代の女性どうし、YF7 と YF8 の会話である。

7.3.1.2.1　統語的な「なんか」

【会話 8】には、話者 YF7 の発話に、句間、節間、文間の「なんか」が観察された。

【1】句間の「なんか」

(280) 08382YF8 あー、そうね

08383YF7 うん、(あー)じゃけえ、まー、年上の方がいいっていうより、年上の人の方が(うん)、なんか、そういう人の方が多いかなみたいな、(あー)年下でもそういう、なんていうの、(うん)概念を持っている人いるけど

(280)には、名詞「年上の人の方」と格助詞「が」が現れている。「年上の人の方が」は名詞句であるので、名詞句の後ろにフィラー「なんか」が来ていることになる。すなわち、句間の「なんか」の例である。話者 YF7 は、前の話「年上の人の方」について、自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の相槌「うん」が入っている。

(281) 08046YF8 もう、生徒がくそだから(<笑>)

08047YF7 いや、絶対、なんか、平成 10 年当初から、くそだと思っとった、<2 人笑>お前、どんな自慢な仕方

(281)では、副詞「絶対」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、副詞句の直後の「なんか」の例である。話者 YF7 は、相手の発話に対して、「いや」で否定して、「絶対」を発した後に、「平成 10 年当初から、くそだと思っとった」という自分の考えを述べる前に「なんか」を使っている。

(282) 08288YF8 それがいいとなるかもしれん

08289YF7 えー、なんか、んー

08290YF8 わー、すごい程度、(<笑>)あ、だめ、なんか

(282)では、フィラー「えー」の直後に「なんか」が現れている。すなわち、フィラーの直後の「なんか」の例である。話者 YF7 は、話の内容をまだ思索している最中に、相手に割り込まれた。「なんか」の直後に、フィラー「んー」が現れている。

【2】節間の「なんか」

(283) 08183YF7 いや、あのね、顔もあるよ、顔もあるけど、なんかね、雰囲気というかね、可愛い雰囲気

08184YF8 ほらもう、それ分からん

(283)では、接続助詞「けど」の直後に「なんか」が現れている、すなわち、節間の「なんか」の例である。「なんか」の直後に終助詞「ね」が付いている。話者 YF7 は、前の話の続きに、「雰囲気というか」を言う前に、「なんか」を使っている。

(284) 08444YF8 ふーん、邪魔?

08445YF7 邪魔って言うかさ、私の時間も奪うしさ、(うん)あからさまにこう言っても、なんか、感じやすさ

(284)では、接続助詞「ても」の後ろに「なんか」が現れている、すなわち、節間の「なんか」の例である。話者 YF7 は、前の話の続きに、「感じやすさ」という自分の考えを述べる前に、「なんか」を使っている。

(285) 08512YF8 そう?

08513YF7 それについて、いちいち説明するさ、なんでそんなことに興味あるかなと思って、(<笑>)なんか、別にさ、本人同士以外どうでもよくねって、思ってさ、面倒くさいよね、(うん)その、その一、人の恋とか、ぜんぜん興味ないのよね

(285)は、接続助詞「て」の後ろに「なんか」が現れている、すなわち、節間の「なんか」の例である。話者 YF7 は、前の話の続きに、「別にさ、本人同士以外どうでもよくねって」という自分の意見を述べる前に、「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の「<笑>」が入っている。

(286) 08010YF8 なんか、もう、何だろう

08011YF7 一瞬気づかんじゃん(うん)、したらさ、なんか、先生のデスクトップがさ、出とんかったと思った、なんか、パラちゃんみたい<2 人笑>

(286)は、接続助詞「たら」の後ろに「なんか」が現れている、すなわち、節間の「なんか」の例である。話者 YF7 は、前の話の続きに、「先生のデスクトップがさ、出とんかったと思った」という自分の考えを述べる前に、「なんか」を使っている。

【3】文間の「なんか」

(287) 08010YF8 なんか、もう、何だろう

08011YF7 一瞬気づかんじゃん(うん)、したらさ、なんか、先生のデスクトップがさ、出とんかったと思った、なんか、パラちゃんみたい<2 人笑>

(287)は、文「先生のデスクトップがさ、出とんかったと思った」の直後に「なんか」が現れている、すなわち、文間の「なんか」の例である。話者 YF7 は、前の話の続きに、「パラちゃんみたい」という自分の考えを述べる前に、「なんか」を使っている。

(288) 08104YF8 それも笑いながらね、平然と言ってのける感じがいい

08105YF7 いいよね、(うん)なんか、ナチュラルさがほしいよね

(288)は、文「いいよね」の直後に「なんか」が現れている、すなわち、文間の「なんか」の例である。話者 YF7 は、「いいよね」を発した後に、「ナチュラルさがほしいよね」という自分の考えを述べる前に、「なんか」を使っている。「なんか」の前には、相手の相槌「うん」が入っている。

(289) 08476YF8 なぜいるのか

08477YF7 ねー、私、人生最大の謎なんよね(<笑>)なんか、ねー、別に、で、向こうさ、(うん)、なぜ、なぜ来るみたいなね

(289)では、文「私、人生最大の謎なんよね」の直後に「なんか」が現れている、すなわち、文間の「なんか」の例である。話者 YF7 は、前の話の続きに、「ねー、別に、で、向こうさ」を述べる前に、「なんか」を使っている。「なんか」の前に、相手の「<笑>」が入っている。

7.3.1.2.2 談話的な「なんか」

【会話 8】には、話者 YF7 の発話に、主題直後、相手質問直後、話者肯定直後、の「なんか」が観察された。

【1】主題直後の「なんか」

(290) 08380YF8 社会をこう知っているみたいな、そういう意味?

08381YF7 あ、そうだけど、年上の方は、なんか、なんだろう、んー、でも、まー、自分は、その自分よりこの人の方が、大人なんだっていう認識があるじゃん

(290)では、主題提示機能を持つ助詞「は」の直後に「ま(ー)」が現れている。すなわち、主題直後の「なんか」の例である。話者 YF7 は、「自分は、その自分よりこの人の方が、大人なんだっていう認識があるじゃん」を述べる前に「なんか」を使っている。「なんか」の直後に、フィラー「なんだろう」「んー」「まー」が入り、接続詞「でも」が入っている。

【2】相手の質問直後の「なんか」

(291) 08291YF7 あ、どうも変だよね、ガキな人あまり好きじゃないんよ
08292YF8 分からん、そう、ガキの基準に?
08293YF7 なんか、そんなこと、どうでもよくないことで、熱くなる人が面倒くさい

(291)では、相手の質問「ガキの基準に?」の直後に、「なんか」が現れている、すなわち、相手の質問直後の例である。話者 YF7 は、相手の質問の後に、「そんなこと、どうでもよくないことで」という自分の意見を述べる前に「なんか」を使っている。

【3】話者の肯定直後の「なんか」

(292) 08030YF8 あ、みんな、そんなリアクションとらんよね
08031YF7 あ、そうやそうや、なんかさ、違うやで、そう、なんか、なんだろうね、前にできくけんかな

(292)では、話者の肯定応答表現「そうやそうや」の直後に「なんか」が現れている、すなわち、話者の肯定直後の「なんか」の例である。話者 YF7 は、相手の意見に応答してから、「違うやで」という自分の意見を述べる前に、「なんか」を使っている。

7.3.1.2.3 まとめ

【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れる「なんか」の分類および出現頻度を次の[表 27]で示す

[表 27] 【会話 8】における話者 YF7 の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 8】				
				頻度	挿入要素			
					「なんか」の直前	「なんか」の直後	相槌	
							前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞+格助詞、なんか～	○	ー	いや	うん	ー
			副詞、なんか～	◎	ー	ー	ー	ー
			フィラー、なんか～	◎	ー	んー	ー	うん
	節間		～けど、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			～て、なんか～	○	ー	ー	<笑>	ー
			～たら、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			～ても、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
	文間		～よね、なんか～	○	ー	ねー	うん、<笑>	ー
			～た、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
			～というか、なんか～	○	ー	あ	ー	ー
			～面倒くさいやん、なんか～	○	ー	ー	ー	ー
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	○	ー	なんだろう	ー	ー
	質問直後	話者	なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		◎	ー	ー	ー	ー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	●	ー	なんだろうね、あ	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	否定直後	話者	いや(じゃない)、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー
	思索直後	話者	～、なんか～	×	ー	ー	ー	ー
		相手		×	ー	ー	ー	ー

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　ー:挿入要素現れない

[表 27]を見ると、【会話 8】では、統語的な「なんか」が相対的に多く現れた。その内、句間の「なんか」では、「副詞、なんか～」、「フィラー、なんか～」の文形式が多かった。節間、文間の「なんか」では、多い文形式が現れた。また、談話的な「なんか」では、主題直後、相手の質問直後、話者の肯定直後の例が現れた。その内、話者の肯定直後、相手の質問直後の「なんか」は出現頻度が高かった。

7.3.2　【会話 8】による「ま(ー)」と「なんか」の検証

本節では、【会話 1】における話者 YF2、【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れた「ま(ー)」と「なんか」の出現位置および出現頻度を比較しながら、検証していく。

【会話 1】は、「初対面会話」の 20 代の女性どうしの YF1 と YF2 の会話である。【会話 8】は、親しい友達の 20 代女性どうしの YF7 と YF8 の会話である。

前節の【会話 8】における話者 YF7 の発話の「ま(ー)」と「なんか」のまとめにより、「ま(ー)」は相対的に少なく現れた、「なんか」は相対的に多く現れた。この結果は 4 人の話者 YF2、YF3、YF4、YF5 の同世代の相手との会話の結果と一致している。

7.3.2.1 「ま(ー)」の検証

本節では、【会話 1】における話者 YF2 と、デフォルトデータの【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れた「ま(ー)」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れた「ま(ー)」、【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れた「ま(ー)」の分類および出現頻度を、次の[表 28]で示す。

[表 28] 【会話 1】における話者 YF2、【会話 8】における話者 YF7 の「ま(ー)」の分類および出現頻度

分類				【会話 1】					【会話 8】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌			「ま(ー)」直前	「ま(ー)」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「ま(ー)」	句間		名詞、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
			副詞、ま(ー)～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
			接続詞、ま(ー)～	◎	−	−	−	−	◎	−	−	−	−
			フィラー、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
	節間		～けど、ま(ー)～	◎	−	−	うん	−	○	−	たぶん	うん	−
			～て、ま(ー)～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
			～し、ま(ー)～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
			～たら、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	やっぱ	−	−
	文間		～たりとか、ま(ー)～	○	−	−	うん	−	×	−	−	−	−
談話的な「ま(ー)」	主題直後		～は(も)、ま(ー)～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	質問直後	話者	ま(ー)～	×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
		相手		×	−	−	−	−	○	−	−	−	いやー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	えー	−
		相手		×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	否定直後	話者	いや、ま(ー)～	×	−	−	−	−	○	−	−	−	−
		相手		×	−	−	−	−	×	−	−	−	−
	思索直後	話者	～、ま(ー)～	○	−	−	−	−	×	−	−	−	−
		相手		×	−	−	−	−	×	−	−	−	−

凡例 ●:もっとも現れやすい ◎:現れやすい ○:現れる ×:現れない −:挿入要素現れない

次に、統語的な「ま(ー)」と談話的な「ま(ー)」に分けて比較、分析していく。

【1】統語的な「ま(ー)」

[表 28]から、【会話 1】の話者 YF2、【会話 8】の話者 YF7 の統語的な「ま(ー)」の内には、句間、節間は文形式が多く、出現頻度も高い。しかも、文形式「接続詞、ま(ー)～」の出現頻度が両方とも高い。文間では、【会話 1】には、文形式「～たら、ま(ー)～」しか現れず、【会話 8】には現れなかった。すなわち、文間の「ま(ー)」は両方とも出現頻度が低い。

【2】談話的な「ま(ー)」

[表 28]から、【会話 1】の話者 YF2、【会話 8】の話者 YF7 の談話的な「ま(ー)」は、全体的に出現頻度が低い。両方の「ま(ー)」の出現位置は違うが、出現頻度は低く、差があまり見られなかった。

7.3.2.2　「なんか」の検証

本節では、【会話 1】における話者 YF2 と、デフォルトデータの【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れた「なんか」の分布と出現頻度を比較、分析する。

【会話 1】における話者 YF2 の発話に現れる「なんか」、【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れた「なんか」の分類および出現頻度を、次の[表 29]で示す。

[表 29]　【会話 1】における話者 YF2、【会話 8】における話者 YF7
の「なんか」の分類および出現頻度

分類				【会話 1】					【会話 8】				
				頻度	挿入要素				頻度	挿入要素			
					「なんか」直前	「なんか」直後	相槌			「なんか」直前	「なんか」直後	相槌	
							前	後				前	後
統語的な「なんか」	句間		名詞+格助詞、なんか～	○	－	－	－	－	○	－	いや	うん	－
			副詞、なんか～	○	－	－	<笑>	－	◎	－	－	－	－
			接続詞、なんか～	○	－	－	－	－	×	－	－	－	－
			フィラー、なんか～	○	－	－	－	－	◎	－	んー	－	うん
	節間		～けど、なんか～	◎	－	－	うんんー	－	○	－	－	－	－
			～て、なんか～	○	<笑>	－	へー	－	○	－	－	<笑>	－
			～し、なんか～	○	－	－	うん	－	×	－	－	－	－
			～ても、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
			～たら、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
	文間		～ます、なんか～	○	－	－	－	－	×	－	－	－	－
			～ですね、なんか～	○	－	－	うん	－	×	－	－	－	－
			～ですよ、なんか～	○	－	－	うん	－	×	－	－	－	－
			～よね、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	ねー	うん<笑>	－
			～た、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
			～というか、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	あ	－	－
			～面倒くさいやん、なんか～	×	－	－	－	－	○	－	－	－	－
談話的な「なんか」	主題直後		～は(も)、なんか～	○	－	－	－	－	○	－	なんだろう	－	－
	質問直後	話者	なんか～	×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
		相手		○	－	－	－	－	◎	－	－	－	いやー
	肯定直後	話者	「はい」「うん」「そうですね」、なんか～	○	－	－	へー	－	●	－	なんだろね、あ	－	－
		相手		○	－	で	－	－	×	－	－	－	－
	否定直後	話者	いや、なんか～	○	－	－	－	－	×	－	－	－	－
		相手		×	－	－	－	－	×	－	－	－	－
	思案直後	話者	～、なんか～	○	－	－	－	えー	×	－	－	－	－
		相手		○	－	－	－	－	×	－	－	－	－

凡例　●:もっとも現れやすい　◎:現れやすい　○:現れる　×:現れない　－:挿入要素現れない

次に、統語的な「なんか」と談話的な「なんか」に分けて比較、分析していく。

【1】統語的な「なんか」

[表 29]から、【会話 1】の話者 YF2、【会話 8】の話者 YF7 の統語的な「なんか」では、句間、節間、文間いずれも文形式が多く、相対的に出現頻度も高い。その内、文間の「なんか」の出現位置は異なるが、出現頻度の差はほとんどない。

【2】談話的な「なんか」

[表 29]から、【会話 1】の話者 YF2、【会話 8】の話者 YF7 の談話的な「なんか」では、全体的に両方とも出現度が高いが、出現位置が異なる。【会話 8】では、主題直後、相手の質問直後、話者の肯定直後にしか現れていない、しかも、相手の質問直後、話者の肯定直後の出現頻度が高い。【会話 1】では、比較的多く現れている。

7.3.2.3　まとめ

デフォルトデータの【会話 8】における話者 YF7 の発話に現れる「ま(ー)」と「なんか」の検証の結果をまとめると、次のようになる。

親しい友達関係、20 代女性どうしの【会話 8】では、話者 YF7 の発話に「ま(ー)」は少なく現れ、「なんか」が多く現れた。この結果は、初対面で同世代の【会話 1】、【会話 3】、知り合いで同世代の【会話 6】における 20 代話者の発話に現れる「ま(ー)」と「なんか」の分析結果と一致している。すなわち、フィラー「ま(ー)」と「なんか」の待遇性は、親疎に関係なく、世代差だけに関わっていることが分かった。

7.3 は、2 つのフィラーの待遇性が世代以外の要因にも関わっているのではないか、という疑問に対して回答するために設けられたものである。しかし、以上の議論から、世代という要因のみに関わっていることがある程度証明されたことになる。言うまでもなくデータ量は少ないが、2 つの待遇性を追究する際には、まず世代差にアプローチしていくという方法論には間違いがないのではないかと主張できるだろう。

第 8 章　まとめ

「初対面会話」と「知り合い会話」のデータに基づき、4 人の 20 代話者の同世代と、異なる世代との会話に現れる「ま(ー)」と「なんか」について比較、分析した。その結果、フィラー「ま(ー)」と「なんか」に世代差による待遇性があることが判明した。また、デフォルトデータ【会話 8】によるフィラーの待遇性をさらに検証した。検証の結果、フィラー「ま(ー)」と「なんか」の待遇性は、親疎に関係なく、世代差のみに関わっていることが分かった。本章では、分析により得た結果をまとめる。

8.1 では、「ま(ー)」と「なんか」の待遇性に関する結果を述べる。8.2 では、同世代、異なる世代の会話で「ま(ー)」と「なんか」両方の出現頻度が高いところに注目し、考察する。その上で、統語的・談話的な観点から本論文の研究結果をまとめる。

8.1　待遇性

「初対面会話」における話者 YF2、YF3、YF4 は、全体的に、いずれも年上の 60 代の相手との会話に「ま(ー)」を多く使っている。しかし、同世代の相手との会話では、「ま(ー)」は少ない。また、「知り合い会話」における話者 YF5 は、年上の 60 代の相手との会話に「ま(ー)」を多用している。また、デフォルトデータの【会話 8】にも、同世代の相手に対して、「ま(ー)」は「なんか」より少ない。すなわち、「初対面会話」、「知り合い会話」に関わらず、「ま(ー)」は同世代に対する会話より、年上、あるいは目上の相手に対する会話に多く使われる。従って、「ま(ー)」は待遇レベルが高い、すなわち、フィラーの「ま(ー)」には待遇性がある。

「初対面会話」における話者 YF2、YF3、YF4 は、いずれも同世代の相手との会話に「なんか」を多く使っている。一方で、年上の 60 代の相手との会話にはあまり見られない。また、「知り合い会話」における話者 YF5 は、談話的な「なんか」を同世代の会話に多用している。統語的な「なんか」のみ年上の 60 代の相手との会話に多く使っている。また、デフォルトデータの【会話 8】にも、同世代の相手に対して、「なんか」は「ま(ー)」より多く現れた。このことから、全体的に「初対面会話」、「知り合い会話」に関わらず、「なんか」は年上、あるいは目上の相手に対する会話より、同世代に対する会話に多く使われる。従って、「なんか」は待遇レベルが低い、すなわち、フィラーの「なんか」には待遇性がある。

8.2　統語的・談話的な観点からのまとめ

本節では、「ま(ー)」と「なんか」がよく現れる位置および統語的・談話的な要因をまとめていく。

8.2.1　統語的な観点

統語的な「ま(ー)」と「なんか」においては、句間、節間の後ろに多く現れた。

句間のフィラーは、主に接続詞、フィラーの後ろに多く現れる場合が多い。句は独立性の度合いが低いと考えられるため、句の直後に「ま(ー)」と「なんか」のようなものが現れることは少ないと言える。しかし、本研究の分析結果から、句間の「ま(ー)」と「なんか」が多く現れている。

統語的には、句は独立性の度合いが低いと言えるが、本研究のデータは自然談話であるため、フィラーなど話し言葉の特徴である表現が多いと考えられる。フィラーの後ろに「ま(ー)」と「なんか」が多く現れるのは、発話者が心的操作を行っている最中に、場つなぎ機能があるフィラーの連続使用が多いと言える。接続詞の後ろに「ま(ー)」と「なんか」が多く現れるのは、事柄、あるいは話しの前後の文脈がつながる時、発話者が適切な表現を探すなど、心的操作を行う場合が多いと考える。

節間のフィラーは、主に接続助詞の「けど」、「て」、「し」などの後ろに多く現れる場合が多い。

節間という位置では、統語的な視点から見ると、従属節の独立性の度合いによって、様々な要素が入りやすい。「～けど」「～て」「～し」は独立性が高く（節というよりも文に近い）、それゆえ、その直後に様々な要素が入りやすい。

8.2.2　談話的な観点

談話的な「ま(ー)」と「なんか」においては、主題直後、話者肯定応答直後の後ろに多く現れた。

主題直後という位置は、統語的には句間であり、その直前の名詞句は独立性が低いように見えるが、意味的には主題提示機能を有しているため、独立性が高いのではないかと考えられる。また、音声的にも、主題にはプロミネンスが置かれることがある。それゆえ、談話的に主題部分は焦点化されていると言える。

「話者肯定直後」という位置では、話者が「はい」「うん」「そうですね」で相手の発話に肯定的に応答して、態度を表す。これらの応答詞は、談話的に発話権をとり、談話をうまく行う道具となっている。従って、発話者にとって有利な談話運営を行っていると考えられる。

このように考えると、前述の年上の世代に対して主題直後の「ま(ー)」の多用の場合も同様で、主題の焦点化はある名詞句の顕著な取り立てであるため、談話運営上も発話者に有利な立場をもたらすことになるのではなかろうか。発話者は談話上有利な立場に立つためには、相手よりも有利に談話運営を進めていかなければならない。その具体的なストラテジーが、主題の焦点化であり、長時間の発話権保持なのではないか。そして、これらは直後に来る「ま(ー)」と「なんか」によってさらに促進されていると考えられる。

第 9 章　今後の課題

本論文では、フィラーの「ま(ー)」と「なんか」の待遇性を談話レベルにおける分布から分析した。フィラーは一見無意味であると考えられがちであるが、本稿の分析結果によると、フィラーの「ま(ー)」と「なんか」は待遇性がある。すなわち、フィラーの「ま(ー)」と「なんか」は場つなぎ機能、談話標識機能以外に、待遇機能を有していることが判明した。しかし、問題点や今後の課題も多数残っている。

まず、フィラー「ま(ー)」と「なんか」は、親疎に関係なく、女性の世代差だけに待遇性があることが判明した。しかし、全体的に女性の知り合いどうし、親密どうしのデータが少ないため、今後は、会話調査のデータを増やして、さらに本研究の結果を検証する必要がある。

次に、本研究のフィラー「ま(ー)」と「なんか」の待遇研究は、女性の同世代、異なる世代の会話のみに基づいたものであるため、男性の同世代、異なる世代、また異性の間などの会話に基づき、さらに本論文の結果を検証する必要がある。

また、本論文で示したフィラーの待遇性を断定するには、「ま(ー)」と「なんか」以外のフィラーを観察、分析する必要がある。この問題を解決するためには、フィラーの種類を確定しなければならない。具体例を挙げると、(293)に見られるように、「えーと」「なんですかね」「どうですかね」などの形式以外に、「<笑>」も観察される。

(293) 01059YF1　えー、校長って、院に行かないと無理なんですか?
01060YF2　なんですかね、たぶん、院にいかないといけないことは、(うん)<笑>どうですかね、(うん)私は、校長先生にあまりなりたいとは思わないので、<笑>(うん)あまり分からないですけど、なんか、院に行くって、(えー)ぜんぜん勉強してないですけどね、<2 人笑>、あと 2 年あるから、いいわーみたい、<笑>言ってて、えーと、こんな、校長になるような感じの人ではないですね<笑>

「<笑>」のような言語行動がフィラーであるのか、そうであるとすると、どのように待遇差に反映されるのかなど、フィラーと待遇性との関係には大きな問題が存在している。

本論文では、「ま(ー)」と「なんか」の待遇性を検討していく際に、「ま(ー)」と「なんか」の前後に挿入される様々な要素について記述した。しかし、様々な挿入要素が現れる原因

については明確になっていない。「ま(ー)」と「なんか」だけではなく、他のフィラーの前後にも挿入要素が現れることが予測される。

さらに、理論的には、なぜ(293)のような現象が起こるのかという点については、現時点では明らかになっていない。おそらく談話運営の観点から説明できるのではないかと推測されるが、それを検証するためには、今後多くの談話データを収集して、それを綿密に分析する必要がある。

また、本論文では、統語論、談話論に基づき、フィラーの出現位置によって、「ま(ー)」と「なんか」を分類したが、次の 2 つの例は分類していない。

(294) 07239OF2 その時にも、あったよ、だって、私、初めてケンブリッジに行ったのに、あの、あの、研究館の雰囲気も初めて(うん)だし、イメージできないよね、行ったこともない、どういう風になるか、(うん)でしょう、(うん)でも、あの時、あっ、デジャブだった

07240YF5 えー、すごい

07241OF2 あ、ここで、こうして、私失敗を残したのは、私、ここにあるわって

07242YF5 えー、すごいですね

07243OF2 本当に、思った

07244YF5 なんか、デジャブの瞬間って、そんな感じですか?

07245OF2 うん、あっちゃみたいな、本当に、不意に来るよね

07246YF5 なんか、印象的な場面ですか?

07247OF2 うん、いや、もう、自分って#、(うん)あー、(うんうん)経験してる、経験してるって思う

本論文の「ま(ー)」と「なんか」の分類の中で、相手の発話直後に現れる項目には、相手の質問直後、相手の肯定直後、相手の否定直後、相手の思索直後がある。(294)の 2 つの「なんか」の例は、いずれも相手の発話の直後に現れる話者の発話冒頭の「なんか」である。しかし、本論文の基準によっては分類できない。もしかしたら、「ま(ー)」と「なんか」についての分類基準を考え直す必要があるのかもしれない。また、【会話 7】は異なる世代の知り合いどうしの会話である。この 2 つの例から、「知り合い会話」の 20 代の話者は「なんか」を使って発話権を取る傾向があると考えられるが、「なんか」の使用は相手の発話の音声的な面に関わる可能性も高いと予測できる。また、この予測を検証するためには、さらに会話調査を行い、分析する必要がある。

最後に、本論文では、統語的、談話的に分けて 2 つのフィラーを分析した。その上で、統語的、談話的な観点からフィラーの出現頻度、出現位置についてまとめた。しかし、統

語的要因と談話的要因が、どのように関係するのかについてはまだ解明していない。ただ、いずれの要因も“独立性”という概念で説明できるかもしれない。統語的要因は、句・節・文の相対的な独立性に支配されている。もしかすると、談話的要因である焦点化や発話権保持（有利な談話運営）も独立性と関係があるのかもしれない。そうだとすると、独立性という概念自体について考察を進める必要が出てくる。独立性とは何か、独立性が高い（低い）とはどういうことか、独立性はなぜ談話に必要なのか、独立性は言語にとってどのような役割を果たしているのか、このような様々な問題が考えられるが、この問題を解明するためには、フィラー以外の研究も必要になるだろう。現時点では、会話調査のデータを増やしつつ、フィラーの待遇性の問題にアプローチし続けるしかない。

第 10 章　おわりに

本論文では、会話調査からフィラーの分析を行った。その結果、フィラーは場つなぎ機能、談話標識機能以外に、待遇機能を有していることが判明した。ここまで来ると、フィラーにはまだ他にも重要な機能を持っているのではないかということが頭に浮かぶ。一体どのような機能をどれくらい持っているのだろうか。今後の研究に委ねるしかないだろう。

また、本論文を通して、日本語教育におけるフィラーの重要性についても認識するに至った。筆者は日本語学習者として、学校で日本語の単語、文章、文法などを習ったが、フィラーは習ったことがなかった。フィラーの存在に気が付いて、自然に身につけたのは日本語母語話者の自然談話をよく聞き、日本語母語話者と会話してきたからである。だが、多くの日本語学習者はフィラーを使用しているが、日本語母語話者のフィラーの使用と異なるところが少なくないようである。フィラーを適切に使用することができれば、より日本語らしく聞こえるということは、従来から指摘されてきたが、本論文ではさらにフィラーの待遇性という項目がそれに付け加わることになる。フィラーが待遇性を持っていることから、従来教えられてきた敬語表現の領域においては、「いらっしゃる」のような語彙的な表現だけでなく、フィラーも教える必要が出てきたのである。

近年、フィラー研究は盛んになっているが、様々な課題がまだ解明できていない状況である。また、フィラーのほとんどは、実質的意味のある感動詞、間投詞、指示詞などが本来の意味を失って転成してきた。そのため、フィラーの歴史的なプロセスを解明することも必要である。また、フィラー研究のアプローチでは言語学、談話研究だけではなく、社会学、認知言語学などの面からも行うべきである。これらは、筆者の今後の課題にしたい。

【参考文献】

【学術論文・著書】

伊佐早敦子（1953)「はなしことば序－不整表現を中心として－」『国語国文』22-3 pp.183-201 中央図書出版社

石川創（2010)「あいづちとの比較によるフィラーの機能分析」『早稲田日本語研究』19 pp.61-72 早稲田大学日本語学会

内田らら（2001)「会話に見られる「なんか」と文法化 :「前置き表現」の「なんか」は単なる口ぐせか?」『東京工芸大学工学部紀要』24(2) pp.1-9 東京工芸大学工学部基礎教育研究センター

蒲谷宏（2013)『待遇コミュニケーション論』大修館書店

―――・川口義一・坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店

川上恭子（1991)「「何か」の不定対象と文形式」『園田語文』6 pp.101-121 園田学園女子大学

――――（1992)「談話における「なにか」について」『園田語文』13 pp.73-82 園田学園女子大学

――――（1993)「談話における「まあ」の用法と機能（一）- 応答型用法の分類-」『園田国文』14 pp.69-78 園田学園女子大学

――――（1994）「談話における「まあ」の用法と機能（二）- 展開型用法の分類-」『園田国文』15 pp.69-79 園田学園女子大学

川田拓也（2008)「ポスター会話におけるフィラーと視線の同期について」『京都大学言語学研究』 27 pp.151-168 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

菊地康人（1997)『敬語』講談社

――――（2003)『朝倉日本語講座 8 －敬語－』朝倉書店

金珍娥（2013)『談話論と文法論－－日本語と韓国語を照らす』くろしお出版

久野暲（1978)『談話の文法』大修館書店

串田秀也（2005)「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」『言語』34-11 pp.44-51 大修館書店

魏春娥（2015)「談話におけるフィラー「ま(一)」の待遇差に関する予備的考察」『東アジア研究』13 pp.75-93 山口大学大学院東アジア研究科

小磯花絵他（2004)「転記テキストの仕様 Version1.0」『日本語話し言葉コーパス』国立国語研究所

小出慶一（1983)「言いよどみ」水谷修(編)『講座日本語の表現 3　話しことばの表現』pp.81-87 筑摩書房

北原保雄（監修)、荻野綱男(編集)(2003)『朝倉日本語講座<9>言語行動』朝倉書店

国立国語研究所（1955)『談話語の実態』国立国語研究所報告 8 秀英出版

――――――――（1957）『敬語と敬語意識』国立国語研究所報告 11 秀英出版
――――――――（1960）『話しことばの文型(1) ー対話資料による研究ー』国立国語研究所報告 18 秀英出版
――――――――（1963）『話しことばの文型(2)ー独話資料による研究ー』国立国語研究所報告 23 秀英出版
――――――――（1983）『談話の研究と教育Ⅰ』大蔵省印刷局
――――――――（1988）『談話の研究と教育Ⅱ』大蔵省印刷局
――――――――（1991）『副詞の意味と用法』日本語教育参考書 19 大蔵省印刷局
――――――――（2006）『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
佐久間鼎（1943）『現代日本語法の研究』更生閣（改定版(1952)：恒星社更生閣，複刻(1983)：くろしお出版）
定延利之（1993）「談話構造とフィラー」『日本語シンポジウム　言語理論と日本語教育の相互活性化　予稿集』津田日本語教育センター
――――（2002）「「うん」と「そう」に意味はあるか」定延利之(編)『「うん」と「そう」の言語学』pp.75-112 ひつじ書房
――――（2004）「日本語のりきみー準備の考察」『文法と音声』pp.35-52 くろしお出版
――――（2005）『ささやく恋人、りきむリポーター　口の中の文化』岩波書店
――――（2010）「会話においてフィラーを発するということ」『音声研究』14-3 pp.27-39 日本音声学会
――――（2011）「コミュニケーション研究からみた日本語の記述文法の未来」『日本語文法』14-3 pp.27-39 日本語文法学会
――――（2005）「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」『言語』34-11 pp.33-39 大修館書店
――――（2013）「フィラー」『日本語学』32-5 pp.10-25 明治書院
――――・田窪行則（1995）「談話における心的操作モニター機能—心的操作標識『ええと』と『あの(一)』—」『言語研究』108 pp.74-93 日本語言語学会
塩沢孝子（1979）「日本語の hesitation に関する一考察」F.C.パン編『社会言語学シリーズ ことばの諸相』2 pp.151-166 文化評論出版
杉戸清樹（1989）「ことばのあいづちと身振りのあいづち—談話行動における非言語的表現」『日本語教育』67 pp.48-59 日本語教育学会
泉子・K・メイナード（1993）『会話分析』くろしお出版
――――――――（1997）『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現性—』くろしお出版
――――――――（2013）「あいづちの表現性」『日本語学』32-5 pp.36-48 明治書院
ザトラウスキー・ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析ー勧誘のストラテジーの考察ー』くろしお出版
田窪行則（2005）「感動詞の言語学的位置づけ」『言語』34-11 pp.14-21 大修館書店

――――（2010）『日本語の構造ー推論と知識管理』くろしお出版
――――・金水敏（1997）「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』 pp.257-279 くろしお出版
時枝誠記（1953）「文章研究の要請と課題」『国語学』15 pp.1-12 日本語学会
冨樫純一（2002）「談話標識「まあ」について」『筑波日本語研究』7 pp.15-31 筑波大学文芸・言語研究科日本語語学研究室
――――（2005）「「へえ」「ほう」「ふん」の意味論」『言語』34-11 pp.22-29 大修館書店
――――（2013）「感動詞・応答詞」『日本語学』32-5 pp.26-35 明治書院
筒井佐代（2012）『雑談の構造分析』くろしお出版
寺村秀夫他編（1990）『ケーススタディ日本語の文章・談話』桜楓社
大工原勇人（2010）『日本語教育におけるフィラーの指導のための基礎的研究―フィラーの定義と個々の形式の使い分けについて―』博士論文
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/thesis/d1/D1004831.pdf （2014 年 10 月 1 日アクセス）
――――（2015）「「まあ」の強調的用法の生起条件」友定賢治(編)『感動詞の言語学』102 pp.97-113 ひつじ研究叢書 ひつじ書房
堤良一（2008）「談話中に現れる間投詞アノ(ー)・ソノ(ー)の使い分けについて」『日本語科学』23 pp.17-36 国立国語研究所 国書刊行会
辻村敏樹（1992）『敬語論考』明治書院
中島悦子（2011）『自然談話の文法ー自然談話の文法―疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞』おうふう
野村美穂子（1996）「大学の講義における文科系の日本語と理科系の日本語―『フィラー』に注目して―」『文教大学教育研究所紀要』5 pp.91-99 文教大学付属教育研究所
橋内武（1999）『ディスコース　談話の織りなす世界』くろしお出版
橋本進吉（1948)著作集『国語法研究』岩波書店
林四郎（2013）『文の姿勢の研究』ひつじ書房
林千賀（2006）「ディスコース・マーカー『なんか』の発達―意味の漂白化―」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』1 pp.39-51 昭和女子大学
堀口純子（1997）『日本語教育と会話分析』くろしお出版
文化審議会答申（2007）『敬語の指針』文化庁
益岡隆志（1997）『複文』くろしお出版
水谷信子（1983）「あいづちと応答」水谷修(編) 『講座日本語の表現 3　話しことばの表現』pp.37-44 筑摩書房
南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店
――――（1987）『敬語』岩波書店
――――（1993）『現代日本語文法の輪郭』大修館書店

森川結花（1991）「不定表現について――「なにか」を中心に――」『日本語・日本文化』17 pp.145-160 大阪外国語大学留学生別科・日本語学科
森田良行（1973）「感動詞の変遷」鈴木一彦・林巨樹(編)『品詞別日本文法講座接続詞・感動詞』pp.178-209 明治書院
森本郁夫（2013）「間・沈黙」『日本語学』32-5 pp.49-62 明治書院
森山卓郎（2000）『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房
山岡政紀・牧原功・小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現―日本語語用論入門』明治書院
ヤコブ L.メイ（1996）『ことばは世界とどうかかわるか』(沢田治美・高時・高司正夫訳）ひつじ書房
山下暁美（1990）「話し言葉におけるいわゆる“無意味語”」『講座日本語教育』25 pp.108-118 早稲田大学日本語研究教育センター
山根智恵（2002）『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版

Sacks, H., Schegloff, E. A., & Jeferson, G. (1974) A Simplest Systematics for the Organization of Turn-Taking in Conversation. *Language 50* (4), 696-735.

【辞典類】

亀井孝・河野六郎・千野栄一編（1996）『言語学大辞典 第 6 巻　術語編』三省堂

謝　辞

修士論文の「日本人と外国人日本語学習者の敬語使用に関する考察」は待遇表現に関わるテーマだった。待遇表現だけではなく、実質的な意味がないと言われるフィラーにも待遇性があるだろうという問題意識を抱いて、追求しようとするのが、拙論「談話におけるフィラー待遇の研究」だ。

博士論文を書き終えた今、何より感心したのは、指導教員の有元光彦先生のもとで、先生の熱心のご指導を受けながら、コツコツ研究する充実さだった。先生のゼミに入って、これまで研究領域や、研究方法の違いを知り、自分の幼稚さと浅学さを感じ、様々な言語学の著作を夢中に読み、先行研究をしっかり把握することから始めた。そして、先生の指導を受ける中で、先生と議論の中で、初めて研究の楽しさと面白さを実感した。勿論、研究の深化につれ、次々壁にぶつかり行き詰まって積極的に取り組んでのり越えて、また繰り返しの中、研究の大変さと辛さも心から痛感した。研究に携わる者の生活にはこのような日々が続くのだろう。

本論文を執筆にあたり、多くの方々のご指導、ご助言、ご協力を頂いた。とりわけ、3人の恩師、指導教員の有元光彦先生、副指導教員の吉村誠先生、村上林造先生に深く心より感謝を申し上げたい。また、論文の初稿を日本語のチェックをしてくださった日本人の友達に心から感謝の気持ちを表したい。会話調査に協力してくださった皆さんにも感謝したい、個人情報にかかわるため、ここでは皆さんの名前を割愛させていただく。お許しください。

最後に、支えてくれた家族に感謝したい。